

令和5年度

# 授業計画（シラバス）集



専門学校

柳川リハビリテーション学院

言語聴覚学科 1年

2023

# 目 次

## 言語聴覚学科

第1学年

### 【基礎分野】

頁

心理学	1
日本語学	2
教養基礎講座	3
生物学	4
統計学	5
英語 I (日常英語)	6・7
健康科学実践	8・9

### 【専門基礎分野】

医学総論	10
解剖学	11・12
生理学	13・14
病理学	15
内科学	16
耳鼻咽喉科学	17
精神医学	18
形成外科学	19
臨床歯科医学・口腔外科学	20
音声言語医学	21
聴覚医学	22
中枢神経機能学	23・24
臨床心理学	25
生涯発達心理学	26・27
言語学	28・29
音声学	30・31
音声情報処理学	32
聴覚心理学	33
言語発達学	34
リハビリテーション概論	35
保健医療福祉制度論	36

### 【専門分野】

言語聴覚障害学概論 I	37
言語聴覚障害学概論 II	38
成人言語障害学総論 I (基礎)	39・40
聴覚障害学総論	41

### 【選択必修分野】

関連職種連携演習	42
----------	----

科目名	心理学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	基礎	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間			
講師氏名	大坪 快					実務経験						
授業概要	人はどのようなことを考え、どのような行動をするのか、心理学の基礎的な理論を、教科書や資料を用いて解説する。											
到達目標	心理学の各領域の代表的な理論と知見を紹介し、また日常生活の身近な題材を活用して、人間行動の仕組みに関する認識を深め、心理学の基礎を習得する。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	心理学の輪郭 心理学の定義と歴史、研究方法、研究領域を概説する。								講義 大坪 快			
第2回	感覚と知覚 さまざまな知覚現象を紹介しつつ、人間が環境を認識するための知覚機能のメカニズムを説明する。								講義 大坪 快			
第3回	学習 経験を通じて、人間が行動を獲得するための学習の原理について説明する。								講義 大坪 快			
第4回	記憶と忘却 情報や知識に関する人間の記憶のメカニズムとその特徴について説明する。								講義 大坪 快			
第5回	空間行動 生活空間や対人距離に関する人間の認識にみられる特徴と、空間に対する人間の働きかけについて説明する。								講義 大坪 快			
第6回	発達 人間の発達に関して、身体・運動、認知能力、情動、社会性の側面からみた特徴を説明する。								講義 大坪 快			
第7回	自分らしさのなりたち 性格の捉え方に関するいくつかの理論的立場と、性格の測定法について説明する。								講義 大坪 快			
第8回	心の揺らぎと痛み こころの健康と適応、ストレスとその対処について説明する。								講義 大坪 快			
第9回	対人関係(1) 自己および他者に対する認知のあり方に関する研究知見と理論について説明する。								講義 大坪 快			
第10回	対人関係(2) 親密な対人関係の形成・発展・崩壊の過程について説明する。								講義 大坪 快			
第11回	対人行動(1) 他者を助ける援助行動に関して、その生起過程や類型を取り上げて説明する。								講義 大坪 快			
第12回	対人行動(2) 他者への依頼・説得という行動に焦点をあて、対人行動の特徴を説明する。								講義 大坪 快			
第13回	集団 集団が個人の行動に及ぼす影響と、集団間で生じる葛藤とその解決について説明する。								講義 大坪 快			
第14回	コミュニケーション コミュニケーションの基本原理を説明し、さらに対人コミュニケーションの過程に影響する諸要因について概説する。								講義 大坪 快			
第15回	まとめ 基礎的理論について、講義内容を振り返りながらまとめをする。								講義 大坪 快			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 参加状況 )											
成績評価基準	授業への参加状況(40%)と期末試験(60%)によって評価する。											
準備学習 学習への アドバイス	・講義内容は、周知した上で、シラバスの内容と変更することがある。 ・前回の講義で指示された教科書のページを読み、重要用語を中心に整理すること。 ・学習内容が日常生活にどのように結びついているか考えること。											
教科書	書籍名：生活にいかす心理学[ver.2] 古城和子(編著) 出版社：ナカニシヤ出版											
参考書												

科目名	日本語学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	芦刈 朝美					実務経験			
授業概要	今後の学習および言語聴覚士として必要な日本語の基礎、文章の書き方を習得する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口語文法のきまりを知り、「ら抜き言葉」や「れ足す言葉」が誤用であることが分かるようになる。</li> <li>・文章を読んで、要約文を書いたり自分の意見を付け加えたりできるようになる。</li> <li>・自分の書いた文章を集団の中で発表し合うことで、プレゼンテーション力を向上させる。</li> </ul>								
回 数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ シラバスを参照しながら授業の全体や流れを知る</li> <li>○ 自己の日本語力を確認し、口語文法を学ぶ目的を知る 「日本語診断テスト」により自己の文法力を自覚し、口語文法を学ぶ意義を再確認する。</li> </ul>								講義 演習 芦刈 朝美
第2回	<p>1章 文法の基礎</p> <p>ことばの単位を知り、文節の働きや文節相互の関係(6種類)を理解する。 文法を学ぶ上で必要な用語を理解する。</p>								講義 演習
第3回	<p>日本語が10品詞から成ることや、それぞれの品詞の定義を理解する。 10品詞を、品詞分類表に沿って分類できるようになる。 指示語や派生語・複合語について理解する。</p>								芦刈 朝美
第4回	<p>2章 名詞(体言) 3章 副詞・連体詞 4章 接続詞・感動詞</p> <p>名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞の性質、種類、用法を理解し、説明できるようになる。 類題・例題・実力完成問題を解くことにより、習得状況を確認する。</p>								講義 演習 芦刈 朝美
第5回	<p>5章 動詞</p> <p>動詞の性質、活用の種類、用法を理解し、説明できるようになる。活用表が書けるようになる。 自動詞・他動詞・可能動詞・補助動詞について理解する。</p>								講義 演習 芦刈 朝美
第6回	<p>6章 形容詞・形容動詞</p> <p>形容詞・形容動詞の性質、活用の種類、用法を理解し、説明できるようになる。活用表が書けるようになる。 例題や類題を解くことにより、習得状況を確認する。</p>								講義 演習 芦刈 朝美
第7回	<p>7章 助動詞</p> <p>助動詞の性質、活用の種類、用法を理解し、説明できるようになる。三要素のうち、特に意味を中心に理解する。 形容詞・補助形容詞・助動詞の「ない」の識別の仕方に注意する。</p>								講義 演習 芦刈 朝美
第8回	<p>8章 助詞</p> <p>多数ある助詞の中から重要なものをピックアップして、性質、種類、用法を理解し、説明できるようになる。 助詞は、1語で文意が変わることを理解し、助詞学習の重要性を理解する。</p>								講義 演習 芦刈 朝美
第9回	<p>9章 敬語</p> <p>敬語の意義や種類・用法を理解し、説明できるようになる。 類題・例題・実力完成問題を解くことにより、敬語の正しい使い方ができるようになる。</p>								講義 演習 芦刈 朝美
第10回	<p>1章 文法の基礎</p> <p>文の組み立てや文の成分の位置・倒置・省略について理解する。 文の成分を正しく照応させることができるようにする。</p>								講義 演習 芦刈 朝美
第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 豊かな日本語(ことわざ・慣用表現など)を身につける ことわざや故事成語、反対語、現代文重要語を知り、使うことができるようになる。 カタカナ語や慣用表現を学んで語彙力を増やす。</li> </ul>								講義 演習 芦刈 朝美
第12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 要約力を身につける 文章(新聞記事)の要約の仕方を理解する。 文章(新聞記事)を読んで、内容を要約する。</li> </ul>								講義 演習 芦刈 朝美
第13回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の意見を伝える力を身につける 新聞記事(資料やデータ)を読み取り、自分の意見を添えることができるようになる。 自分の意見を交えた新聞記事(要約)の紹介文を書く。</li> </ul>								講義 演習 グループ学習
第14回	<p>グループ内で新聞記事を紹介し合うことで、プレゼンテーション力を身につける。(スピーチコンテスト)</p> <p>グループ内の発表を相互評価する。</p> <p>グループの優秀発表者によるスピーチコンテストを行い、最優秀発表者を決定する。</p> <p>優秀発表者のプレゼンテーションや講評を踏まえて自己評価する。</p>								
第15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の内容や授業を振り返って、総括する</li> </ul>								芦刈 朝美
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 積極的態度 )								)
成績評価基準	定期試験(70%)、小テスト・提出物・態度(30%) 予定								
準備学習 学習への アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は決められた期限に提出すること。そのためには、自己のスケジュール管理を行い、計画的に学習・課題をすすめること。</li> <li>・日本語の基礎は、1年次「言語学」を学ぶうえで理解しておくべき内容なので、予習・復習を行い「言語学」の学習へつなげること。</li> <li>・文章の書き方やスピーチの仕方を学び、今後の学生生活(講義、実習など)に活かすこと。</li> </ul>								
教科書	くわしい 中学 国文法 (文英堂)								※ 教科書に書き込む場合もあるが、大学ノートを必ず準備すること。
参考書									

科目名	教養基礎講座					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	基 础	学 期	前 期	単位数	1 单位	時 間 数	30 時 間
講師氏名	福永 陽平 他					実務経験	言語聴覚士として臨床経験7年 リハビリテーション養成校にて授業経験15年		
授業概要	STを目指すうえでの心構えを養う。講義の聴き方、情報収集の仕方などについて学ぶ。								
到達目標	3年間の学生生活を有意義に送るための基礎を身に付けること、主体的に学んでいく姿勢を見つけることを目標にする。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	オリエンテーション ・講義の概要、目標について理解する。 ・言語聴覚士の資格および専門領域について理解する。								講義 岩崎 裕子
第2回	ICT教育初期講習会① ・個人情報保護法とパソコンの取り扱い ・学校生活と著作権								講義 古賀 遼平
第3回	ICT教育初期講習会② ・Zoomの活用法								講義 古賀 遼平
第4回	学習方法について ・本学科のカリキュラムについて理解する。 ・学習方法について理解する。								講義 永江 信悟
第5回	ICTを利用した学習方法 ・学内Wi-Fiの設定の仕方 ・LMS(学習管理システム)の使い方 ・使用コンテンツ(ビジュランクラウド等)の活用方法を理解する ・図書室で実際に文献を探してみよう								演習 古賀・福永
第6回	コミュニケーションの種類								講義 石原 浩二
第7回	コミュニケーションと人間関係								講義 石原 浩二
第8回	言語的・非言語的コミュニケーション								講義 石原 浩二
第9回	身体の動きからコミュニケーションを理解する								講義 石原 浩二
第10回	援助者の態度と技法								講義 石原 浩二
第11回	レポートの書き方① ・レポートとは何かを理解する。 ・レポートの構造を知る。								講義 清水 珠美
第12回	レポートの書き方② ・レポートを実際に書いてみる。								演習 清水 珠美
第13回	演習①言語聴覚士の仕事を理解し、臨床現場で必要とされる知識・技術・態度について考える。 ・言語聴覚士の臨床の実際について学ぶ。								演習 福永 陽平
第14回	演習②言語聴覚士の仕事を理解し、臨床現場で必要とされる知識・技術・態度について考える。 ・医療従事者として必要な知識・技術・態度について学ぶ。								演習 福永 陽平
第15回	演習③言語聴覚士の仕事を理解し、臨床現場で必要とされる知識・技術・態度について考える。 ・自らが目指す医療従事者像について考え、その実現に向けた目標を立てる。								グループ学習 福永 陽平
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	レポート課題50% 演習・グループワークへの参加および提出物50%								
準備学習 学習への アドバイス	学習方略、レポートの書き方、医療従事者としての態度など学んだことを今後の学校生活に活かしてほしい。								
教科書	授業の中で資料を配布する。								
参考書	初年次教育テキスト編集委員会編:フレッシュマンセミナーテキスト 大学新入生のための学び方ワークブック 東京電機大学出版局								

科目名	生物学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	基礎	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間			
講師氏名	世波 貴子					実務経験						
授業概要	医療に関する専門教科、科目を理解する上で必要となる、基本的な生物学の知識を習得する。特に、疾患の理解に不可欠な細胞学、微生物学、生理学分野を中心的に学ぶ。また、現在の生物学の中心であるDNAと遺伝のしくみに関する理解を深めるための講義を行う。											
到達目標	1 タンパク質、脂質等の生体物質の構造と基本的な特徴を理解し、説明できる。 2 細胞の構造と、細胞小器官の役割を理解し、説明できる。 3 DNAの構造と複製、遺伝子発現のしくみ、タンパク質との関連を理解し、説明できる。 4 酵素と代謝について理解し、説明できる。 5 細菌、ウイルス等の生物学的特徴と、疾患との関係を理解し、説明できる。 6 ニューロンによる伝導、伝達の原理と、神経系の機能を理解し、説明できる。 7 体液の組成、循環と、自律神経系と内分泌系を中心とした恒常性維持のしくみを理解し、説明できる。 8 免疫系と生体防御のしくみを理解し、説明できる。 9 主に遺伝子から見た生物進化について理解し、説明できる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	タイトル：生体を構成する物質 アミノ酸とタンパク質 脂質、炭水化物の基本構造と生体における役割								講義 世波 貴子			
第2回	タイトル：細胞の構造 生体膜の構造と浸透性の特徴 細胞小器官の役割								講義 世波 貴子			
第3回	タイトル：生物の分類 生物の系統分類 細菌、ウイルスの生物学的特徴と疾患との関係								講義 世波 貴子			
第4回	タイトル：DNAと遺伝のしくみ1 DNAの構造と複製 遺伝子発現とタンパク質の合成								講義 世波 貴子			
第5回	タイトル：DNAと遺伝のしくみ2 遺伝子と染色体、およびメンデル遺伝とその他の遺伝 突然変異と遺伝性疾病								講義 世波 貴子			
第6回	タイトル：代謝と酵素 代謝とATP、酵素の働き 呼吸の過程								講義 世波 貴子			
第7回	タイトル：ニューロンと神経系 ニューロンと静止電位の形成 興奮の伝導と伝達								講義 世波 貴子			
第8回	タイトル：神経系の構造 中枢神経系の構造 視覚と聴覚								講義 世波 貴子			
第9回	タイトル：筋肉と運動 筋肉の分類 骨格筋の構造と収縮のしくみ								講義 世波 貴子			
第10回	タイトル：体液と循環 体液の種類と組成 心臓と循環系								講義 世波 貴子			
第11回	タイトル：体液恒常性の維持 自律神経系と内分泌系 血糖量、体温、体液浸透圧の調節								講義 世波 貴子			
第12回	タイトル：排出 腎臓の構造 尿生成と体液恒常性								講義 世波 貴子			
第13回	タイトル：免疫 白血球の種類と働き 液性免疫と細胞性免疫								講義 世波 貴子			
第14回	タイトル：生態系と生物進化 生態系の構造 遺伝子から見た生物進化								講義 世波 貴子			
第15回	タイトル：講義のまとめ まとめの問題と解説								講義 世波 貴子			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	出席(20%)、期末試験(80%)											
準備学習 学習への アドバイス	高校で基礎生物のみ履修している場合は、専門生物の内容を参考書等で予習しておくことが望ましい。											
教科書	使用しない											
参考書	エッセンシャル キャンベル生物学原書6版(池内昌彦 他監訳)丸善出版 アメリカ版 大学生物の教科書 第1巻～第3巻 講談社 改訂版 大学1,2年生のためのすぐわかる生物 大森茂著 東京図書											

科目名	統計学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	井 稔					実務経験			
授業概要	統計学の基礎的、標準的な手法を理解し、保険医療統計学の常識的知識を学習する。 レポート作成や今後仕事でも使えるように、エクセルを使った分析を学習する。								
到達目標	統計学とはどのようなものか、数学が苦手な学生にも興味を持つてもらう。 期待値、標準偏差、正規分布、相関係数などの統計の基礎について説明ができる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	統計学とは:AIとの関係は?、主観と客観、記述統計と推測統計、標本の選び方								講義
第2回	量的変量、質的変量、期待値、ヒストグラム、相関係数								講義
第3回	平均値、中央値、箱ひげ図、分散/標準偏差								講義
第4回	重要な確率分布①:正規分布、95%信頼区間								講義
第5回	重要な確率分布②:正規分布、95%信頼区間								講義
第6回	統計的検定の基礎①:対立仮設、帰無仮説、有意確率、t検定、カイ二乗検定								講義
第7回	統計的検定の基礎②:対立仮設、帰無仮説、有意確率、t検定、カイ二乗検定								講義
第8回	【Excelを使った統計処理】度数分布表、ヒストグラムの作成								講義
第9回	【Excelを使った統計処理】平均値、分散/標準偏差、グラフ作成								講義
第10回	【Excelを使った統計処理】散布図、相関係数、回帰直線								講義
第11回	【Excelを使った統計処理】クロス集計表								講義
第12回	【Excelを使った統計処理】確率分布、区間推定								講義
第13回	【Excelを使った統計処理】仮設の検定①								講義
第14回	【Excelを使った統計処理】仮設の検定②								講義
第15回	【Excelを使った統計処理】重回帰分析								講義
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	レポート100%								
準備学習 学習への アドバイス	授業後の復習を重点的に行いましょう。 後半からはパソコン(Excel)を使った授業を行う予定です。								
教科書	独習 統計学24講 医療データの見方・使い方 (ISBN:978-4-254-12193-3) よくわかる統計学 看護医療データ編 (ISBN:978-4-489-02351-4)								
参考書	統計検定 ( <a href="https://www.toukei-kentei.jp/">https://www.toukei-kentei.jp/</a> )								

科目名	英語 I (日常英語)					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	基 础	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	【前期】栗本 聰 【後期】					実務経験						
授業概要	基礎レベルの英語を読む、書く、聞く、話すという演習を通じて、医療現場での英語コミュニケーション能力の土台を作る。第3回から第12回授業にかけて小テストを行い、語彙力を増強する。期末試験は自らトピックを選び、ドラフトを書き、それに基づく口頭発表を行うものとする。											
到達目標	医療従事者と患者間で発生するコミュニケーションの基礎力を養い、間違いを恐れずに英語を発話できるようになる。ペアワークを通じて相手の質問に答えたり、あるいは相手に対して適切な質問をすることができるようになる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	オリエンテーション、教科書構成の説明、予習方法、成績評価等を確認する。 自己紹介(英語で話してみる)								演習			
第2回	Situation 1 Introducing Yourself 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習			
第3回	Conversation 1 Jobs 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習			
第4回	Integrated Dialog – Introduce Yourself 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking								演習			
第5回	Conversation 8 Food you like 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習			
第6回	Focus 1 Do you like celery? 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習			
第7回	Integrated Dialog – Foods we like 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking								演習			
第8回	Focus 2 What did you do in Europe? 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習			
第9回	Conversation 2 Past Trips 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習			
第10回	Integrated Dialog – Past Travel Experiences 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking								演習			
第11回	Conversation 3 Around the City 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習			
第12回	Focus 3 What's a nice place to see the fall leaves? 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking								演習			
第13回	Integrated Dialog – Sightseeing recommendations 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking								演習			
第14回	実技試験(口頭発表)準備 実技試験(口頭発表)のためのドラフトを作成する Reading, Writing								演習			
第15回	実技試験(口頭発表) ドラフトに基づいた実技試験(口頭発表)を行う Listening, Speaking								演習			

第16回	Conversation 4 Today 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking	演習
第17回	Conversation 5 Your Day 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking	演習
第18回	Integrated Dialog – Things you did today 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking	演習
第19回	Situation 3 Chatting with Fellow Travelers 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking	演習
第20回	Situation 4 Making Small Talk on an Airplane 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking	演習
第21回	Integrated Dialog – Talking with Travelers 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking	演習
第22回	Situation 5 Asking about Hotel Facilities 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking	演習
第23回	Situation 2 Checking in at a hotel 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking	演習
第24回	Integrated Dialog – At the Hotel 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking	演習
第25回	Conversation 6 Relatives 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking	演習
第26回	Conversation 7 Family Members 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking	演習
第27回	Integrated Dialog – Talking about Family 既習内容に基づいて、一つの長い会話を作る Writing, Speaking	演習
第28回	Situation 6 Catching Up 英語の会話を聞き、そのパターンに基づいて応用会話の練習を行う Listening, Reading, Speaking	演習
第29回	実技試験(口頭発表)準備 実技試験(口頭発表)のためのドラフトを作成する Reading, Writing	演習
第30回	実技試験(口頭発表) ドラフトに基づいた実技試験(口頭発表)を行う Listening, Speaking	演習
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 挙手や発言、ペアワークへの積極的な参加を授業参加度として評価する )	
成績評価基準	小テスト(40%)、実技試験(30%)、授業参加度(30%)	
準備学習 学習への アドバイス	アプリを使って予習(次の単元の語彙を覚える、音声を聞き、発話する)を行い、次回の授業に臨んでください。	
教科書	『Challenger α 1』 ECC ¥3,960	
参考書		

科目名	健康科学実践					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	基 础	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	田中 利明					実務経験			
授業概要	健康と運動の関連性について学び、生涯にわたって日常的に健康づくりを実践するための演習と講義を行う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体運動を通じた健康保持・増進について理解する。</li> <li>・健康づくりに適した運動について学び、ルールや特性について理解する。</li> <li>・安全に気を配り、実践者の体力や能力に応じた強度や内容の運動プログラムが作成できる。</li> </ul>								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	<p>オリエンテーション、健康科学実践の概要理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康科学実践で学ぶ内容を理解し、生涯スポーツと健康について考える。</li> <li>・健康、体力、ストレスチェック等により自己分析を行い、自己の健康・体力に気づく。</li> </ul>								講義 演習
第2回	<p>自己の体力を知る1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を整えるウォーミングアップを実施する。</li> <li>・選択した新体力測定をグループで実施し、自己の体力分析を行う。</li> </ul>								演習 グループ学習
第3回	<p>自己の体力を知る2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力してウォーミングアップを考え実施する。</li> <li>・選択した新体力測定をグループで実施し、自己の体力分析を行う。</li> </ul>								演習 グループ学習
第4回	<p>体操の意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ体操第1やみんなの体操について学習する。</li> <li>・アレンジの要素を理解し、高齢者や障がい者を想定したアレンジメントに取り組む。</li> </ul>								演習 グループ学習 講義
第5回	<p>体つくり運動実践1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体ほぐし運動と用具を使った体力を高める運動を実施する。</li> <li>・用具を使った簡易ゲームに取り組む。</li> </ul>								演習 グループ学習
第6回	<p>体つくり運動実践2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチングの種類を知り、自分に合った運動を選択できる。</li> <li>・アレンジメントしたストレッチングを表現できるように繰り返し練習する。</li> </ul>								演習 グループ学習
第7回	<p>健康ウォーキング実践1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康ウォーキングの基礎①姿勢②歩幅、速度③歩行スピードと歩数・心拍数。</li> <li>・運動強度に合わせた実践ができているかを確認する。</li> </ul>								演習 講義
第8回	<p>ソフトバレー実践1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールや特性・運動強度を理解する。</li> <li>・ソフトバレーを通して簡易ゲームを体験する。</li> </ul>								演習 グループ学習
第9回	<p>ソフトバレー実践2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人、チームで練習メニューを組み立てる。</li> <li>・目標や作戦を立ててゲームに臨むことができる。</li> </ul>								演習 グループ学習
第10回	<p>ソフトバレー実践3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで目標を決め、役割を確認してゲームに取り組む。</li> <li>・練習やゲームを通してチーム内のコミュニケーション能力を高める。</li> </ul>								演習 グループ学習
第11回	<p>バレー実践1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスを中心とした個人の技術を学び、効果的な練習方法を学ぶ。</li> <li>・ラリーが続く楽しいゲームに取り組む。</li> </ul>								演習 グループ学習
第12回	<p>バレー実践2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を攻める技術を学び、戦術をたて工夫してゲームに取り組む。</li> <li>・自分たちでルールを決めたり、役割分担を決めてゲームを行う。</li> </ul>								演習 グループ学習
第13回	<p>バレー実践3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コートの広さを考慮して戦術をたて、工夫してゲームに取り組む。</li> <li>・バレーボールゲームを通して他とのコミュニケーション能力を高める。</li> </ul>								演習 グループ学習
第14回	<p>軽スポーツ実践1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卓球、バトミントン等において個の目標を決めて、運動を実践する。</li> <li>・コートの広さを考慮した練習や簡易ゲームを行う。</li> </ul>								演習 グループ学習
第15回	<p>軽スポーツ実践2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卓球、バトミントン等において個の目標を決めて、運動を実践する。</li> <li>・コートの広さを考慮した練習や簡易ゲームを行う。</li> </ul>								演習 グループ学習

第16回	健康ウォーキング実践2 ・健康ウォーキングの基礎①姿勢②歩幅、速度③歩行スピードと歩数・心拍数。 ・運動強度に合わせた実践ができているかを確認する。	演習 講義
第17回	ダンス創作1 ・ダンスピデオを元に体の動きを体感する。 ・チームでダンスを選び、動き作りを行う。	演習 講義 グループ学習
第18回	ダンス創作2 ・移動・方向・高さに変化を付けた動きづくりを心がける。 ・決められたダンスの要素や工夫した点を確認しながら練習に取り組む。	グループ学習
第19回	ダンス創作3 ・チームで協力して創作したダンスを習得する。 ・繰り返し練習を行い、完成度を高める。	グループ学習
第20回	ダンス創作4 ・自分たちで創作したダンスを発表する。 ・創作したダンスの鑑賞を行い、自分たちや他チームの作品を評価する。	グループ学習
第21回	バスケットボール実践1 ・シュートのスキルを身につけ、チームシュートの確立を高める。 ・バスケットボールを通してコミュニケーション能力を高める。	演習 グループ学習
第22回	バスケットボール実践2 ・チームのレベルに合わせて目標を設定する。 ・役割を分担して戦術を考え、実践する。	演習 グループ学習
第23回	バスケットボール実践3 ・勝つためのチーム目標を設定する。 ・戦術を考え実践し、個やチームの課題を見つける。	演習 グループ学習
第24回	ニュースポーツにふれよう1 ・ニュースポーツの種類を知り、運動実践する。 ・勝敗や得点の方法、内容やルールなどを決めて、簡易ゲームを行う。	演習 グループ学習
第25回	ニュースポーツにふれよう2 ・ニュースポーツの種類を知り、運動実践する。 ・勝敗や得点の方法、内容やルールなどを決めて、簡易ゲームを行う。	演習 グループ学習
第26回	ニュースポーツにふれよう3 ・ニュースポーツの種類を知り、運動実践する。 ・勝敗や得点の方法、内容やルールなどを決めて、簡易ゲームを行う。	演習 グループ学習
第27回	ニュースポーツづくり ・共生社会を見据え、健常者や高齢者及び障がい者を対象としたアダプティッドスポーツを考案する。 ・各チームで考案したニュースポーツを指導実践する。	演習 グループ学習
第28回	選択スポーツ実践1 ・実施可能なスポーツをチームで選択し、個やチームの目標を決めて、運動を実践する。 ・会場の広さを考慮した練習や簡易ゲームを行う。	演習 グループ学習
第29回	選択スポーツ実践2 ・実施可能なスポーツをチームで選択し、個やチームの目標を決めて、運動を実践する。 ・会場の広さを考慮した練習や簡易ゲームを行う。	演習 グループ学習
第30回	選択スポーツ実践3 ・実施可能なスポーツをチームで選択し、個やチームの目標を決めて、運動を実践する。 ・自分の運動やスポーツに対する姿勢について考える。	演習 講義
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 授業およびグループワークにおける主体的な取り組み )	
成績評価基準	レポート内容(30%)、実技(30%)、授業への主体的参加状況および取り組みに対する態度(40%)	
準備学習 学習への アドバイス	・演習が多いので出席することが非常に重要である。運動のできる服装やシューズ、タオル、マスク等を忘れないこと。 ・各自が、健康安全に十分留意し、他者に気を配り協働してよりよい雰囲気を創り上げることに心がける。	
教科書	必要に応じプリントを配布	
参考書	なし	

科目名	医学総論					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	15 時間			
講師氏名	福泉 寛					実務経験						
授業概要	医学について、総論的に講義し、理解することを授業の目的とする。教科書のほか、毎回作成した配布資料を用いて講義する。											
到達目標	学生は、毎回の授業内容を理解し、主な疾患と医学の関連について理解することができる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	1 医学総論で何を学ぶか/医学・内科学とは? 2 病気の症状・所見について 3 身体診察について								講義			
第2回	1 病気の原因について 2 内因と外因について 3 病気と栄養について								講義			
第3回	1 病気の診断・検査法について 2 病気の治療法について 3 病気の予後について								講義			
第4回	1 免疫について 2 アレルギーについて 3 自己免疫疾患について								講義			
第5回	1 感染症とは? 2 感染症と原因病原微生物(細菌、ウイルス、真菌など)について 3 新しい感染症について								講義			
第6回	1 腫瘍・がんとは? 2 がんの成因・浸潤・転移について 3 臓器によるがんの違いについて								講義			
第7回	1 生活習慣病とは? 2 メタボリックシンドロームについて 3 動脈硬化について								講義			
第8回	1 脳卒中脳血管障害について 2 脳卒中後遺症について 3 脳卒中の治療について								講義			
成績評価方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	定期試験100%											
準備学習 学習への アドバイス	毎回の授業について、予習を行い、質問事項をまとめておくこと。											
教科書	「はじめの一歩の病態・疾患学」:林 洋(編集)、羊土社											
参考書												

科目名	解剖学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	川久保 善智					実務経験						
授業概要	患者さんのリハビリを考える際には解剖学的な知識が欠かせません。 本講義ではヒトのからだの構造と、さらにそれらの機能について解説していきます。											
到達目標	基本的な人体構造の理解											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	解剖学総論 ・解剖学の定義								講義 川久保 善智			
第2回	骨格系の理解 ・骨学総論(骨の機能、形態、構造)								講義 川久保 善智			
第3回	骨格系の理解 ・骨学各論(頭蓋)								講義 川久保 善智			
第4回	骨格系の理解 ・骨学各論(体幹)								講義 川久保 善智			
第5回	骨格系の理解 ・骨学各論(上肢、下肢)								講義 川久保 善智			
第6回	筋系の理解 ・筋学総論(筋の機能、形態、構造)								講義 川久保 善智			
第7回	筋系の理解 ・筋学各論(頭、頸部)								講義 川久保 善智			
第8回	筋系の理解 ・筋学各論(背、胸、腹部)								講義 川久保 善智			
第9回	筋系の理解 ・筋学各論(上肢、下肢)								講義 川久保 善智			
第10回	神経系の理解 ・神経学総論(中枢神経の発生、脊髄)								講義 川久保 善智			
第11回	神経系の理解 ・中枢神経(脳幹、脳室系)								講義 川久保 善智			
第12回	神経系の理解 ・中枢神経(小脳、間脳)								講義 川久保 善智			
第13回	神経系の理解 ・中枢神経(終脳)								講義 川久保 善智			
第14回	神経系の理解 ・末梢神経(脳神経)								講義 川久保 善智			
第15回	神経系の理解 ・末梢神経(脊髄神経)								講義 川久保 善智			

第16回	神経系の理解 ・神経伝導路	講義 川久保 善智
第17回	循環器系の理解 ・心血管系	講義 川久保 善智
第18回	循環器系の理解 ・体循環系	講義 川久保 善智
第19回	呼吸器系の理解 ・咽頭, 喉頭, 気管, 気管支, 肺	講義 川久保 善智
第20回	消化器系の理解 ・消化管(口腔, 食道, 胃)	講義 川久保 善智
第21回	消化器系の理解 ・消化管(小腸～肛門), 肝臓, 胆囊, 脾臓	講義 川久保 善智
第22回	泌尿器系の理解 ・腎臓, 尿管, 膀胱, 尿道	講義 川久保 善智
第23回	生殖器系の理解 ・生殖器(男性)	講義 川久保 善智
第24回	生殖器系の理解 ・生殖器(女性)	講義 川久保 善智
第25回	内分泌系の理解 ・視床下部, 下垂体, 甲状腺 他	講義 川久保 善智
第26回	感覚器系の理解 ・視覚器	講義 川久保 善智
第27回	感覚器系の理解 ・平衡聴覚器	講義 川久保 善智
第28回	感覚器系の理解 ・嗅覚器, 味覚器, 皮膚	講義 川久保 善智
第29回	嚥下の機能解剖 ・嚥下に関わる骨と筋	講義 川久保 善智
第30回	発声の機能解剖 ・発声に関わる骨と筋	講義 川久保 善智
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	小テストと期末試験で評価する。	
準備学習 学習への アドバイス	解剖学では覚えるべき事柄が非常に多い。また、重層的な理解が必要になる。毎回講義を受けたら欠かさず復習を行いましょう。	
教科書	・人体解剖学 南江堂 ・ネッタ—解剖学アトラス原書第7版(電子書籍付) 南江堂	
参考書		

科目名	生理学					学 科	言語聴覚学科						
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	2 単位	時間数	60 時間				
講師氏名	森本 幸生					実務経験							
授業概要	生理学は解剖学とともに医学の体系の中では最も基礎となる領域である。解剖学では人体の構造を学ぶのに対して、生理学では人体の機能を学ぶ。病気の成り立ちを理解するためには、人体の正常な構造と機能に関する知識が必要であり、解剖学とともに生理学の正確な理解なしでは現代の医療は成り立たない。人体において営まれているさまざまな生命現象は、植物性機能と動物性機能の2つの群に大別される。本講義では、前期に血液・循環・消化吸收・代謝・排泄・内分泌といった生命を維持する基盤となる植物性機能を、後期に感覚・中枢神経・筋と骨・体温と代謝・生殖と発生・運動といった能動的生命活動の基盤となる動物性機能を後期に系統的に学ぶ。												
到達目標	1. 身体の階層性・ホメオスタシス・細胞の構造と機能を説明できる。 2. 神経の興奮伝導とシナプス興奮伝達のメカニズムを説明できる。 3. 自律神経を分類し機能を説明できる。 4. 血液の組成・機能と血液凝固・線溶のメカニズムを説明できる。 5. リンパ球による免疫のメカニズムを説明できる。 6. 血液の循環とその調節メカニズムを説明できる。 7. 消化器による食物消化と栄養吸収のメカニズムを説明できる。 8. 呼吸のメカニズムと肺におけるガス交換・血液によるガス運搬のメカニズムを説明できる。 9. 尿の生成メカニズムと腎尿・排尿のメカニズムを説明できる。 10. 酸塩基平衡にもとづきアシドーシスとアルカリーシスのメカニズムと代償機序を説明できる。 11. ホルモンの役割・種類・作用発現メカニズム・分泌調節メカニズムを説明できる。 12. 各内分泌腺から分泌されるホルモンの機能を説明できる。 13. 末梢神経を分類し機能を説明できる。 14. 感覚の適刺激・閾値・ウェーバーの法則を説明できる。 15. 感覚神経を分類し特徴を説明できる。 16. 関連痛について説明できる。 17. 視覚の情報受容メカニズムと伝導路・遠近調節・明暗順応を説明できる。 18. 聴覚・平衡感覚・味覚・嗅覚の情報受容メカニズムと伝導路について説明できる。 19. 中枢神経(大脳・脊髄)の各部位の機能を説明できる。 20. 脳の高次機能を分類し説明できる。 21. 脳脊髄液・血液脳関門について説明できる。 22. 骨格筋の構造と神経支配を説明できる。 23. 骨格筋・心筋・平滑筋の収縮メカニズムと興奮収縮連闇を説明できる。 24. 筋紡錘とゴルジ腱器官について説明できる。 25. 骨の構造・形成と吸收・成長と老化について説明できる。 26. エネルギー代謝・体温調節と発熱のメカニズムを説明できる。 27. 男性と女性の生殖機能を説明できる。 28. 受精・着床・胎児の発生を説明できる。 29. 分娩・授乳について説明できる。 30. 筋力・持久力・筋収縮のエネルギー源について説明できる。 31. 運動に伴う全身の変化を説明できる。 32. 筋力トレーニングと老化に伴う筋力の変化を説明できる。												
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名				
第1回	<b>【生命現象と人体】</b> 身体の階層性(細胞・組織・器官・器官系)、体内に含まれる水の役割とホメオスタシス(体内環境の維持メカニズム)について学ぶ。 <b>【細胞の構造と機能】</b>								講義 森本 幸生				
第2回	<b>【神経とシナプス】</b> 神経細胞の構造と興奮伝導、シナプスにおける興奮伝達について学ぶ。 <b>【自律神経】</b> 自律神経の構造と機能について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第3回	<b>【血液】</b> 血液の組成(血球成分・血漿)と機能(物質の運搬・生体防御・凝固溶解)について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第4回	<b>【血液】</b> 赤血球の形態・指標・役割・新生・破壊と貧血について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第5回	<b>【血液】</b> 白血球の分類と機能、身体の防御機構、血小板の形態と機能、血液凝固と線溶、血漿成分(電解質・グルコース・血漿タンパク質)について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第6回	<b>【心臓と循環】</b> 血液の循環(心臓の働き・全身の循環経路)、心臓の興奮(心筋細胞・活動電位・自動性・自律神経による調節・刺激伝導系)、心電図(導出法・電気的心軸・不整脈)について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第7回	<b>【心臓と循環】</b> 心臓による血液の拍出とそれによって生じる血圧、心周期(1回の心拍動)と心室の圧-容積関係、血圧の調節、微小循環(毛細血管)における物質交換、各臓器における循環、リンパ循環について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第8回	<b>【呼吸とガスの運搬】</b> 呼吸、気道(鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支)と肺胞(肺におけるガス交換の場)の構造と機能、呼吸運動(吸息・呼息・呼吸筋・補助呼吸筋)、呼吸気量(呼吸に伴って肺に入り出す空気の量)について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第9回	<b>【呼吸とガスの運搬】</b> 肺におけるガス交換と血液によるガスの運搬、呼吸の調節(呼吸中枢・化学受容器・肺の伸展受容器)について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第10回	<b>【尿の生成と排泄】</b> 腎臓の役割(尿の生成・内分泌機能)と構造(ネフロン・血流)、尿の生成(腎小体における血液の濾過・近位尿細管における再吸収と分泌・ヘンレーラープにおける間質浸透圧勾配の形成・集合管における尿の濃縮)について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第11回	<b>【尿の生成と排泄】</b> クリアランス(血液中を流れる物質が腎臓を通過することで除去される速度)・糸球体濾過量・腎血漿流量、排尿(排尿路・畜尿反射・排尿反射)、尿量・尿成分・排尿の異常について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第12回	<b>【酸塩基平衡】</b> 酸塩基平衡(血漿のpH調節・アシドーシスとアルカリーシス)について学ぶ。 <b>【消化と吸収】</b> 消化器の役割、咀嚼(歯の役割・口腔内消化)、嚥下、食道における食物輸送、胃の役割(貯蔵・消化・輸送・嘔吐)について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第13回	<b>【消化と吸収】</b> 十二指腸における消化(胆汁・胆汁)、空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸と肝臓の役割について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第14回	<b>【内分泌】</b> ホルモンの役割(体内環境のレベル変化・物質の血中濃度の調節・適応力の増進・本能行動の発現)、ホルモンの種類(化学構造と作用機序による分類)、ホルモン分泌の調節(促進/抑制ホルモンによる調節・負のフィードバック・自律神経による調節・神経内分泌反射・物質の血中濃度による調節・正のフィードバック)について学ぶ。								講義 森本 幸生				
第15回	<b>【内分泌】</b> 主要な内分泌腺(下垂体・視床下部・甲状腺・副甲状腺・副腎皮質・副腎髓質・胰臓・性腺)とその他の内分泌腺・内分泌細胞(胎盤・松果体・心臓・消化管・肝臓・腎臓・脂肪細胞)から分泌されるホルモンについて学ぶ。 <b>【授業全体のまとめ】</b> 生理学 I で学んだ重要ポイントをおさらいする。								講義 森本 幸生				

第16回	【末梢神経系】 末梢神経の分類・脳神経と脊髄神経について学ぶ。 【感覚】 適刺激と閾値・ウェーバーの法則・順応と体性感覚(皮膚感覚・深部感覚)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第17回	【感覚】 内臓感覚(臓器感覚・内臓痛覚)と特殊感覚(視覚)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第18回	【感覚】 特殊感覚(聴覚・平衡感覚・味覚・嗅覚)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第19回	【中枢神経系】 中枢神経系の構造(脊髄と脳・灰白質と白質)・中枢神経系の機能・中枢神経系を保護するメカニズムと脊髄(脊髄の構造・上行路と下行路)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第20回	【中枢神経系】 脊髄(脊髄反射)と脳幹(脳幹の機能・自律神経中枢・脳幹反射と脳死判定)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第21回	【中枢神経系】 小脳(小脳の機能・小脳への入出力・運動学習)／間脳(視床・視床下部)／大脳皮質について学ぶ。	講義 森本 幸生
第22回	【中枢神経系】 脳の高次機能(学習・記憶・随意運動・脳波・覚醒と睡眠)／大脳基底核と脳梁／辺縁系／脳室と脳脊髄液・血液脳関門について学ぶ。	講義 森本 幸生
第23回	【筋と骨】 骨格筋線維の種類・肥大と委縮・筋紡錘とGolgi腱器官・筋電図および心筋の興奮収縮連関・不応期・長さ・張力関係・収縮性について学ぶ。	講義 森本 幸生
第24回	【筋と骨】 骨格筋線維の種類・肥大と委縮・筋紡錘とGolgi腱器官・筋電図および心筋の興奮収縮連関・不応期・長さ・張力関係・収縮性について学ぶ。	講義 森本 幸生
第25回	【筋と骨】 心臓の機械的性質(血液の拍出と血圧・心周期)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第26回	【筋と骨】 心臓の機械的性質(心室圧・容積関係)・平滑筋の機能と収縮メカニズムおよび骨の構造・形成と吸収・成長と老化について学ぶ。	講義 森本 幸生
第27回	【体温と代謝】 栄養素と物質代謝・エネルギー代謝・体温について学ぶ。	講義 森本 幸生
第28回	【生殖と発生】 男性生殖機能(生殖器・精巣・製糸の形成と成熟・勃起と射精)・女性生殖機能(視床下部-下垂体系と女性生殖器・卵巣周期)について学ぶ。	講義 森本 幸生
第29回	【生殖と発生】 女性生殖機能(卵巣周期・子宮周期・卵の減数分裂)および受精・着床・胎児の発生について学ぶ。	講義 森本 幸生
第30回	【運動生理】 筋力と持久力・筋収縮のエネルギー源・運動に伴う全身の変化・トレーニング効果と筋力の加齢変化について学ぶ。 【授業全体のまとめ】 生理学Ⅱで学んだ重要ポイントをおさらいする。	講義 森本 幸生
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
成績評価基準	定期試験100%	
準備学習学習へのアドバイス	生理学は暗記しようとするのではなくメカニズム(縦横に紡がれた論理的なつながり)を理解するように努めれば自然に身につく学問です。授業の前には教科書や参考書をよく読んで理解し、授業の後には必ず復習して習った内容を説明できるようにしてください。また、理解できないことがあれば、授業中や授業の後に質問して解決してください。	
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 (岡田隆夫 鈴木敦子 長岡正範 医学書院)	
参考書	イラストでまなぶ生理学 第3版 (田中 越郎 (著) 医学書院)	

科目名	病理学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間			
講師氏名	谷川 雅彦 ・ 筒井 佳奈					実務経験						
授業概要	解剖学や生理学で人体の正常の構造と機能を学んだ後で、ここでは、病気の場合に、どのようになるのか、について教科書と私自身が作った画像を用いてお話しする。その後、自分で勉強しないといけない。高校とは違うのだということを、早く、認識すること。											
到達目標	病気の理り(ことわり)を学ぶ。すなわち、病気の原因と機序を学ぶとともに、その原因によって、体の器官・組織・細胞に、どのような病変が起こるか、続くか、治るのか、それは予防できないか、などについて学ぶ。これらについて、優れた教科書によって自己学習を行う。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	病理学の概要、病因を学習する。 ・ 病理学の概要、病気、病因、内因、外因、生活習慣病について、述べることができる。								講義 谷川 雅彦			
第2回	細胞・組織と障害、再生と修復を学習する。 ・ 細胞、基質、組織、増殖、分化、壊死、アポトーシス、萎縮、再生、肉芽組織、創傷治癒、線維芽細胞、肥大、過形成、化生について、述べることができる。								講義 谷川 雅彦			
第3回	循環障害を学習する。 ・ 充血、うつ血、出血、血液凝固、血栓、塞栓、梗塞、虚血、浮腫、ショック、高血圧、播種性血管内凝固症候群(DIC)について、述べることができる。								講義 谷川 雅彦			
第4回	炎症、免疫、アレルギーを学習する。 ・ 炎症、炎症微候、滲出、炎症細胞、白血球、ケモカイン、サイトカイン、リンパ球、マクロファージ、急性炎症、慢性炎症、発熱、化膿、肉芽腫、免疫、B細胞、T細胞、NK細胞、抗体、アレルギーの型、自己免疫性疾患について、述べることができる。								講義 谷川 雅彦			
第5回	感染症、代謝障害を学習する。 ・ 病原体、細菌、真菌、ウイルス、原虫、エイズ、日和見感染、高脂血症、糖尿病、痛風、肥満、メタボリック症候群について、述べることができる。								講義 谷川 雅彦			
第6回	老化、新生児、先天異常を学習する。 ・ テロメア、正期産、早産、新生児肺、ダウン症候群、ターナー症候群について述べることができる。								講義 谷川 雅彦			
第7回	腫瘍の総論を学習する。 ・ 癌細胞、癌組織、自律性、分化度、増殖と浸潤、再発、転移、血行性、リンパ行性、扁平上皮癌、腺癌、未分化癌、肉腫、悪性腫瘍、良性腫瘍について、述べることができます。								講義 谷川 雅彦			
第8回	循環器系疾患を学習する。 ・ 粧状動脈硬化症、プラーク、狭心症、心筋梗塞、心不全、脳卒中について、述べることができます。								講義 筒井 佳奈			
第9回	呼吸器系疾患を学習する。 ・ 肺水腫、喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺気腫、肺炎、肺結核、肺癌、たばこ癌、塵肺、アスペスト症、中皮腫について、述べることができます。								講義 筒井 佳奈			
第10回	消化器系疾患を学習する。 ・ 齧齒、食道癌、胃炎、H.ピロリ菌、胃潰瘍、胃癌、潰瘍性大腸炎、大腸癌、肝炎、黄疸、肝硬変、肝癌について、述べることができます。								講義 筒井 佳奈			
第11回	内分泌系を学習する。 ・ ホルモン、サイトカイン、バセドウ病、橋本病、クッシング症候群について、述べることができます。								講義 筒井 佳奈			
第12回	造血、腎、生殖器疾患を学習する。 ・ 貧血、白血病、腎炎、ネフローゼ症候群、膀胱癌、前立腺癌、子宮頸癌、内膜癌、筋腫、乳癌について、述べることができます。								講義 筒井 佳奈			
第13回	神経系疾患を学習する。 ・ 神経細胞、グリア組織、頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、硬膜下出血、脳炎、脳腫瘍などについて、述べることができます。								講義 筒井 佳奈			
第14回	運動器系疾患を学習する。 ・ 骨、軟骨、関節、靭帯、筋肉、腱、骨折、仮骨、虚血壊死、大腿骨頭壊死、骨粗しょう症、変形性関節症、関節リウマチ、関節強直、関節拘縮、肉ばなれ、筋萎縮、筋ジストロフィー、椎間板ヘルニア、捻挫、骨肉腫、軟部組織腫瘍について、述べることができます。								講義 筒井 佳奈			
第15回	まとめ								講義 谷川 雅彦			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	学期末に筆記試験100%											
準備学習 学習へのアドバイス	解剖学、組織学、生理学などを復習しておくこと。受講する人はしっかり勉強すること。											
教科書	渡辺照雄編、「カラーで学べる病理学」ヌーベルヒロカワ社、第5版、令和元年											
参考書												

科目名	内科学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	福泉 寛					実務経験						
授業概要	人体の生理学的な機能異常にに基づく代表的な疾患について、その成因、症状、診断、治療について概説する。											
到達目標	各疾患の病因・病態・身体所見・検査所見・治療法を説明できる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	内科学総論 病態・疾患の総論、症状と徵候、身体診察、臨床検査、臨床診断の基礎知識について解説する。								講義			
第2回	循環器疾患① 心臓の整理、検査法、高血圧、虚血性心疾患病因・病態を解説する。								講義			
第3回	循環器疾患② 心不全、先天性心臓病、心筋症等の病因・病態を解説する。								講義			
第4回	呼吸器疾患 気道・肺の炎症、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、肺がん等の病態を解説する。								講義			
第5回	消化器疾患 食道がん、胃食道逆流症(GERD)、胃潰瘍、胃がん、潰瘍性大腸炎、クロhn病等の病態を解説する。								講義			
第6回	肝臓疾患 ウイルス性肝炎、肝硬変、肝がん等の病態を解説する。								講義			
第7回	胆嚢疾患・脾臓疾患 胆石症、胆嚢炎、急性脾炎・慢性脾炎の病態を解説する。								講義			
第8回	腎臓疾患 急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、慢性腎臓病(CKD)等の病態を解説する。								講義			
第9回	内分泌疾患 下垂体の疾患、甲状腺機能亢進症、クッシング病、褐色細胞腫等の内分泌疾患の病態を解説する。								講義			
第10回	糖尿病 糖尿病の病態、合併症、治療について解説する。								講義			
第11回	代謝性疾患 肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症、ビタミン欠乏症の病態を解説する。								講義			
第12回	自己免疫疾患・アレルギー疾患 全身性エリテマトーデス、関節リウマチなどの自己免疫疾患、花粉症などのアレルギー疾患、AIDSなどの免疫不全症の病態を解説する。								講義			
第13回	血液疾患 貧血、造血器腫瘍、血小板減少症、血液凝固異常等の病態を解説する								講義			
第14回	神経疾患 脳卒中、アルツハイマー型認知症、パーキンソン病、脳腫瘍等の病態を解説する。								講義			
第15回	感染症 種々の病原微生物(細菌、ウイルス、真菌など)とそれによる感染症の病態について解説する								講義			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	定期試験100%											
準備学習 学習への アドバイス	毎回の授業について、予習を行い、質問事項をまとめておくこと。											
教科書	「はじめの一歩の病態・疾患学」:林 洋(編集)、羊土社											
参考書												

科目名	耳鼻咽喉科学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	久我 亮介					実務経験						
授業概要	耳鼻咽喉科領域の解剖と生理、疾患、治療について学習し、検査やリハビリについて学習する。											
到達目標	聴覚障害・構音障害・言語障害・音声障害・嚥下障害を理解するための基礎として、耳鼻咽喉科学について学習する。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	ガイダンス・耳科学 1.聴覚の構造と機能について理解する。 2.聴覚の評価と難聴について理解する。								講義 久我 亮介			
第2回	耳科学 1.聴覚障害について理解する。 2.耳の疾患について理解する。								講義 久我 亮介			
第3回	鼻科学 1.鼻・副鼻腔の構造・機能を理解する。 2.鼻・副鼻腔の疾患について理解する。								講義 久我 亮介			
第4回	口腔咽頭科学 1.口腔・咽頭の構造・機能を理解する。 2.口腔・咽頭の疾患について理解する。								講義 久我 亮介			
第5回	喉頭科学 1.喉頭の構造と機能について理解する。 2.喉頭の疾患について理解する。								講義 久我 亮介			
第6回	音声障害① 1.発声のしくみについて理解する。 2.嗄声の評価について理解する。 3.発声障害をきたす疾患について理解する。								講義 久我 亮介			
第7回	音声障害② 1.発声障害をきたす疾患について理解する。 2.音声障害のリハビリについて理解する。 3.音声障害のリハビリについて理解する。								講義 久我 亮介			
第8回	構音障害 1.構音のしくみを理解する。 2.構音障害をきたす疾患を理解する。								講義 久我 亮介			
第9回	嚥下障害 1.嚥下のしくみを理解する。 2.嚥下障害をきたす疾患を理解する。								講義 久我 亮介			
第10回	気管・食道科学 1.気管・食道の構造と機能について理解する。 2.気管・食道の疾患について理解する。 3.気管切開の適応と術後の影響を理解する。								講義 久我 亮介			
第11回	頸部の疾患 1.頸部の解剖について理解する。 2.頸部の良性腫瘍について理解する。								講義 久我 亮介			
第12回	頭頸部の悪性腫瘍 1.頭頸部の悪性腫瘍について理解する。								講義 久我 亮介			
第13回	音声言語のリハビリテーション								講義 久我 亮介			
第14回	復習								講義 グループ学習 久我 亮介			
第15回	復習								講義 演習 久我 亮介			
成績評価方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )								)			
成績評価基準	筆記試験(80%) その他(20パーセント)											
準備学習 学習への アドバイス	専門用語が沢山出てくるため、事前に教科書を読んでおく。解剖と生理について、自分で説明出来るように復習する。											
教科書	耳鼻咽喉科疾患ビジュアルブック 第2版 落合慈之監修 学研											
参考書	病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科											

科目名	精神医学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
講師氏名	奈良 直貴					実務経験	作業療法士として臨床経験8年、リハビリテーション養成校等にて教員経験30年		
授業概要	精神科領域における代表的な疾患について理解を深める。								
到達目標	精神障害者の日本における現状を理解する。 精神疾患の特徴や症状について理解する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	精神保健福祉法について 日本における精神障害者に対する処遇の歴史や現状について学ぶ								講義 奈良直貴
第2回	統合失調症について 統合失調症の特徴や症状について学ぶ								講義 奈良直貴
第3回	気分障害について うつ病相の特徴や症状について学ぶ								講義 奈良直貴
第4回	気分障害について うつ病相に対する基本的な対応方法について学ぶ 躁病相の特徴や症状について学ぶ								講義 奈良直貴
第5回	神経症性障害について 神経症性障害の分類について学ぶ 代表的な神経症性障害の特徴や症状について学ぶ								講義 奈良直貴
第6回	人格障害について 人格障害の分類について学ぶ 境界性人格障害の特徴や症状、対応方法について学ぶ								講義 奈良直貴
第7回	依存症について 依存症の分類について学ぶ アルコール依存症の特徴や症状について学ぶ								講義 グループ学習 奈良直貴
第8回	てんかんについて てんかんの分類と特徴について学ぶ 全体の総括を行う								講義 奈良直貴
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験100%								
準備学習 学習への アドバイス	心理学系の講義などの関連領域の専門用語を覚えておくこと。 授業で実施した内容を復習しておくこと。								
教科書	渡辺雅幸著:専門医がやさしく語るはじめての精神医学改訂第2版. 中山書店, 2015								
参考書									

科目名	形成外科学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
講師氏名	守永 圭吾 ・ 岩崎 裕子					実務経験	岩崎:言語聴覚士として臨床経験23年、リハビリテーション養成校にて授業経験13年		
授業概要	②形成外科分野で言語障害と関連する疾患について、言語聴覚士の関わりを含めて学習する。								
到達目標	②・口唇・口蓋裂による言語障害、口腔がんによる舌切除後の言語障害の基本的概念を説明できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	形成外科学総論、創傷治癒総論 ・形成外科について理解する。 ・形成外科の歴史を知る。 ・創傷治癒(1次治癒・2次治癒)について理解する。 ・肥厚性瘢痕・ケロイドおよび瘢痕拘縮について理解する。								講義 守永 圭吾
第2回	創傷治癒各論、皮膚腫瘍 ・遊離植皮と組織移植(皮弁・マイクロサーチェリー)について理解する。 ・熱傷、褥瘡、難治性潰瘍などの病態や治療について理解する。 ・皮膚の解剖および皮膚腫瘍の種類と治療について理解する。								講義 守永 圭吾
第3回	顔面外傷と顔面神経麻痺 ・顔面の解剖について理解する。 ・顔面外傷の病態と治療について理解する。 ・顔面神経麻痺の種類と治療について理解する。								講義 守永 圭吾
第4回	口唇・口蓋裂、頭蓋頸顔面の先天異常 ・口唇・口蓋裂の病態と治療について理解する。 ・頭蓋頸顔面の先天異常の代表的な症候群や顔面裂について理解する。								講義 守永 圭吾
第5回	頭頸部・頭蓋底再建、その他の再建 ・頭頸部・頭蓋底の組織欠損に対する機能的および形態的再建について理解する。 ・その他(乳房欠損や四肢外傷など)の再建手術について知る。								講義 守永 圭吾
第6回	形成外科学と言語聴覚士 ・器質性構音障害とは ・器質性構音障害の外科的治療 口唇口蓋裂①								講義 岩崎 裕子
第7回	形成外科学と言語聴覚士 ・器質性構音障害の外科的治療 口唇口蓋裂②								講義 岩崎 裕子
第8回	形成外科学と言語聴覚士 ・器質性構音障害の外科的治療 構音器官そのものに生じた外傷や腫瘍など ・まとめ								講義 岩崎 裕子
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	②定期試験(筆記)								
準備学習 学習への アドバイス	②・第1~5回の内容を復習しておくこと。								
教科書									
参考書	藤田郁代編:標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版 小嶋知幸編著:図解やさしくわかる言語聴覚障害								

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	大部 一成					実務経験			
授業概要	教科書の内容に沿ってスライドを用いて講義を行う。講義資料(プリント)を適宜配布する。								
到達目標	・口腔の仕組み(成り立ちと機能)を理解し、顎口腔領域に発生する疾患の概要を教授する。 ・摂食嚥下リハビリテーションと口腔ケアについて概要を教授する								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	1. 言語聴覚士の仕事と歯科口腔外科との関わりについて 2. 口腔の解剖、歯の発生、消化管としての口腔の機能(役割)								講義 大部 一成
第2回	1. 歯科医療の特徴 2. 医療面接(問診)の進め方 グループ学習の課題提示								講義 大部 一成
第3回	1. 歯を喪失する二大原因である、う蝕と歯周病についてグループ学習の発表会 ・グループ学習のあと、う蝕と歯周病の原因、症状、治療について解説								グループ学習 講義 大部 一成
第4回	1. 歯を保存できないときの方法(抜歯) 2. 咬合不正と顎変形症								講義 大部 一成
第5回	1. 歯性炎症、顎骨周囲の炎症								講義 大部 一成
第6回	1. 口腔粘膜疾患								講義 大部 一成
第7回	1. 先天異常、口唇裂、口蓋裂								講義 大部 一成
第8回	1. 腫瘍類似疾患、囊胞								講義 大部 一成
第9回	1. 口腔領域の外傷 2. 顎骨骨折の治療								講義 大部 一成
第10回	1. 顎関節疾患								講義 大部 一成
第11回	1. 歯原性腫瘍 2. 非歯原性腫瘍								講義 大部 一成
第12回	1. 顎口腔領域の悪性腫瘍 2. 唾液腺疾患								講義 大部 一成
第13回	1. 有病者の歯科治療(1)								講義 大部 一成
第14回	1. 有病者の歯科治療(2) 2. 加齢と口腔								講義 大部 一成
第15回	1. 摂食嚥下のメカニズム 2. 摂食嚥下リハビリテーション 3. 口腔細菌が全身に与える影響								講義 大部 一成
成績評価方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( グループ学習への取り組み )								
成績評価基準	グループ学習の評価(10%程度)と筆記試験(90%程度)による。場合により到達度を見るための小テストを行う。								
準備学習 学習への アドバイス	・教科書の内容を予習・復習すること								
教科書	喜久田利弘、楠川仁悟 編 「よくわかる歯科医学・口腔ケア」(医学情報社)								
参考書									

科目名	音声言語医学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	岩崎 裕子 ・ 福永 陽平 ・ 永江 信悟					実務経験	岩崎:言語聴覚士として臨床経験23年、リハビリテーション養成校にて授業経験13年 福永:言語聴覚士として臨床経験7年、リハビリテーション養成校にて教員経験15年 永江:言語聴覚士としての臨床経験7年、リハビリテーション養成校にて授業経験1年					
授業概要	音声言語医学と言語超学士の専門領域の基礎について学ぶ。											
到達目標	音声言語の基礎知識身につけ、国家試験に向けた学びについて理解することを目標とする。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	オリエンテーション								講義 岩崎 裕子			
第2回	音声言語医学と言語聴覚士:言語聴覚士の専門領域①								グループ学習 岩崎 裕子			
第3回	音声言語医学と言語聴覚士:言語聴覚士の専門領域②								講義 岩崎 裕子			
第4回	音声言語の基礎知識①								講義 岩崎 裕子			
第5回	音声言語の基礎知識②								講義 岩崎 裕子			
第6回	音声障害・構音障害								講義 福永 陽平			
第7回	流暢性障害								講義 福永 陽平			
第8回	言語発達障害								講義 岩崎 裕子			
第9回	中間テスト								講義 岩崎 裕子			
第10回	高次脳機能障害と失語症								講義 岩崎 裕子			
第11回	聴覚障害								講義 岩崎 裕子			
第12回	社会保障								講義 岩崎 裕子			
第13回	関連領域:摂食嚥下障害								講義 永江 信悟			
第14回	言語聴覚士を目指した学びについて								グループ学習 岩崎 裕子			
第15回	総括								講義 岩崎 裕子			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	定期試験50% 小テスト50%											
準備学習 学習への アドバイス	教科書を用いて予習・復習を行う。											
教科書	大森孝一他編著:言語聴覚士テキスト 第3版、医歯薬出版株式会社											
参考書	なし											

科目名	聴覚医学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	真子 知美					実務経験						
授業概要	テキスト・資料を用いて説明を行う。											
到達目標	聴器の構造・機能・病態についての基礎知識を習得する。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	音の性質と役割 1.音の性質について理解する。日常生活での音の役割を考える。 2.聴覚障害について知る。難聴の日常生活への影響を考える。								講義 グループ学習 真子 知美			
第2回	聴覚の構造と機能1 1.伝音系の構造を理解する。 2.伝音系の機能を理解する。								講義 真子 知美			
第3回	聴覚の構造と機能2 1.感音系の構造を理解する。 2.感音系の機能を理解する。								講義 真子 知美			
第4回	聴覚の検査① 1.標準純音聴力検査・語音検査について理解する。								講義 真子 知美			
第5回	聴覚の検査② 1.インピーダンスオージオメトリー・聴性誘発反応検査・耳音響反射・自己オージオメトリーなどについて理解する。								講義 真子 知美			
第6回	聴覚の検査① 1.乳幼児の聴覚検査について理解する。								講義 真子 知美			
第7回	聴器の疾患① 1.外耳・中耳の疾患について理解する。								講義 真子 知美			
第8回	聴器の疾患② 1.内耳・後迷路性疾患について理解する。								講義 真子 知美			
第9回	問題演習① 1.問題演習を通じてこれまでの復習を行う。								講義 真子 知美			
第10回	聴器の疾患③ 1.先天性難聴、難聴の遺伝について理解する。								講義 真子 知美			
第11回	聴器の疾患④ 1.平衡覚について理解する。2.平衡障害をきたす疾患について理解する。 3.顔面神経麻痺について理解する。								講義 真子 知美			
第12回	補聴器・人工内耳 1.補聴器について理解する。 2.人工内耳・人工中耳について理解する。								講義 真子 知美			
第13回	問題演習② 1.問題演習を通じてこれまでの復習を行う。								講義 真子 知美			
第14回	グループ学習 1.課題について各グループごとに発表する。								講義 グループ学習 真子 知美			
第15回	復習、試験対策								講義 演習 真子 知美			
成績評価方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )								)			
成績評価基準	筆記試験(80%) その他(20パーセント)											
準備学習 学習への アドバイス	初めての用語が沢山出てきます。教科書を音読して予習をしましょう。											
教科書	病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科											
参考書												

科目名	中枢神経機能学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	永江信悟 ・ 西田哲司					実務経験	永江:言語聴覚士としての臨床経験7年、リハビリテーション養成校にて授業経験1年 西田:言語聴覚士としての臨床経験7年、リハビリテーション養成校にて授業経験21年		
授業概要	中枢神経系と末梢神経系のしくみと働きについて学習する。								
到達目標	①脳の構造を立体的にイメージし、中枢神経系の構造を説明できる。②中枢神経及び末梢神経の働きを説明できる。③言語聴覚士の臨床に必要な神経系の障害を説明できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	神経系の全体像と大脳の構造(教科書;2-7頁) 中枢神経機能系と末梢神経系、神経の種類と情報伝達の方向、中枢神経系の構成、左右の大脳半球、脳の解剖(表面・矢状断) 灰白質と白質(交連線維と連合線維)、髓膜(硬膜・中膜・軟膜)、大脳錐・小脳テント・小脳錐								講義 西田哲司
第2回	神経細胞の働き ・ニューロンとグリア細胞(教科書;10-11頁) ・膜電位とシナプス伝達(教科書;12-21頁)								講義 西田哲司
第3回	大脳皮質(教科書;22-40頁) ・4つの葉の全体像、大脳新皮質の6層構造、Brodmannの皮質領野、優位半球 ・前頭葉、後頭葉、側頭葉、頭頂葉の全体像								講義 西田哲司
第4回	大脳辺縁系・大脳基底核 ・大脳辺縁系の全体像、扁桃体、海馬の構造、海馬による記憶形成、記憶の分類(教科書;40-42頁) ・大脳基底核(教科書;43頁)、大脳基底核による運動の調節(教科書;212-213頁)								講義 西田哲司
第5回	間脳・脳幹 ・間脳:視床、視床下部、視床下部-下垂体前葉のホルモン調節機能(教科書;44-45頁) ・脳幹の構造、脳幹の構成、脳幹毛様体(教科書;46-47頁)、脳神経核とは、脳神経核の位置(教科書;242-245頁)								講義 西田哲司
第6回	小脳・立体的に理解する脳の構造 ・小脳の構造、小脳皮質の機能的区分(教科書;48-49頁)、小脳による運動の調節(教科書;214-217頁) ・立体的に理解する脳の構造(教科書;50-55頁)								講義 西田哲司
第7回	運動と感覚(1) ・随意運動、運動の調節と実行、皮質脊髄路(錐体路)と皮質核路(皮質延髓路)(教科書194-197頁) ・運動麻痺と運動失調・不随意運動、運動麻痺の分類(教科書;198-199頁)、反射(教科書;208-211頁)								講義 西田哲司
第8回	運動と感覚(2) ・筋萎縮、筋トーナス(教科書;200-203頁)、筋トーナスの異常と診察方法、線維束性収縮(教科書;204-205頁) ・運動ニューロン障害による筋力低下の特徴(教科書;199頁)								講義 西田哲司
第9回	運動と感覚(3) ・感覚の種類、体性感覚の伝導路(教科書;218-221頁)、感覚障害(教科書;225-228頁) ・感覚系の診察(教科書;225-227頁)								講義 西田哲司
第10回	中枢神経を取り巻く環境 頭蓋骨を構成する骨(教科書;8-9頁)、脳動脈(教科書;56-64頁)、脳脊髄液(教科書;168-171頁) 脳ヘルニア(教科書;187-189頁)								講義 西田哲司
第11回	脳神経障害(1) ・脳神経の全体像(教科書;242-247頁) ・嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経(教科書;248-261頁)								講義 西田哲司
第12回	脳神経障害(2) ・三叉神経、顔面神経(教科書;262-267頁) ・ワレンベルグ症候群(教科書;100頁)								講義 西田哲司
第13回	脳神経障害(3) ・内耳神経(教科書;268-271頁) ・舌咽神経、迷走神経、舌下神経(教科書;272-274頁)								講義 西田哲司
第14回	脳神経障害(4) ・球麻痺と偽性球麻痺(教科書;275頁)、副神経(教科書;276-277頁) ・脳神経のまとめ(教科書;278-279頁)、摂食嚥下に関する脳神経								講義 西田哲司
第15回	前半総括								講義 西田哲司

第16回	第1回第2回の振り返り 項目: 神経系の全体像と大脳の構造について 項目: 神経細胞の働きについて	講義 永江 信悟
第17回	第3回の振り返り 項目: 大脳皮質について	講義 永江 信悟
第18回	第4回の振り返り 項目: 大脳辺縁系・大脳基底核について	講義 永江 信悟
第19回	第5回・第6回の振り返り 項目: 間脳・脳幹について 項目: 小脳・立体的に理解する脳の構造について	講義 永江 信悟
第20回	第7回・第8回・第9回の振り返り 項目: 運動と感覚について	講義 永江 信悟
第21回	第10回の振り返り 項目: 中枢神経を取り巻く環境について	講義 永江 信悟
第22回	第29回グループ発表に関するオリエンテーション 第29回の発表準備	グループ学習 永江 信悟
第23回	第11回・第12回・第13回・第14回範囲の振り返り① 項目: 脳神経障害について	講義 永江 信悟
第24回	第29回の発表準備	グループ学習 永江 信悟
第25回	第11回・第12回・第13回・第14回範囲の振り返り② 項目: 脳神経障害について	講義 永江 信悟
第26回	第29回の発表準備	グループ学習 永江 信悟
第27回	第11回・第12回・第13回・第14回範囲の振り返り③ 項目: 脳神経障害について	講義 永江 信悟
第28回	第29回の発表準備	グループ学習 永江 信悟
第29回	グループ発表 中枢神経機能学と専門科目の関連性を知り、学びを深める。	グループ学習 永江 信悟
第30回	第16回～第29回総括	講義 永江 信悟
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( グループ学習および発表による評価 )	
成績評価基準	筆記試験 90% グループ発表10%	
準備学習 学習への アドバイス	前期に行われた解剖学の神経系の復習をしてから受講して欲しい。	
教科書	病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版 MEDIC MEDIA. 2017	
参考書	馬場元毅著: 絵で見る脳と神経, 医学書院. 2017第4版第1刷	

科目名	臨床心理学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	稻吉 真美子					実務経験						
授業概要	・臨床心理学に関する基礎知識を学ぶ。 ・患者さんが抱える苦悩を理解し、コメディカルとしての支援のあり方を考える。											
到達目標	・心理アセスメントの意義・内容について説明できること。 ・各種心理療法を理解し、患者さんそれぞれに応じた対応姿勢を身に付けること。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	臨床心理学を学ぶ理由 臨床心理学とは何か								講義 稻吉真美子			
第2回	心理アセスメントを行う理由 心理アセスメントの方法								講義 稻吉真美子			
第3回	心理検査の注意点 代表的な心理検査①(特徴とその方法)								講義 稻吉真美子			
第4回	代表的な心理検査②(特徴とその方法)								講義 稻吉真美子			
第5回	心理療法(精神分析①)								講義 稻吉真美子			
第6回	心理療法(精神分析②) 心理療法(行動療法・認知行動療法①)								講義 稻吉真美子			
第7回	心理療法(行動療法・認知行動療法②) 心理療法(来談者中心療法①)								講義 稻吉真美子			
第8回	心理療法(来談者中心療法②) 心理療法(家族療法)								講義 稻吉真美子			
第9回	心理療法(森田療法) 心理療法(交流分析)								講義 稻吉真美子			
第10回	発達理論(発達とこころの問題)								講義 稻吉真美子			
第11回	発達障がいに対する支援方法								講義 稻吉真美子			
第12回	認知機能とは何か 認知機能のアセスメントと支援①								講義 稻吉真美子			
第13回	認知機能のアセスメントと支援②								講義 稻吉真美子			
第14回	臨床心理学の歴史と今後の展望								講義 稻吉真美子			
第15回	これまでの講義のまとめ								講義 稻吉真美子			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 学習意欲 )											
成績評価基準	定期試験90% + 学習意欲10% (講義中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は減点対象となります)											
準備学習 学習への アドバイス	事前にテキストを読み、予習しておく。 講義場面以外にも、医療・福祉関係の小説や映画・芸術活動に触れる機会を作り、当事者の方やご家族に対する理解を深める。											
教科書	「はじめての講義 リハビリテーションのための臨床心理学」 牧瀬 英幹 著 南江堂											
参考書	「リハベーシック 心理学・臨床心理学」 内山 靖・藤井 浩美・立石 雅子 著 医歯薬出版株式会社											

科目名	生涯発達心理学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	恒松 聰一朗					実務経験						
授業概要	前期は胎児期・乳幼児期・児童期の発達、後期は青年期・成人期・老年期の発達について生涯発達の視点から学ぶ。											
到達目標	人間の生涯にわたる発達に関して、精神的・身体的諸機能の発達的変容の概要を把握し、各時期の発達特徴を説明できる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	発達の定義を理解する ・発達の規定要因を説明できる。 ・発達の研究法を列挙できる。								講義 恒松 聰一朗			
第2回	発達理論を理解する① ・発達の理論(遺伝説、環境説、相互作用説)を説明できる。 ・ゲゼル、ピアジェ、ヴィゴツキーの人名と関連事項を説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第3回	発達理論を理解する② ・フロイトの発達段階を説明できる。 ・エリクソンの発達段階を説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第4回	胎児期、周生期の発達を理解する ・胎児の発生について説明できる。 ・胎児の運動・聴覚・視覚機能について説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第5回	乳児期の発達を理解する① ・新生児の発達について説明できる。 ・原始反射について列挙できる。								講義 恒松 聰一朗			
第6回	乳児期の発達を理解する② ・乳児の発達(運動・知覚・認知)について説明できる。 ・乳児の発達(対人・情緒、微笑、愛着)について説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第7回	乳児期の発達を理解する③ ・乳児の情緒発達について説明できる。 ・乳児の言語発達について説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第8回	幼児期の発達を理解する① ・自己理解の発達について説明できる。 ・思考の発達について説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第9回	幼児期の発達を理解する② ・遊びの発達、絵の発達について説明できる。 ・心の理論の発達について説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第10回	児童期の発達を理解する① ・知能と学習のメカニズムについて説明できる。 ・いじめ、虐待、不登校の問題について説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第11回	児童期の発達を理解する② ・道徳性の発達について説明できる。 ・社会的学習理論について説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第12回	発達障害を理解する① ・自閉症スペクトラムについて説明できる。 ・アスペルガー障害について説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第13回	発達障害を理解する② ・注意欠如多動症(ADHD)について説明できる。 ・学習症(LD)について説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第14回	発達障害を理解する③ ・発達性協調運動障害について説明できる。 ・知的障害について説明できる。								講義 恒松 聰一朗			
第15回	講義のまとめ ・講義のポイントを説明できる。 ・国家試験の傾向を知り、過去問を理解できる。								講義 恒松 聰一朗			

第16回	思春期の発達を理解する① ・思春期について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第17回	思春期の発達を理解する② ・社会の中での発達について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第18回	青年期の発達を理解する① ・青年期について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第19回	青年期の発達を理解する② ・アイデンティティの形成について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第20回	青年期の発達を理解する③ ・青年期の友人関係、恋愛について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第21回	成人前期の発達を理解する① ・成人前期の就職・結婚について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第22回	成人前期の発達を理解する② ・子育て、夫婦の関係について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第23回	成人後期の発達を理解する① ・ライフサイクルの変化について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第24回	成人後期の発達を理解する② ・成人後期におけるアイデンティティの危機について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第25回	老年期の発達を理解する① ・老年期の特徴について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第26回	老年期の発達を理解する② ・認知機能や知的能力の加齢変化について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第27回	老年期の発達を理解する③ ・老年期の心理面での特徴、適応について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第28回	老年期の発達を理解する④ ・死の受容、生きがいについて説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第29回	大人の発達障害を理解する ・大人の発達障害について説明できる。	講義 恒松 聰一朗
第30回	講義のまとめ ・講義のポイントを説明できる。 ・国家試験の傾向を知り、過去問を理解できる。	講義 恒松 聰一朗
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (出席状況、授業態度 )	
成績評価基準	定期試験100%	
準備学習 学習への アドバイス	必ず復習、予習をその日のうちに実行するように(短時間でよい)	
教科書	発達心理学15講-高橋 一公・中山 佳子	
参考書	子どものための精神医学 滝川一廣	

科目名	言語学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	高井 岩生					実務経験						
授業概要	授業は、配布資料とSTテキストに基づいて講義形式で行う。適時、グループワークを入れる予定である。 知識量を増やすというよりも、実践的に考えられるようになることを目指した授業活動を行いたい。											
到達目標	言語学の授業の目標は、日本語の文法、音声、表記体系についての基礎的な知識を身に付けることである。 臨床の現場では、それぞれの分野について、より専門的な知識が必要になるだろうが、その際に、独学が可能になる程度の知識を獲得してもらいたい。前期では、音声、表記を扱う。後期では、文法を扱う。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	言葉の規則 ・言語学の目標、言語学の考え方								講義 高井 岩生			
第2回	発声の仕組み ・言語の生得性、言語獲得、チョムスキーリ理論								講義 高井 岩生			
第3回	五十音図から見る日本語の音韻 同上								講義 高井 岩生			
第4回	撥音、促音、母音の無声化、子音の口蓋化 ・単音と音素								講義 高井 岩生			
第5回	音節とモーラ 同上								講義 高井 岩生			
第6回	プロソディー I (アクセント) ・音節とモーラ								講義 高井 岩生			
第7回	プロソディー II (イントネーション) 同上								講義 高井 岩生			
第8回	中間試験 ・自由/拘束形態素、二重分節性								講義 高井 岩生			
第9回	音声と文字の対応(平仮名、片仮名) 同上								講義 高井 岩生			
第10回	日本語の歴史(ハ行転呼、ア行とワ行の合流、など) ・語の内部構造								講義 高井 岩生			
第11回	和語、漢語、外来語の音韻的特徴 同上								講義 高井 岩生			
第12回	変音現象と形態素、異形態 ・活用の仕組み								講義 高井 岩生			
第13回	漢字について(音訓、吳音、漢音、唐音、漢字の成り立ち) 同上								講義 高井 岩生			
第14回	擬声語、擬態語の意味的、音韻的特徴 ・階層性、統合的関係と選択的関係								講義 高井 岩生			
第15回	まとめ								講義 高井 岩生			

第16回	文法性と容認性の違い。統語論の紹介 ・文の構造、語彙特性とレキシコン	講義 高井 岩生
第17回	品詞と活用変化Ⅰ(品詞の種類とその決定の仕方) 同上	講義 高井 岩生
第18回	品詞と活用変化Ⅱ(活用変化の仕組み) ・文法というメカニズム	講義 高井 岩生
第19回	形態素の復習と応用(語幹、語尾、接辞) 同上	講義 高井 岩生
第20回	格助詞と項名詞、修飾表現 ・文法と他の認知体系のモデル	講義 高井 岩生
第21回	述語と項名詞 同上	講義 高井 岩生
第22回	述語と修飾表現 ・文の意味と話し手の意図	講義 高井 岩生
第23回	中間試験 ・前提、文脈、論理的推論	講義 高井 岩生
第24回	述語の構造Ⅰ(ボイス) ・会話の含意、発話行為	講義 高井 岩生
第25回	述語の構造Ⅱ(アスペクト、テンス) 同上	講義 高井 岩生
第26回	モダリティの表現 同上	講義 高井 岩生
第27回	述語の意味特性から見たハトガ ・言語変種とそれを生み出す要因	講義 高井 岩生
第28回	推論と意味Ⅰ(取立て詞) ・自然言語の特徴	講義 高井 岩生
第29回	推論と意味Ⅱ(発話行為) ・日本語と他の言語との比較	講義 高井 岩生
第30回	まとめ	講義 高井 岩生
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	定期試験(100%)	
準備学習 学習への アドバイス	授業で説明する。	
教科書	使用せず。	
参考書		

科目名	音声学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	高井 岩生					実務経験			
授業概要	基本的には講義形式で行う。しかし、実技を伴う分野であるので、適時実技の訓練を行う。 また、授業内容を正しく理解しているかどうかを判断するため、適時授業内容についてプレゼンをしてもらう。								
到達目標	音声学は、言語音がどのように産出され、理解されるのかを研究する分野である。 本講義では、まず、単音産出のメカニズムを理解し、それぞれの単音を聞き取ることができるようになることを目指す。 次に、日本語のリズム、アクセント、イントネーションのように、いくつかの単音が集まつたときに起きた超分節的音声現象の理解を目指す。 国家試験対策としては、個々の単音の特徴と超分節音の機能を正しく把握することが最低限必要である。更に、臨床の現場でもこれらの知識を活用できることも目標とする。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	調音器官と発声器官 ・言語音の作られ方、調音、発声の仕組みの全体像を把握する。								講義 高井 岩生
第2回	子音 ・破裂音、鼻音の調音的特性を理解する。								講義 高井 岩生
第3回	同上 ・破裂音、鼻音の調音及び聞き分けが正しく行えるようになる。								講義 高井 岩生
第4回	同上 ・両唇音から歯茎硬口蓋音までの摩擦音の調音的特性を理解する。								講義 高井 岩生
第5回	同上 ・硬口蓋音から声門音までの摩擦音の調音的特性を理解する。								講義 高井 岩生
第6回	同上 ・摩擦音の調音及び聞き分けが正しく行えるようにする。								講義 高井 岩生
第7回	同上 ・接近音の調音的特性を理解する。								講義 高井 岩生
第8回	同上 ・接近音の調音的特性を理解する。								講義 高井 岩生
第9回	同上 ・日本語で使用する主な子音をIPAを使って書き取れるようになる。								講義 高井 岩生
第10回	同上 ・子音の聞き取りテスト								講義 高井 岩生
第11回	同上 ・IPAの書き取りテスト								講義 高井 岩生
第12回	母音 ・日本語の各母音の調音的特性を理解し、母音の発声の仕組みが分かるようになる。								講義 高井 岩生
第13回	同上 ・母音の無声化、口蓋化などの音声現象が起きる原因を理解する。								講義 高井 岩生
第14回	同上 ・母音と子音の違い、母音体系を理解する								講義 高井 岩生
第15回	まとめ								講義 高井 岩生

第16回	音節とモーラ ・音節構造についての知識を深める。音節にまつわる諸現象を分析できるようになる。	講義 高井 岩生
第17回	リズム ・フットという単位の必要性を理解し、モーラとの違いが分かるようになる。	講義 高井 岩生
第18回	同上 ・音節、モーラ、フットの各レベルのつながりが理解できる。ある音韻現象を観察して、どのレベルに関係する現象であるのかが判断できる。	講義 高井 岩生
第19回	アクセント ・標準語のアクセントの基本的な特性を復習し、アクセントにまつわる諸問題を押さえる。	講義 高井 岩生
第20回	同上 ・単純語の和語、漢語の名詞のアクセントの規則を理解し、アクセントのパターンが聞き分けられるようになる。	講義 高井 岩生
第21回	同上 ・複合語と外来語のアクセント規則を理解し、アクセントのパターンが聞き分けられるようになる。	講義 高井 岩生
第22回	同上 ・20回目と21回目の授業で学んだことを基にして、日本語の名詞のアクセントの体系が作れるようになる。	講義 高井 岩生
第23回	同上 ・動詞や形容詞のように、活用変化をする語のアクセントの規則を理解し、アクセントのパターンが聞き分けられるようになる。	講義 高井 岩生
第24回	イントネーション ・アクセントとイントネーションとの違いを復習し、イントネーション特有の特性を理解する。	講義 高井 岩生
第25回	同上 ・イントネーションにまつわる音韻現象と生理現象とが区別できるようになる。 ・イントネーションの音韻規則を理解する。	講義 高井 岩生
第26回	同上 ・文の構造とイントネーションのパターンの間に対応関係があることを理解する。 ・文の意味に基づいて、どのようなイントネーションのパターンが現れるかが予測できるようになる。	講義 高井 岩生
第27回	同上 ・発話意図とイントネーションの関係を理解する。 ・談話の流れに従って、イントネーションのパターンが変化していく仕組みを把握する。	講義 高井 岩生
第28回	総合復習 ・母音と子音の音声的特性と音韻的特性を復習し、日本人の音韻体系と音声体系とを正しく作ることができるようになる。	講義 高井 岩生
第29回	同上 ・言語学で学んだ文法システムの枠組みを前提として、フット、アクセント、イントネーションと統語構造との関係を確認する。	講義 高井 岩生
第30回	まとめ	講義 高井 岩生
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	定期試験(100%)	
準備学習 学習への アドバイス	授業で説明する	
教科書	「日本語音声学入門 改訂版」 斎藤純男 三省堂	
参考書		

科目名	音声情報処理学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間
講師氏名	増田 正彦					実務経験			
授業概要	音響音声学の基礎を学習し、サウンドスペクトログラムの読み取り方を学ぶ。								
到達目標	音の物理的性質、音声生成の仕組み、各言語音の特徴を説明できる。 サウンドスペクトログラムを読み取ることができる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	音波の基本的性質① 縦波・横波 音圧								講義 増田 正彦
第2回	音波の基本的性質② 周波数・周期・波長の計算								講義 増田 正彦
第3回	デシベル① 音圧レベルの計算								講義 増田 正彦
第4回	デシベル② 音の強さのレベルの計算								講義 増田 正彦
第5回	音波の数学的表现① 純音、複合音 周期的、非周期的								講義 増田 正彦
第6回	音波の数学的表現② スペクトル、スペクトログラム 狭帯域分析と広帯域分析								講義 増田 正彦
第7回	音波の生成① ソースフィルター理論(主に母音を対象として)								講義 増田 正彦
第8回	音波の生成② 共鳴の仕組み(主に母音を対象として) 子音の生成								講義 増田 正彦
第9回	母音の音響特徴 フォルマント								講義 増田 正彦
第10回	子音の音響特徴① 破裂音								講義 増田 正彦
第11回	子音の音響特徴② 摩擦音、鼻音、半母音								講義 増田 正彦
第12回	超分節音の音響特徴 アクセント、イントネーション								講義 増田 正彦
第13回	サウンドスペクトログラムの読み取り練習① 広帯域スペクトログラムを用いて母音のフォルマントを観察する。								グループ学習 増田 正彦
第14回	サウンドスペクトログラムの読み取り練習① 広帯域スペクトログラムを用いて子音の特徴を観察する。								グループ学習 増田 正彦
第15回	サウンドスペクトログラムの読み取り練習③ 狭帯域スペクトログラムやピッチ曲線を用いてアクセント・イントネーションを観察する。								グループ学習 増田 正彦
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	定期試験70%、小テスト30%								
準備学習 学習への アドバイス	数回に1回程度、小テストを行う。数式などが苦手な人も、小テストの範囲は必ず復習しておくこと。								
教科書	なし								
参考書	言語聴覚士のための音響学 今泉敏 医歯薬出版 言語聴覚士の音響学入門 吉田友敬 海文堂								

科目名	聴覚心理学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	藤井 忍					実務経験			
授業概要	・講義と演習を通して音のしくみを学ぶ。 ・人がどのように音を知覚しているかを学ぶ。								
到達目標	音のしくみを知り、人がどのように音を知覚しているか理解する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	音波の性質を理解する。 ・音波の基本的性質を理解する。 ・音の発生、伝搬など								講義 演習 藤井 忍
第2回	音波の性質を理解する。 ・波長、周期、周波数、縦波と横波 ・身近な音の波形変化を確認。								講義 演習 藤井 忍
第3回	音波の性質を理解する。 ・音の種類について説明ができる。 ・音に関する様々な現象を理解し、その分類ができる(共鳴、回折、反射、屈折、ドップラー効果など)。								講義 演習 藤井 忍
第4回	音の強さの尺度を理解する。 ・音の強さ・音圧・デシベル単位 ・音の強さのレベル・音圧レベル								講義 演習 藤井 忍
第5回	音の強さの尺度を理解する。 ・音の強さのレベル、音圧レベルの関係を理解する。 ・音圧レベルへのデシベル換算。								講義 演習 藤井 忍
第6回	音の周波数成分や分布について理解する。 ・スペクトルの意味を理解する。 ・各種ノイズの違いを把握する。								講義 演習 藤井 忍
第7回	音の周波数成分や分布について理解する。 ・身近な音のスペクトル変化の確認。								講義 演習 藤井 忍
第8回	音の心理的側面と物理的側面の関係を理解する。 音の三要素、聴覚閾値、可聴範囲について説明ができる。								講義 演習 藤井 忍
第9回	音の大きさの知覚について理解する。 ・等ラウドネス曲線について説明ができる。 ・ソーン尺度について説明ができる。								講義 演習 藤井 忍
第10回	音の大きさの知覚について理解する。 ・フェヒナーの法則、ウェーバーの法則、スティーブンのべき法則を理解する。 ・音の大きさの知覚について概説できる。								講義 演習 藤井 忍
第11回	音の高さの知覚について理解する。 ・オクターブ感覚、メル尺度について説明ができる。 ・短音の高さの知覚								講義 演習 藤井 忍
第12回	音の高さの知覚について理解する。 ・場所ピッチと時間ピッチの内容について説明ができる。・複合音の高さの知覚、バーチャルピッチを理解する。 ・音の高さの知覚について概説できる。								講義 演習 藤井 忍
第13回	マスキングについて理解する。 ・マスカー、マスキュー、マスキング量について説明ができる。・各種ノイズ(マスカー)の分類ができる。 ・臨界帯域、同時マスキング効果、経時マスキング効果について説明ができる。								講義 演習 藤井 忍
第14回	両耳聴効果について理解する。 ・両耳加算、音源定位、ハース効果、インテンシティ効果、両耳マスキングレベル差、カクテルパーティ効果 ・その他聴覚特徴(空耳、カテゴリー知覚、マガーケ効果、連続聴効果)。								講義 演習 藤井 忍
第15回	ま と め ・全般的復習による重要な再確認、他。								講義 演習 藤井 忍
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	定期試験(70%)・小テスト又はレポート(30%)予定								
準備学習 学習への アドバイス	日常聞いている音の大きさ・高さ・音色、それぞれの感覚で意識してみる。 音のしくみで学んだことを日常の音でイメージする努力で理解が深まる。								
教科書	ゼロからはじめる音響学(青木直史／講談社)								
参考書	聴覚心理学概論(B・C・J・ムーア著)								

科目名	言語発達学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間
講師氏名	結城 ルミ子					実務経験	言語聴覚士として臨床経験22年		
授業概要	定型的な言語発達の基礎研究、基礎知識を学びます。言語発達を支える大脳の仕組みを前提に、音韻論、統語論、形態論、意味論、語用論などの各分野から発達を見ていきます。配付資料による補足や、自学を勧める文献などの紹介も行います。								
到達目標	定型発達の言語発達を理解する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	言語発達の理論を理解する 言語発達の理論(学習論、生得論、認知論、社会認知論)を説明できる。								講義 結城ルミ子
第2回	前言語期のコミュニケーション発達を理解する 「3ヶ月微笑、8ヶ月不安、愛着」を説明できる。 「意図伝達段階、三項関係、指さし、象徴機能、社会的参照行動」を説明できる。								講義 結城ルミ子
第3回	養育者の語りかけの特徴と役割を理解する 「IDS、CDS、マザリーズ、ベビー・トーク」を説明できる。「発達の最近接領域」を説明できる。 絵本の読み聞かせの重要性について説明できる。								講義 結城ルミ子
第4回	言語発達と共同注意を理解できる 共同注意(joint attention)を説明できる。「叫喚音声、クーイング、過渡的喃語、基準喃語、ジャーゴン」を説明できる。								講義 結城ルミ子
第5回	音韻の発達を理解する 構音器官の解剖学的構造を説明できる。 「構音の発達、音韻プロセス」を説明できる。								講義 結城ルミ子
第6回	語彙の発達を理解する 「初語、過大汎用、ワードパーシャル、ボキャブラリースパート」を説明できる。								講義 結城ルミ子
第7回	児童期以降の言語発達を理解する 児童期以降の言語発達を説明できる。								講義 結城ルミ子
第8回	文法の発達を理解する 統語の発達を説明できる。								講義 結城ルミ子
第9回	文法の発達を理解する 形態面の発達を説明できる。								講義 結城ルミ子
第10回	語用論的側面から見た言語発達を理解する、談話構造の発達を理解する 語用論を説明できる。 談話構造を説明できる								講義 結城ルミ子
第11回	読み書きの発達を理解する プレリテラシー、リテラシーについて説明できる 読みの発達、書くことの発達を説明できる								講義 結城ルミ子
第12回	言語発達の生物学的基礎を理解する 言語発達を支える脳の発達を説明できる								講義 臨床経験
第13回	言語発達の知識から言語障害を理解する。 言語障害の特徴と現れ方を説明できる 言語障害の種類と評価について大枠を説明できる								講義 臨床経験 結城ルミ子
第14回	まとめ:言語発達の各期の様相を理解する(1) 前言語期の言語発達を説明できる。 幼児期の言語発達を説明できる								講義 臨床経験 結城ルミ子
第15回	まとめ:言語発達の各期の諸相を理解する(2) 学童期の言語発達を説明できる これまでのキーワードを整理する								講義 臨床経験 結城ルミ子
成績評価方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基 準	定期試験100%								
準備学習への アドバイス	テキスト該当箇所を読んで授業に臨んでください								
教科書	0歳～6歳子どもの発達と保育の本 第2版, Gakken保育Book								
参考書	岩立志津夫編:よくわかる言語発達学(改訂版).ミネルヴァ書房.								

科目名	リハビリテーション概論					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	古賀 遼平 その他					実務経験	言語聴覚士として臨床経験5年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年					
授業概要	リハビリテーションの理念、対象、流れ、評価とアプローチ等を学ぶ											
到達目標	「障害を持った人々が持てる能力を最大限に發揮し、人権が尊重され、生きがいを持った生活を送るように、障害者やその家族を中心に、共通の目標に向かってチームで援助するリハビリテーション」を理解する											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	第1~15回の概要について リハビリテーションの理念について学ぶ 教科書範囲:1)2-11 QOL、ノーマライゼーションの考え方を学ぶ 教科書範囲:1)7-8 リハビリテーションチームアプローチについて学ぶ 教科書範囲:1)2-11 国際障害分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF)の概要について学ぶ 教科書範囲:1)16-24 障害を持った人をどう理解し接するか 教科書範囲:1)25-29								講義 古賀 遼平			
第2回	機能障害の評価方法について学ぶ 教科書範囲:1)106-128 ADL評価(主としてBarthel Indexと機能的自立度評価尺度)についての概要を学ぶ 教科書範囲:1)129-152 医療現場における診療記録(カルテ)の意義について学ぶ								講義 古賀 遼平			
第3回	理学療法士の業務内容について学ぶ(※予習の参考として 教科書範囲:1)44-50)								講義 PT学科教員			
第4回	作業療法士の業務内容について学ぶ(※予習の参考として 教科書範囲:1)51-59)								講義 OT学科教員			
第5回	言語聴覚士の業務内容について学ぶ 教科書範囲:1)60-67 チームアプローチで連携する他職の業務内容について学ぶ 教科書範囲:1)68-104 言語聴覚障害の分類、原因について学ぶ、言語聴覚障害の発生率、有病率について学ぶ								講義 古賀 遼平			
第6回	急性期リハビリテーションについて学ぶ 教科書範囲:1)153-156 廃用症候群について説明できる リハビリテーションのリスク管理について学ぶ								演習 古賀 遼平			
第7回	回復期リハビリテーションについて学ぶ 教科書範囲:1)156-159 リハビリテーション実施計画書について学ぶ								講義 古賀 遼平			
第8回	維持期のリハビリテーションの役割について学ぶ 教科書範囲:1)159-163 地域リハビリテーションの目的について学ぶ 介護保険制度の概要について学ぶ 教科書範囲:1)164-173								講義 古賀 遼平			
第9回	障害の受容過程について学ぶ(※予習の参考として 教科書範囲:1)185-192)								講義 OT学科教員			
第10回	教育的リハビリテーションについて学ぶ 教科書範囲:1)12、174-184								講義 古賀 遼平			
第11回	職業的リハビリテーションについて学ぶ 教科書範囲:1)10-12								講義 古賀 遼平			
第12回	社会的リハビリテーションについて学ぶ 教科書範囲:1)12、228-235								講義 古賀 遼平			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	授業中の確認テストから50%、本試験を50%とする。											
準備学習 学習への アドバイス	教科書で各講義の範囲を必ず一読してから受講すること。 ※2年目に向けて自分から積極的に取組む 各講義毎の復習は必ず行う事。疑問点は極力残さず、質問等を活発に行うこと。 演習やグループ学習の機会では各自が積極的に発言をする事。											
教科書	1)天満 和人編:セラピストのための概説リハビリテーション(第2版). 文光堂、2018 2)その他配布資料あり											
参考書	ヴィジュランクラウドの映像資料や図書館の資料、放映されているTV番組などをよく参照し、リハビリに対して具体的なイメージを作ること。											

科目名	保健医療福祉制度論					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	専門基礎	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間
講師氏名	辻 雅善					実務経験			
授業概要	保健医療福祉制度(社会保障制度)とは、日常生活を困難に陥れるような出来事(病気・怪我・老齢・障害・失業等)に伴い生じる生活課題に対して、その解決や緩和を図るために制度及び施策のことである。この講義では、保健医療福祉制度の総論及び各論について扱い、保健医療の専門家として必要な知識を学ぶ。								
到達目標	1. 保健医療福祉制度(社会保障制度)の概要について説明できる。 2. 現代の保健医療福祉制度について自分の意見を述べることができる。 3. 医療保障の概要と課題について説明できる。 4. 所得保障の概要と課題について説明できる。 5. 社会福祉の概要と課題について説明できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	保健医療福祉制度(社会保障制度)の概要 1. 保健医療福祉制度(社会保障制度)の4本柱について 2. 保健・医療・福祉の近年の動向について								講義 グループ学習
第2回	国民医療費 1. 国民医療費の現状について 2. 国民医療費と地域医療構想の関連について								講義 グループ学習
第3回	医療保障 1. 国民皆保険制度について 2. 日本と世界の医療保険の違いについて								講義 グループ学習
第4回	介護保障 1. 後期高齢者(長寿)医療制度について 2. 介護保険制度について								講義 グループ学習
第5回	年金保険制度 1. 国民皆年金制度について 2. 年金給付の種類について								講義 グループ学習
第6回	労働保険制度 1. 労働者災害補償保険について 2. 雇用保険(失業保険)について								講義 グループ学習
第7回	公的扶助 1. 生活保護制度について 2. 公的扶助の種類について								講義 グループ学習
第8回	社会福祉 1. 社会福祉の法体系について 2. 社会福祉の各法律の特徴について								講義 グループ学習
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( グループディスカッション ・ プレゼンテーション )								
成績評価基準	定期試験60%、グループディスカッション・プレゼンテーション30%、小テスト10%								
準備学習 学習への アドバイス	授業後の復習を重点的に行うこと(60分以上)。授業のはじめに小テストを実施する。授業はグループディスカッション及びプレゼンテーションを中心に展開する。貢献度に応じて、加点または減点を考慮する。								
教科書	福田素生、他 著「社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 第21版」、医学書院、東京、2020.								
参考書									

科目名	言語聴覚障害学概論 I					学 科	言語聴覚学科		
年 次	1年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間
講師氏名	清水珠美 福永陽平					実務経験	清水:言語聴覚士として臨床経験16年、リハビリテーション養成校にて授業経験3年 福永:言語聴覚士として臨床経験7年、リハビリテーション養成校にて教員経験15年		
授業概要	言語聴覚障害の特性と種類、言語聴覚士の役割・専門性および言語聴覚療法の基本概念を修得する。								
到達目標	言語聴覚障害の定義を説明できる。 言語聴覚障害の特性を説明できる。 言語聴覚障害の種類を言語・コミュニケーション過程から説明できる。 言語聴覚士の役割と専門性を説明できる。 言語聴覚士に求められる資質と能力を説明できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	第1章 言語聴覚障害と言語聴覚士の役割 P1~								講義 清水珠美
第2回	第1章 言語聴覚障害と言語聴覚士の役割 P1~								講義 清水珠美
第3回	第2章 言語聴覚障害学とは P39~ 第3章 言語とコミュニケーション P43~								講義 清水珠美
第4回	第4章 言語・コミュニケーションとその生物学的基礎 ①言語音と産出機構 P53~								講義 清水珠美
第5回	第4章 言語・コミュニケーションとその生物学的基礎 ②飲み込みと摂食嚥下機構 P64~								講義 清水珠美
第6回	第4章 言語・コミュニケーションとその生物学的基礎 ③聽こえと聴覚機構 P73~								講義 清水珠美
第7回	第4章 言語・コミュニケーションとその生物学的基礎 ④言語と脳 P81~								講義 清水珠美
第8回	第5章 言語聴覚障害の種類 2 発声発語系 [1 音声障害] P120~								講義 福永陽平
第9回	第5章 言語聴覚障害の種類 2 発声発語系 [1 音声障害] P120~								講義 福永陽平
第10回	第5章 言語聴覚障害の種類 2 発声発語系 [2 発話障害] 器質性構音障害 P129~								講義 福永陽平
第11回	第5章 言語聴覚障害の種類 2 発声発語系 [2 発話障害] 機能性構音障害 P136~								講義 福永陽平
第12回	第5章 言語聴覚障害の種類 2 発声発語系 [2 発話障害] 運動障害性構音障害 P142~								講義 福永陽平
第13回	子どもとの関わり方								講義 清水珠美
第14回	低出生体重児との交流会①								演習 清水珠美
第15回	第5章 言語聴覚障害の種類 4 聴覚系 P172~								講義 福永陽平
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 交流会の感想 )								)
成績評価基準	定期試験90%、交流会等の感想10%								
準備学習 学習への アドバイス	授業後の復習を重点的に行うこと								
教科書	藤田郁代編:標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論【第2版】. 医学書院, 2019(2010)								
参考書	小嶋知幸編:図解 やさしくわかる言語聴覚障害 株式会社ナツメ社, 2016								

科目名	言語聴覚障害学概論Ⅱ					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専 門	学 期	前 期	単位数	1 单位	時 間 数	30 時間			
講師氏名	清水珠美 永江信悟					実務経験	清水:言語聴覚士として臨床経験16年、リハビリテーション養成校にて授業経験3年 永江:言語聴覚士としての臨床経験7年、リハビリテーション養成校にて授業経験1年					
授業概要	言語聴覚障害の特性と種類、言語聴覚士の役割・専門性および言語聴覚療法の基本概念を修得する。											
到達目標	各種言語聴覚障害の原因を概説できる。各種言語聴覚障害の主要症状を概説できる。 言語聴覚士の法的基盤を説明できる。言語聴覚士の職業倫理を説明できる。言語聴覚士の業務を説明できる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	第5章 言語聴覚障害の種類 3 摂食嚥下系 P160~								講義 永江 信悟			
第2回	第5章 言語聴覚障害の種類 3 摂食嚥下系 P160~								講義 永江 信悟			
第3回	第5章 言語聴覚障害の種類 1 言語・認知系 [1 失語症] P88~								講義 永江 信悟			
第4回	第5章 言語聴覚障害の種類 1 言語・認知系 [1 失語症] P88~								講義 永江 信悟			
第5回	第5章 言語聴覚障害の種類 1 言語・認知系 [2 言語発達障害] P98~								講義 清水珠美			
第6回	第5章 言語聴覚障害の種類 1 言語・認知系 [2 言語発達障害] P98~								講義 清水珠美			
第7回	第5章 言語聴覚障害の種類 1 言語・認知系 [3 高次脳機能障害に伴うコミュニケーション障害] P109~								講義 永江 信悟			
第8回	第5章 言語聴覚障害の種類 1 言語・認知系 [3 高次脳機能障害に伴うコミュニケーション障害] P109~								講義 永江 信悟			
第9回	第6章 言語聴覚療法 P187~								講義 清水珠美			
第10回	第7章 言語聴覚士の職務 P205~								講義 清水珠美			
第11回	第8章 言語聴覚障害分野がたどってきた道 P223~								講義 清水珠美			
第12回	講話								講義 清水珠美			
第13回	聴覚障害(施設見学) 佐賀県聴覚障害者サポートセンター施設見学会								講義 清水珠美			
第14回	低体重出生児との交流会② ・遊びを通して、低出生体重児とのコミュニケーションをとる。 ・保護者との交流で、心情を知る。								講義 清水珠美			
第15回	言友会との交流会 ・言友会との交流会を行い、吃音者の心情を知る。								講義 清水珠美			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 交流会等の感想 )								)			
成績評価基準	定期試験70%、小テスト10%、交流会等の感想20%											
準備学習 学習への アドバイス	授業後の復習を重点的に行うこと											
教科書	藤田郁代編:標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論【第2版】. 医学書院, 2019(2010)											
参考書	小嶋知幸編:図解 やさしくわかる言語聴覚障害 株式会社ナツメ社, 2016											

科目名	成人言語障害学総論 I (基礎)					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専 閔	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	福永 陽平 ・ 永江 信悟					実務経験	福永:言語聴覚士として臨床経験7年、リハビリテーション養成校にて教員経験15年 永江:言語聴覚士としての臨床経験7年、リハビリテーション養成校にて授業経験1年					
授業概要	成人の言語障害について、定義・病態・言語症状を学習する。											
到達目標	受講者全員が成人領域の言語障害(失語症・認知症)について具体的に説明できる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	失語症とは 失語症の定義、失語症の特徴、大脳の側性化								講義 永江信悟			
第2回	失語症の歴史 古典論の成立まで、言葉野の研究								講義 永江信悟			
第3回	脳のしくみと働き① 脳の区分、大脳皮質の機能局在、脳回と脳溝								講義 永江信悟			
第4回	脳のしくみと働き② 白質線維(連合線維、交連線維、投射線維)、脳の血管支配領域								講義 永江信悟			
第5回	失語症の原因疾患① ・脳血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)								講義 永江信悟			
第6回	失語症の原因疾患② ・脳外傷、脳腫瘍など								講義 永江信悟			
第7回	脳の中のことばの処理 言語モダリティ ・聴覚的理解、呼称、復唱、読解、音読、書称、書取 ・表出面、理解面にみられる症状								講義 永江信悟			
第8回	失語症に関する動画の視聴 1~7回までの振り返り								講義 永江信悟			
第9回	失語症候群① ・タイプ分類の指標、ベンソンの流暢性の基準 ・プローカ失語、ウェルニッケ失語								講義 永江信悟			
第10回	失語症候群② ・伝導失語、失名詞失語、超皮質性運動失語、超皮質性感覚失語								講義 永江信悟			
第11回	失語症候群③ ・混合型超皮質性失語、全失語								講義 永江信悟			
第12回	主要な高次脳機能障害① ・意識障害の重要度、注意機能の特性、脳損傷の一般効果								講義 永江信悟			
第13回	主要な高次脳機能障害② ・失行症、失認症、視空間性障害								講義 永江信悟			
第14回	主要な高次脳機能障害③ ・記憶障害の分類、前頭葉機能障害、病態無関心(病態失認)								講義 永江信悟			
第15回	主要な高次脳機能障害④ ・認知症の定義、症状、疾患別の特徴 9~15回までの振り返り								講義 永江信悟			

第16回	講義の流れについて理解する・マインドセット レポート課題提示	講義 福永陽平
第17回	かかわり行動について理解する。	演習 福永陽平
第18回	アクティブラシングについて理解する。	演習 福永陽平
第19回	質問することの意義を理解する。	演習 福永陽平
第20回	医療面接について理解する。 HDS-Rを理解する。	講義 福永陽平
第21回	HDS-Rを用いてインテーク面接ができる。	演習 福永陽平
第22回	3・3・3の法則を理解する。	講義 福永陽平
第23回	失語症の定義・タイプ別の病態・言語症状を説明できる	演習 福永陽平
第24回	代表的な失語タイプを演じることができる。	演習 福永陽平
第25回	失語症者的心情について理解できる。 レポート課題提示	演習 福永陽平
第26回	失語症と認知症の違いを説明できる。認知症者を演じることができる。	演習 福永陽平
第27回	HDS-Rの実施(失語症者と認知症者)	演習 福永陽平
第28回	成人領域の言語聴覚療法について理解する。 情報収集とスクリーニング	講義 福永陽平
第29回	スクリーニングテストを実施できる。	演習 福永陽平
第30回	鑑別診断について理解する。成人領域の検査、鑑別診断検査と掘り下げ検査、ICF分類。	講義 福永陽平
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
成績評価基準	前期50%(前期内訳:定期試験100%)、後期50%(後期内訳:定期試験80%・レポート評価20%)	
準備学習 学習への アドバイス	次回の講義に関して、講義内容をもとに推測し、自分なりの準備をする(60分程度) 授業で学んだこと、特に用語やその意味を説明できるように復習する。(60分程度)。	
教科書	言語聴覚障害学概論 第2版 標準言語聴覚障害学 (藤田郁代、北義子、阿部昌子編 医学書院)	
参考書	特になし	

科目名	聴覚障害学総論					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	専 閔	学 期	後 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間			
講師氏名	城丸 みさと					実務経験	言語聴覚士として臨床経験40年					
授業概要	聴覚障害の医学的基礎、検査や評価、聴覚保障、コミュニケーションの方法、難聴と言語発達の関係、支援の概要を学ぶ。											
到達目標	初学者が聴覚障害の基礎について全体像を把握できるようになることをねらいとする。 聴覚障害の概要、聴覚障がい児、者についての理解を深める											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	聴覚系の機能と構造を理解する ・聴覚系の構造について各部位や働きを説明する事ができる ・伝音系と感音系のそれぞれの障害の違いについて理解し説明する事ができる								講義 演習 城丸			
第2回	聴覚障がいの概要を理解する(グループワーク) ・聴覚障がいがライフステージによってどのような影響を及ぼすかを理解する。 ・小児期の先天性の聴覚障がいと後天性聴覚障がいの違いを理解する。								演習 城丸			
第3回	聴覚障がいの概要を理解する(グループワーク) ・聴覚障がいとはどのような障害かを講義で理解し、さらに理解を深めるために疑似体験をする ・コミュニケーションにおける聴覚機能の役割について理解し、説明する事ができる								講義 演習 城丸			
第4回	障がいの部位と難聴の種類について理解する(グループワーク) ・伝音性難聴と感音性難聴の代表的な疾患と症状について述べることができる ・伝音性、感音性、混合性難聴の特徴と検査結果によって診断、鑑別するポイントを理解する								講義 演習 城丸			
第5回	先天性難聴の原因と発症時期を理解する ・遺伝性難聴の特徴と代表的な疾患を述べることができる ・胎生期性難聴、周産期性難聴の特徴と代表的な疾患を述べることができる								講義 城丸			
第6回	後天性難聴の原因と発症時期を理解する ・後天性難聴の種類と特徴を述べることができる ・難聴のハイリスクファクターを述べることができる								講義			
第7回	難聴と言語機能について理解する(グループワーク) ・難聴者の発声、発音の特徴について理解し述べることができる ・難聴の程度による言語症状の違いについて理解し述べることができる								講義 演習 城丸			
第8回	聴覚障がい者とのコミュニケーションについて理解する ・聴覚障がい者の多様性とコミュニケーション手段について理解する ・様々なコミュニケーション手段を体験する								講義 演習			
第9回	聴覚障害の評価の概要を学ぶ ・聴覚検査の概要を理解する。他覚的聴力検査と自覚的聴力検査 ・他覚的聴力検査と自覚的聴力検査の方法を理解する								講義 演習 城丸			
第10回	乳幼児の初期支援について学ぶ(課題:母子手帳の確認) ・早期発見、新生児スクリーニングについて理解する ・早期発見後の支援の内容を理解し概要を説明する事ができる								講義 演習 城丸			
第11回	聴覚補聴器機器について学ぶ ・補聴器の簡単な構造、幼児期の適応について理解する ・人工内耳についての概要を理解する								講義 城丸			
第12回	聴覚障がい者への支援システムを学ぶ(要約筆記、パソコン通訳体験) ・成人聴覚障がい者の社会生活を知り、支援の概要を理解する ・手話、要約筆記等の支援方法を理解する								講義 演習 城丸			
第13回	学童期の支援を学ぶ ・聴覚特別支援学級、聴覚特別支援学校での支援内容を理解する ・中、軽度難聴についての課題を知る								講義 演習 城丸			
第14回	関係団体、福祉制度、重複障がいについて学ぶ(身体障害者手帳の等級理解) ・聴覚障がい者関係の団体について知る ・聴覚障がいに関する福祉の概要、身体障害者手帳等について理解する ・重複障がいの概要と支援概要を知る。								講義 演習 城丸			
第15回	当事者の体験から聴覚障がいを理解する ・体験談を聞く(本人からのメッセージをDVDを見て理解する) ・聴覚障がい者への関わり方(基本的なコミュニケーションのとりかた)を理解する								講義 演習 城丸			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	試験、レポート、授業態度等											
準備学習 学習への アドバイス	講義前にテキストに目を通し、新しい専門用語を予習しておくことを勧める。											
教科書	<input type="checkbox"/> 言語聴覚士テキスト <input type="checkbox"/> 病気が見える Vol.13 耳鼻咽喉科 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 授業・実習・国試に役立つ 言語聴覚士ドリルプラス											
参考書	<input type="checkbox"/> 配付資料											

科目名	関連職種連携演習					学 科	言語聴覚学科					
年 次	1年次	分 野	選択必修	学 期	後期	単位数	2 単位	時間数	90 時間			
講師氏名	福永 陽平 他					実務経験	言語聴覚士として臨床経験7年 リハビリテーション養成校にて授業経験15年					
授業概要	関連施設にて演習を行う。											
到達目標	医療・福祉の現場で対象者の様子に接し、身体的・心理的・社会的問題等を全体的に捉える。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療福祉に携わる者としての態度を身に付ける。</li> <li>・様々な介護体験を通して、障害の多様性を知る。</li> <li>・障害者が持つ様々な問題について全人的に捉えることができる。</li> <li>・対象者及び家族と適切な関わりができる。</li> <li>・施設職員と円滑にコミュニケーションがとれるようになる。</li> <li>・問題解決型の思考、行動ができる。</li> <li>・職業倫理を理解し、守秘義務を遵守する。</li> <li>・実習内容を生活に記録することの重要性を知る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">演習</p>											
	<p style="text-align: center;">* 関連施設の状況等によって授業内容が変更する可能性がある。</p>											
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	演習施設での評価と学院点を総合的に加味して評価する。											
準備学習 学習への アドバイス	目的意識を持って演習に臨むこと。											
教科書	適宜、資料を配布する。											
参考書												

令和5年度

# 授業計画（シラバス）集



専門学校

柳川リハビリテーション学院

言語聴覚学科 2年

2023

# 目 次

## 言語聴覚学科

### 第2学年 【基礎分野】

英語Ⅱ(医学英語) ..... 1・2

### 【専門基礎分野】

小児科学 ..... 3

リハビリテーション医学 ..... 4

臨床神経学 ..... 5・6

学習・認知心理学 ..... 7・8

心理測定法 ..... 9・10

### 【専門分野】

言語聴覚障害診断学Ⅰ ..... 11

言語聴覚障害診断学Ⅱ ..... 12

成人言語障害学総論Ⅱ(応用) ..... 13

失語症学 ..... 14

失語症学特論 ..... 15

失語症学特論演習 ..... 16

高次脳機能障害学Ⅰ ..... 17・18

高次脳機能障害学Ⅱ ..... 19

小児言語障害学総論Ⅰ(基礎) ..... 20・21

小児言語障害学総論Ⅱ(応用) ..... 22・23

言語発達障害学 ..... 24

言語発達障害学演習 ..... 25

言語発達障害学特論 ..... 26

言語発達障害学特論演習 ..... 27

音声障害学 ..... 28

運動性構音障害学 ..... 29・30

運動性構音障害学演習 ..... 31

器質性構音障害学 ..... 32

機能性構音障害学 ..... 33

摂食・嚥下障害学Ⅰ(基礎) ..... 34

摂食・嚥下障害学Ⅱ(応用) ..... 35

吃音学 ..... 36

聴覚機能評価学 ..... 37・38

小児聴覚障害学Ⅰ(基礎) ..... 39

小児聴覚障害学Ⅱ(応用) ..... 40

成人聴覚障害学 ..... 41

### 【選択必修分野】

言語聴覚障害評価学 ..... 42

科目名	英語 II (医学英語)					学 科	言語聴覚学科					
年 次	2年次	分 野	基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	脇坂 多恵					実務経験						
授業概要	現在AIによる翻訳もかなり改善されてきたが、未だ人間のように文章を理解することは難しく限界がある。英語の単語を学び、英文を理解できるようになることで、世界の最新の言語聴覚関連の情報を知ることができる。このように将来的に臨床の中でより良い治療に活用するために、まずは英単語の基本構造から医療関連の基本語彙を修得する。											
到達目標	言語聴覚士に必要な医学および関連する英単語を学び、臨床にて使われる用語を習得する。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	基本的な英語の単語のパートを知る。 ・日本語と英語の違いを確認する。・英語の単語の構成を確認する。 ・語源の理論を理解する。(prefixs/root words/suffix)								講義 脇坂多恵			
第2回	科学関連の主な接頭辞を学ぶ。 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第3回	形容詞で連想する語を学び修得する。 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第4回	1文字の漢字で連想する語を修得する。 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第5回	2文字の漢字で連想する英単語を修得する。 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第6回	2文字の漢字で連想する英単語を修得する。 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第7回	動詞で連想する英単語を修得する。① ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第8回	動詞で連想する英単語を習得する。② ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第9回	接尾辞的に使う語根を修得する。 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第10回	数に関する接頭辞を修得する。 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第11回	人体組織の主な単語を修得する。 脳・神経・心、血管 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第12回	人体組織の主な単語を修得する。消化器、呼吸器、耳鼻咽喉科 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第13回	人体組織の主な単語を修得する。頭部、口腔、皮膚、関節 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第14回	人体組織の主な単語を修得する。細胞組織、物質、人、症状、病変 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。								講義 脇坂多恵			
第15回	グループ発表( <a href="https://www.kidsnews.com.au">https://www.kidsnews.com.au</a> より記事を一つ選択しまとめて発表する) ・グループワーク(講義毎に少しずつ文献収集、読解、まとめの時間を設ける) ・各グループの文献を理解し、質問、ディスカッションを行う。								講義 脇坂多恵			

第16回	英文読解の基本を理解する。 ・基本的な英語の語順、文章構造を理解する。・英文読解の要素を知る。 ・意味上のかたまりの把握の方法を知る。	講義 脇坂多恵
第17回	SNSなどを利用した必要な情報の収集の方法を習得する。 ・意味と情報の「ブロック」を知る。・一般的にSNSで使用される略語を知る。 ・ネット検索(文献)の方法を知る。	講義 脇坂多恵
第18回	成人言語障害に関する英単語を学ぶ。 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第19回	成人言語障害についての英単語を理解する。① ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第20回	成人言語障害についての英単語を理解する。② ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第21回	成人言語障害についての英単語を理解する。③ ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第22回	小児の言語発達障害についての英単語を理解する。① ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第23回	小児の言語発達障害についての英単語を理解する。② ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第24回	聴覚障害についての英単語を理解する。 ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。 ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第25回	医学および言語聴覚士に関する英語のまとめ① ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第26回	医学および言語聴覚士に関する英語のまとめ② ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第27回	医学および言語聴覚士に関する英語のまとめ③ ・学んだ接頭辞をドリルに書き込んでいく。・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第28回	STIに関する英略語① ・学んだ単語をドリルに書き込んでいく。(失語症・高次脳機能障害・認知症) ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第29回	STIに関する英略語② ・学んだ単語をドリルに書き込んでいく。(嚥下障害・dysarthria・聴覚障害) ・学んだ単語の問題を解いて復習をする。	講義 脇坂多恵
第30回	グループ発表(STIに関する英語の学術文献) ・グループワーク(講義毎に文献収集、読解、まとめの時間を設ける) ・各グループの文献を理解し、質問、ディスカッションを行う。	講義 脇坂多恵
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (英語文献発表)	
成績評価基準	期末試験(90%)、発表(10%)	
準備学習 学習への アドバイス	講義毎に配布する資料を使用して講義をすすめる為、必ず配布された資料は持参すること。講義中、不明な部分や、理解できない部分はどんどん質問してほしい。また、YouTubeやVTRなどの教材も使用するため、講義終了後に資料と照らし合わせて、あるいは動画を再生して知識として定着させてほしい。特にAmerican Speech-Language-Hearing Association (ASHA)のホームページからの教材も使用するため、1回は開いて見ることを勧める。また、講義中に視聴するネット動画等は復習のためにもう一度確認することをお勧めする。	
教科書	特になし(あれば英和辞書あるいは電子辞書)	
参考書	語源で増やすサイエンス英単語(清水健二著、ペレ出版、2015):科学全般の英単語の語源を説明している。 キクタンメディカル1.人体の構造編(高橋玲、アルク、2010):基本的な英単語が学べる。 ことばと聞こえの解剖学(ジョンM.パーマー著、学苑社、2001):古いがSTIに必要な専門知識が英語で載っている。	

科目名	小児科学					学科	言語聴覚学科					
年次	2年次	分野	専門基礎	学期	前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	濱本 邦洋					実務経験						
授業概要	小児科学をりかいするために、発達や病気の写真、巢表を多く用いスライドで講義し、その資料や教科書を利用し説明する。											
到達目標	(1)小児の発育・発達を理解する。(2)成長に伴っておこる疾病全般を理解する。特にリハビリテーションの対象となりやすい脳性麻痺、神経筋疾患等の神経疾患に関しては、その病態、経過、転機を理解する。(3)障害をもった子どもと親の心情を理解し、その対応の仕方を取得する。											
回数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名			
第1回	小児の特徴と発育:成長・発達とその評価 1. 乳児および幼児の正常な発育/発達を理解し、key年齢(4ヶ月、1歳、1歳6ヶ月、3歳)での発育と発達について説明できる 2. 乳児の代表的な原始反射、姿勢反射について説明できる								講義 濱本 邦洋			
第2回	細菌/ウイルス感染症(特に発疹性疾患) 1. 小児の主な感染症(発疹を伴う急性ウイルス/細菌感染症)について説明できる								講義 濱本 邦洋			
第3回	小児保健:乳幼児健康診査の目的と方法、予防接種、学校検診 1.. 乳幼児健康診査の目的と評価法が説明でき、乳幼児の発育・発達の評価ができる 2 予防接種の種類と方法について説明できる 3. 学校検診(特に心臓検診等)について説明できる。学校伝染病の席停止期間の説明できる								講義 濱本 邦洋			
第4回	新生児:胎児・新生児の生理と疾患 1. 胎児、新生児の生理(胎内環境、胎児循環)について説明できる 2. 成熟新生児の疾患、分娩の合併症について説明できる 3. 低出生体重時の定義と、それに伴う合併症について説明できる								講義 濱本 邦洋			
第5回	先天異常:單一遺伝子病、染色体異常、先天性代謝異常、先奇形症候群 1. 単一遺伝子病と染色体異常の代表的疾患(ダウン症候群など)を説明できる 2. 主な奇形症候群について説明できる 3. 先天代謝異常スクリーニングについて説明できる								講義 濱本 邦洋			
第6回	脳性麻痺:脳性麻痺の定義、分類、臨床症状、原因、合併症 1. 脳性麻痺の定義、分類、症状、原因、合併症について説明できる 2. 脳性麻痺の筋トーネスの異常、姿勢の異常、歩行の異常について説明できる								講義 濱本 邦洋			
第7回	けいれん性疾患:てんかんの定義と原因、熱性けいれん、 1. けいれんの定義と原因について説明できる。熱性けいれんの定義と治療について説明できる 2. てんかんの定義、分類について、特に代表的なてんかんについて説明できる 3. 熱性けいれんとてんかんの違いについて説明できる								講義 濱本 邦洋			
第8回	神経筋疾患:フロッピーインファンント、神経筋疾患 1. フロッピーインファンントの定義と代表的疾患について説明できる 2. 脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー、筋無力症、ニューロパチーについて説明できる								講義 濱本 邦洋			
第9回	発達障害:精神遅滞、言語発達遅滞、広汎性発達障害等、ADHD、LD 1. 精神遅滞の定義、分類について説明できる 2. 言語発達遅滞、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)について説明できる								講義 濱本 邦洋			
第10回	中枢神経感染症:意識障害の評価法と急性脳炎/脳症 1. 意識障害の評価法(Japan Coma Scale)について説明できる 2. 代表的な脳炎、脳症(日本脳炎、ヘルペス脳炎、亜急性硬化性全脳炎、Reye症候群)について説明できる。ウイルス/細菌性髄膜炎の原因、症状、治療について説明できる								講義 濱本 邦洋			
第11回	小児のこころとからだ:小児心身症、小児の虐待 1. 心身症の分類、症状について説明できる 2. チック、神経性食思不振症、過敏性大腸炎、過換気症候群について説明できる 3. 小児の虐待の分類、対応の仕方について説明できる								講義 濱本 邦洋			
第12回	その他の小児疾患1(呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患など) 1. 小児の代表的な呼吸器疾患、気管支喘息、アルギー疾患、循環器疾患、について説明できる:肺炎、気管支炎、クループ症候群、気管支喘息、免疫異常、アレルギー疾患、先天性心臓病、消化器感染症								講義 濱本 邦洋			
第13回	その他の小児疾患2(内分泌疾患、腎疾患、血液疾患など) 1. 小児の代表的な内分泌疾患、代謝疾患、腎疾患、血液疾患について説明できる:下垂体性小人症、甲状腺機能低下/亢進症、先天性副腎過形成、糖尿病、急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、貧血、白血病、出血性疾患								講義 濱本 邦洋			
第14回	障害児とその親への対応:重症心身障害児レスパイトケア 1. 重症心身障害児の重症度/合併症を説明できる 2. 障害児の親の心理的反応、子どもと親への対応の仕方、コミュニケーションの大切さが理解できる								講義 濱本 邦洋			
第15回	まとめ								講義 濱本 邦洋			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	定期試験100%											
準備学習 学習への アドバイス	1.講義当日、必ず復習すること(ポストテスト、プレテスト等の復習) 2.レポート等の提出を欠かさない											
教科書	言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学											
参考書												

科目名	リハビリテーション医学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	古賀 遼平					実務経験	言語聴覚士として臨床経験5年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	教科書などを用いて、リハビリテーション医学についてや各種障害ごとの診断・評価・治療などを学習していく。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション医学で用いられる各種評価の基礎的な知識を身に付ける。</li> <li>・疾患別のリハビリテーションの基本的な流れの知識を身に付ける</li> <li>・リハビリテーションにおける栄養管理の基礎的な知識を身に付ける。</li> </ul>								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	リハビリテーション医学・医療の基本概念(教科書:2頁~)								講義・演習 古賀 遼平
第2回	リハビリテーション診断① <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション診断における評価法</li> </ul>								講義・演習 古賀 遼平
第3回	リハビリテーション診断② <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション診断における画像診断、電気生理学的検査、診断図、病理検査</li> </ul>								講義・演習 古賀 遼平
第4回	リハビリテーション治療								講義・演習 古賀 遼平
第5回	脳血管障害のリハビリテーション								講義・演習 古賀 遼平
第6回	頭部外傷のリハビリテーション								講義・演習 古賀 遼平
第7回	運動器疾患(大腿骨頸部骨折、変形性股関節症、変形膝関節症など)のリハビリテーション 脊髄損傷のリハビリテーション								講義・演習 古賀 遼平
第8回	神経疾患のリハビリテーション								講義・演習 古賀 遼平
第9回	小児疾患のリハビリテーション リウマチ性疾患のリハビリテーション								講義・演習 古賀 遼平
第10回	循環器疾患のリハビリテーション 呼吸器疾患のリハビリテーション								講義・演習 古賀 遼平
第11回	集中治療室におけるリハビリテーション診療 骨粗鬆症のリハビリテーション								講義・演習 古賀 遼平
第12回	リハビリテーション診療における栄養管理								講義・演習 古賀 遼平
第13回	がんのリハビリテーション								講義・演習 古賀 遼平
第14回	廃用症候群のリハビリテーション 他								講義・演習 古賀 遼平
第15回	リハビリテーションにおけるチーム医療								講義・演習 古賀 遼平
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 課題による評価も成績に加味する )								)
成績評価基準	定期試験50% 課題成績50%								
準備学習 学習への アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次「リハビリテーション概論」をよく復習してから臨むこと。</li> <li>・ビジュランクラウド(動画)の「リハビリテーション医学」シリーズの視聴をすすめる。</li> </ul>								
教科書	上月正博、高橋仁美 編集:リハビリテーション医学、メジカルビュー社、2021								
参考書	(1年次のリハ概論テキスト)天満 和人編:セラピストのための概説リハビリテーション(第2版)、文光堂、2018								

科目名	臨床神経学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	2 単位	時 間 数	60 時 間			
講師氏名	緒方 勝也					実務経験						
授業概要	臨床神経学の臨床および脳神経疾患、高次脳機能障害の原因や治療を学習する。											
到達目標	前期:①神経系の区分を説明できる。②神経の組織を説明できる。③神経系の発生を説明できる。④中枢神経の基本的な構造と機能を説明できる。⑤脳の血管と支配領域を説明できる。⑥中枢神経系疾患の病態、診断、治療について説明できる。 ⑦末梢神経の基本的な構造と機能を説明できる。⑧基本的な神経学的検査について説明できる。 後期:前期の知識を基に神経学の基礎および脳神経疾患、特に神経内科学や脳神経外科学的疾患、高次脳機能障害の原因や症候学的特徴とその基本的治療方針を学び、STとしての関わり方を修得できるようにする。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	中枢神経とは								講義 緒方 勝也			
第2回	大脳の構成、大脳皮質、間脳について								講義 緒方 勝也			
第3回	大脳基底核、大脳辺縁系、小脳について								講義 緒方 勝也			
第4回	脳幹、脳神経について①								講義 緒方 勝也			
第5回	脳神経について②								講義 緒方 勝也			
第6回	脳神経障害①								講義 緒方 勝也			
第7回	脳神経障害②								講義 緒方 勝也			
第8回	脊髄、脳循環(脳の血管と支配領域)、脳脊髄液について								講義 緒方 勝也			
第9回	運動麻痺について								講義 緒方 勝也			
第10回	感覚障害								講義 緒方 勝也			
第11回	意識障害、脳ヘルニア								講義 緒方 勝也			
第12回	錐体外路障害								講義 緒方 勝也			
第13回	小脳の障害								講義 緒方 勝也			
第14回	中枢神経疾患の病態について①								講義 緒方 勝也			
第15回	中枢神経疾患の病態について②								講義 緒方 勝也			

第16回	痙攣とてんかん: 全身性、部分性、複雑部分発作、二次性全般化	講義 緒方 勝也
第17回	脳卒中・脳血管障害: くも膜下出血、脳出血、 脳梗塞(TIA、ラクナ梗塞、アテローム血栓性梗塞、心原性塞栓)	講義 緒方 勝也
第18回	脳血管障害のリハビリテーション: 急性期リハビリテーション、亜急性期リハビリテーション、慢性期リハビリテーション	講義 緒方 勝也
第19回	脳腫瘍、外傷、脊髄損傷	講義 緒方 勝也
第20回	脱髓疾患、脊髄疾患 多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎など	講義 緒方 勝也
第21回	変性疾患: パーキンソン病、パーキンソン症候群、運動ニューロン疾患、脊髄小脳変性症	講義 緒方 勝也
第22回	末梢神経障害 手根管症候群、ベル麻痺、神経痛	講義 緒方 勝也
第23回	小児神経疾患の概要 脳性麻痺、脊髄破裂、水頭症、Chiari奇形	講義 緒方 勝也
第24回	筋疾患: 筋ジストロフィー、筋炎、ミトコンドリア脳筋症	講義 緒方 勝也
第25回	代謝・中毒疾患 アミノ酸代謝異常、脂質代謝異常、ビタミン欠乏など	講義 緒方 勝也
第26回	感染症 各種髄膜炎・脳炎、脳症、プリオン病、細菌性、ウイルス性	講義 緒方 勝也
第27回	記憶の障害 健忘、Papetz回路 認知症 認知症症の診断、脳血管性、Alzheimer病、前頭側頭側病、レビー小体型など	講義 緒方 勝也
第28回	失語症 失語症の分類、運動性失語、感覺性失語、超皮質性失語、伝導失語、健忘失語	講義 緒方 勝也
第29回	失行 肢節運動失行、観念失行、観念運動失行、口部顔面失行、構成失行、着衣失行、脳梁離断症候群	講義 緒方 勝也
第30回	失認 視覚失認、聴覚失認、身体失認、半側空間失認の病態とリハビリテーション	講義 緒方 勝也
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	定期試験 70%, ミニテスト30%	
準備学習 学習への アドバイス	・臨床神経学はSTでの神経リハビリテーションを理解するための基本臨床科目です。暗記でなく論理的に理解することが必要です。中枢神経機能学で学習した内容も再度確認してください。 ・毎回の予習、復習を必ず行い、疑問があれば必ず質問するようにしてください。	
教科書	病気がみえる〈vol.7〉脳・神経 - 医療情報科学研究所	
参考書	脳神経疾患ビジュアルブック(落合慈之(監修)) 学研	

科目名	学習・認知心理学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	結城 ルミ子					実務経験	言語聴覚士として臨床経験22年		
授業概要	前期は「学習心理学」で人間を含めた動物の「学習」について学び、後期は「認知心理学」で認知の基礎から応用まで「認知」を実践的に学ぶ。								
到達目標	「学習心理学」では古典的条件づけ、オペラント条件づけ、記憶などを学び、「認知心理学」では知覚、注意、記憶、言語などを学び理解・説明できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	<p>「学習」について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習とは何か、学習の方法について説明できる。</li> <li>・人間の学習と動物の学習、生得的行動について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第2回	<p>馴化と鋭敏化について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・馴化とは何かについて説明できる。</li> <li>・鋭敏化とは何かについて説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第3回	<p>古典的条件づけについて理解する①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典的条件づけの獲得、刺激般化について説明できる。</li> <li>・条件づけの保持、情動反応の条件づけについて説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第4回	<p>古典的条件づけについて理解する②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拮抗条件づけについて説明できる。</li> <li>・消去、外制止と脱制止について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第5回	<p>古典的条件づけについて理解する③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑な古典的条件づけについて説明できる。</li> <li>・古典的条件づけにおける刺激性制御について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第6回	<p>古典的条件づけについて理解する④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件興奮と条件制止について説明できる。</li> <li>・随伴性空間とランダムな統制手続き、条件制止の検出について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第7回	<p>古典的条件づけについて理解する⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典的条件づけで何が学習されるかについて説明できる。</li> <li>・反応の遂行、適応的意味について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第8回	<p>オペラント条件づけについて理解する①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラント条件づけとは何かについて説明できる。</li> <li>・オペラント条件づけの基礎について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第9回	<p>オペラント条件づけについて理解する②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラント条件づけの普遍性について説明できる。</li> <li>・オペラント反応の形成について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第10回	<p>オペラント条件づけについて理解する③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強化、プレマックの原理について説明できる。</li> <li>・反応頻度を減少させるオペラント条件づけ、消去、罰について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第11回	<p>オペラント条件づけについて理解する④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弁別について説明できる。</li> <li>・刺激般化について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第12回	<p>概念学習・観察学習・問題解決について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概念学習・観察学習について説明できる。</li> <li>・問題解決について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第13回	<p>記憶と学習について理解する①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記憶と学習について説明できる。</li> <li>・短期記憶と長期記憶について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第14回	<p>記憶と学習について理解する②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージの記憶について説明できる。</li> <li>・記憶と学習について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子
第15回	<p>前期のまとめ・復習を行い、重要事項について再度振り返り理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明できる。</li> <li>・概念学習・観察学習、記憶と学習について説明できる。</li> </ul>								講義 結城ルミ子

第16回	認知心理学とは何か、及びその誕生について理解する ・認知心理学とは何かについて説明できる。 ・認知心理学の誕生について説明できる。	講義 結城ルミ子
第17回	認知心理学の特徴と視点、及びその変貌について理解する ・認知心理学の特徴と視点について説明できる。 ・認知心理学の変貌について説明できる。	講義 結城ルミ子
第18回	知覚の基礎について理解する① ・知覚理論について説明できる。 ・空間知覚について説明できる。	講義 結城ルミ子
第19回	知覚の基礎について理解する② ・知覚世界について説明できる。 ・ミッドレベル・ビジョンについて説明できる。	講義 結城ルミ子
第20回	高次の知覚と注意について理解する① ・2次元、3次元の形態の認識について説明できる。 ・知覚と文脈について説明できる。	講義 結城ルミ子
第21回	高次の知覚と注意について理解する② ・顔の認識について説明できる。 ・注意について説明できる。	講義 結城ルミ子
第22回	表象について理解する① ・表象とは何かについて説明できる。 ・命題表象、アナログ表象について説明できる。	講義 結城ルミ子
第23回	表象について理解する② ・スキーマについて説明できる。 ・表象間の相互作用について説明できる。	講義 結城ルミ子
第24回	記憶について理解する① ・記憶のあらましについて説明できる。 ・記憶の基礎について説明できる。	講義 結城ルミ子
第25回	記憶について理解する② ・記憶研究の新展開について説明できる。 ・生きることと記憶について説明できる。	講義 結城ルミ子
第26回	言語について理解する① ・言語研究の役割について説明できる。 ・言語体系の機能と構造について説明できる。	講義 結城ルミ子
第27回	言語について理解する② ・脳と言語処理について説明できる。 ・言語機能とメンタルレキシコンについて説明できる。	講義 結城ルミ子
第28回	問題解決と推論について理解する① ・心理学における「問題」について説明できる。 ・問題解決へのアプローチの歴史について説明できる。	講義 結城ルミ子
第29回	問題解決と推論について理解する② ・推論について説明できる。 ・推論・思考の領域固有性と生得性について説明できる。	講義 結城ルミ子
第30回	認知心理学の諸分野における重要項目について総復習し、学習内容を整理し直す ・高次の知覚と注意について説明できる。 ・記憶、言語、認知と脳について説明できる。	講義 結城ルミ子
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 出席状況、授業態度 )	)
成績評価基準	定期試験100%	
準備学習 学習への アドバイス	授業前に教科書の該当箇所を予習、復習が望ましい。	
教科書	前期:コンパクト新心理学ライブラリ「学習の心理」,サイエンス社,2000. 後期:基礎から学ぶ認知心理学ー人間の認識の不思議,有斐閣ストゥディア	
参考書		

科目名	心理測定法					学 科	言語聴覚学科										
年 次	2年次	分 野	専門基礎	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間								
講師氏名						実務経験											
授業概要	医療では、患者の現状の機能を評価したり介入の効果を測定したりするためには、人の感覚、行動、活動を数量的に、きめ細かく捉えることが必須である。この授業では、精神の働きを数量として具体的に捉えるために行われるさまざまな方法を取り上げる。具体的には、感覚・知覚、認知、行動、発達・教育、臨床心理などの領域でどのような測定が行われているのかを学ぶ。																
<b>到達目標</b>																	
1.4つの尺度水準について、名前、特徴、行ってもよい計算と検定を説明できる。 2.様々な代表値と散布度について、データに基づき計算を行い、正しい値を出すことができる。 3.3つ精神物理学的測定法の名前を挙げ、それぞれのやり方と長所・短所を説明できる。 4.様々な尺度構成法の名前を挙げ、それぞれのやり方と長所・短所を説明できる。 5.様々な信頼性、妥当性について、名前を挙げ、定義と検証法を説明できる。 6.心理検査の標準化とはどのようなことか、なぜ必要なのかを説明できる。 7.回帰分析と因子分析について、関係する変数の名称を挙げ、それぞれの目的について説明できる。 8.ビネー式の知能検査とウェックスラー式の知能検査を比較し、知能観の違いを説明できる。 9.記憶を数量として測定する際の注意事項や工夫を挙げ、説明することができる。 10.反応時間から読み取ることが出来る事柄を説明することができる。																	
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名								
第1回	4つの尺度水準 ・名義、序数、間隔、比率の4尺度が持つ情報と具体例を説明できる。 ・これら4つの尺度のデータに対して行える統計処理を説明できる。								講義								
第2回	記述統計 ・様々な代表値と散布度について、4つの尺度水準との関連を説明できる。 ・様々な代表値と散布度について、計算方法と特徴を説明できる。								講義								
第3回	心理物理学①刺激閾、弁別閾、主観的等価点 ・刺激閾、弁別閾、主観的等価点とはどのような値が説明できる。								講義								
第4回	心理物理学②調整法の実習 ・調整法の手続きについて、刺激を操作するのは誰か、刺激はどのように変化するか説明できる。 ・調整法が何を測定するのに適しているか説明できる。								演習 講義								
第5回	心理物理学③極限法、恒常法 ・極限法、恒常法で、刺激を操作るのは誰か、刺激はどのように変化するか説明できる。 ・極限法、恒常法が何を測定するのに適しているか説明できる。								講義								
第6回	尺度構成法①順位法、一対比較法 ・順位法の手続きと、どのような尺度を構成できるかを説明できる。 ・一対比較法の手続きと、どのような尺度を構成できるかを説明できる。								講義								
第7回	尺度構成法②評定法、マグニチュード推定法 ・評定法の手続きと、どのような尺度を構成できるかを説明できる。 ・マグニチュード推定法の手続きと、どのような尺度を構成できるかを説明できる。								講義								
第8回	尺度構成法③SD法の実習 ・SD法における「形容詞対」とはどのようなものか、「印象評定」とはどのようなことか。説明できる。								演習 講義								
第9回	尺度構成法④SD法、多次元尺度構成法 ・SD法の手続きと、どのような尺度を構成できるかを説明できる。 ・多次元尺度構成法の手続きと、どのような尺度を構成できるかを説明できる。								講義								
第10回	テスト理論①テストの標準化、信頼性 ・標準化とはどのようなことか、なぜ必要なのか説明できる。 ・信頼性の下位概念とその必要性、検討法を、実際の検査に即して説明できる。								講義								
第11回	テスト理論②妥当性 ・妥当性の下位概念とその必要性、検討法を、実際の検査に即して説明できる。								講義								
第12回	調査法①質問紙法 ・質問紙法の長所と短所について説明できる。								講義								
第13回	調査法②サンプリング ・母集団と標本、標本抽出の関係について説明することができる。 ・無作為抽出、層別抽出の手続きについて説明することができる。								講義								
第14回	因子分析 ・潜在変数(因子)と観測変数との区別ができる。 ・因子負荷量とは何か説明できる。因子分析を利用して開発された心理検査を挙げることができる。								講義								
第15回	検定①ノンパラメトリック検定 ・X二乗検定、二項検定はどの尺度水準のデータに適用可能か指摘できる。 ・U検定、クラスカルウォリス検定、フリードマンはどの尺度水準のデータに適用可能か指摘できる。								講義								

第16回	検定②パラメトリック検定 ・t検定、分散分析について、どの尺度水準のデータに適用可能か指摘できる。 ・t検定、分散分析について、原理を説明できる。	講義
第17回	知覚①ゲシュタルト心理学、図と地の分化 ・プレグナンツの要因を列挙することができる。	講義
第18回	知覚②奥行き知覚、運動知覚 ・奥行き知覚が生じる要因を列挙できる。 ・運動知覚が生じる要因を列挙できる。	講義
第19回	記憶の測定①自由再生法の実習 ・自由再生法の手続きを説明できる。	演習 講義
第20回	記憶の測定②系列位置効果 ・系列位置効果とは何かを説明できる。 ・系列位置曲線が、なぜ二重貯蔵モデルの根拠となり得るのかを説明できる。	講義
第21回	記憶の測定③エビングハウスの実験、保持と忘却 ・再学習法の手続きと、節約率とは何かを説明できる。 ・忘却曲線とは何か、その根拠を説明できる。	講義
第22回	反応時間 ・減算法とはどのような方法かを説明できる。 ・反応時間から何を読み取ることができるかを説明できる。	講義
第23回	心理検査①性格検査 ・投影とはどのような現象か、さまざまな投影法を列挙し、その長所と短所を指摘できる。 ・質問紙法による性格検査の長所と短所を指摘できる。具体例を列挙できる。作業検査法による性格検査について説明できる。	講義
第24回	心理検査②精神症状 ・抑うつを評価する心理検査を列挙できる。不安を評価する心理検査を列挙できる。 ・全般的な心身の不調を評価する心理検査を列挙できる。	講義
第25回	知能の測定①ビネー ・ビネーの知能観とはどのようなものか説明できる。 ・精神年齢、IQの考え方と算出方法について説明できる。	講義
第26回	知能の測定②ウェックスター ・ウェックスターの知能観とはどのようなものか説明できる。 ・偏差IQという考え方について説明できる。	講義
第27回	観察法 ・さまざまな観察法の名前を挙げ、それぞれの手続き、特徴を説明できる。	講義
第28回	面接法 ・面接の構造化の程度とはどのようなことか、説明できる。 ・非構造化面接、半構造化面接、構造化面接のそれぞれについて、長所と短所を説明できる。	講義
第29回	エビデンスのピラミッド ・事例報告、横断調査、症例対照研究、コホート研究、RCTの手続きについて説明できる。 ・これらの研究法から得られる知見のエビデンスとしてのレベル、および根拠を説明できる。	講義
第30回	単一事例実験デザイン ・単一事例実験デザインはなぜ必要か説明できる。 ・ABAデザイン、ABABデザインに即して、ベースライン期と処遇期はそれぞれどれか指摘できる。	講義
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	定期試験80%、レポート20%	
準備学習 学習への アドバイス	「統計学」の復習をしておいてください。また、心理学系の科目の中では、聴覚心理学、認知心理学、学習心理学、臨床心理学と関係します。科目の壁を越えて内容を整理・理解しようと試みてください。	
教科書	心理測定法への招待—測定からみた心理学入門(市川伸一編著、サイエンス社)。言語聴覚士テキストの「IV心理学」も使用する。	
参考書		

科目名	言語聴覚障害診断学Ⅰ					学 科	言語聴覚学科					
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	永江 信悟					実務経験	言語聴覚士として臨床経験7年、 リハビリテーション養成校として授業経験1年					
授業概要	成人領域の言語障害を中心として評価・診断の基本概念について講義及び演習を通して学ぶ。											
到達目標	言語聴覚療法における評価・診断を行うために必要な知識と技術を身に付ける。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	講義オリエンテーション 言語聴覚士の仕事について再認識/臨床実習・評価実習の学びに向けて								講義 永江信悟			
第2回	成人分野の言語聴覚障害についての復習(1年次の言語聴覚障害学概論Ⅰ・Ⅱ) 教科書:P2~P5 小テストあり								演習 永江信悟			
第3回	初回介入から診断までの一連の流れを理解する/言語病理学的診断名としてどのような物が挙げられるか理解する。 教科書:P24~P26								講義 永江信悟			
第4回	情報収集(初回面接やカルテからの情報)の目的および各項目の関係性について理解をする。 教科書:P26~P28								講義 永江信悟			
第5回	評価の流れについて(インターク⇒スクリーニング⇒総合的検査⇒掘り下げ検査) 総合的検査や掘り下げ検査にどのような種類があるのか確認をする。 教科書P50~P59、P65~73								講義 永江信悟			
第6回	評価の技法について 教科書:P13~P14) 記録について								講義 演習 永江信悟			
第7回	逐語録(構音障害・失語症の動画・音声等を視聴しながら) レポート有								演習 永江信悟			
第8回	インターク面接(初回面接)について-実技試験前オリエンテーション含む 教科書:P28、P36~P37								講義 演習 永江信悟			
第9回	インターク面接実技試験(症例報告の基礎に合わせて情報整理) レポート有								演習 永江信悟、他			
第10回	インターク面接実技試験(症例報告の基礎に合わせて情報整理) レポート有								演習 永江信悟、他			
第11回	スクリーニング検査(P39~P40)-実技試験前オリエンテーション含む 教科書:P36~P41								講義 演習 永江信悟			
第12回	スクリーニング検査実技試験 レポート有								演習 永江信悟、他			
第13回	スクリーニング検査実技試験 レポート有								演習 永江信悟、他			
第14回	問題点の整理について ICFを用いて 言語病理学的診断名の推測および総合検査の検討 レポート有								講義 永江信悟			
第15回	スクリーニング検査後の評価の流れおよびその他専門分野との関わりについて 教科書P97~P122								講義 永江信悟			
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	実技試験50%、レポート40%、小テスト10%											
準備学習 学習への アドバイス	初回介入からスクリーニング検査までを中心に行っていきます。1年次に学習した言語聴覚障害の基礎等を復習して講義に臨みましょう。 また実技試験では練習をしっかりと行い受けるようにしましょう。											
教科書	深浦順一、植田恵(編) 標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法 評価・診断学 医学書院. 2020											
参考書	明日からの臨床・実習に使える 言語聴覚診断 初回面接・スクリーニングを中心に 都筑澄夫 監修 医学と看護社. 2016											

科目名	言語聴覚障害診断学Ⅱ					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	福永 陽平					実務経験	言語聴覚士として臨床経験7年、 リハビリテーション養成校として授業経験15年		
授業概要	言語発達障害および関連障害の評価について知識・技能・態度を学ぶ								
到達目標	1)子どもの言語聴覚障害とその評価について説明できる 2)インターク面接が実施できる 3)模擬症例に対する評価・言語病理学診断ができる								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	【マインドセット】 ①学修内容について理解する ②講義への取り組み方等について共有する ③講義を通して達成すべき自己目標を設定する								講義 福永陽平
第2回	【評価・診断の流れ】 ①言語聴覚療法の流れを説明できる ②どのような情報が必要か理解できる ③インターク面接とスクリーニング検査の目的を理解できる								講義 福永陽平
第3回	【検査データの収集と分析】 ①検査データから問題を包括的に考えることができる ③臨床記録・報告について理解できる								講義 福永陽平
第4回	【言語発達評価】 ①評価の目的と意義を説明できる ②評価の流れとOODAループを関連付けることができる ③各種検査について理解する								講義 福永陽平
第5回	【発達障害の定義】 ①言語発達を障害する要因を理解する								講義 福永陽平
第6回	【発達のマイルストーン】 ①発達のマイルストーンを理解する ②遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法を理解する								講義 福永陽平
第7回	【スクリーニングテスト①】 ①評価に必要な情報を理解できる ②スクリーニングテストを作成できる								講義 福永陽平
第8回	【スクリーニングテスト②】 ①自作のスクリーニングテストを完成する								講義 福永陽平
第9回	【インターク面接①】 ①インターク面接の技法を理解する ②自作のスクリーニングテストを用いてインターク面接を実施できる								講義 福永陽平
第10回	【症例検討①】 症例①についてグループで検討する								講義 福永陽平
第11回	【症例検討②】 症例①について検討した内容を発表する								講義 福永陽平
第12回	【症例検討③】 症例①についてグループで検討する								講義 福永陽平
第13回	【症例検討④】 症例②について検討した内容を発表する								講義 福永陽平
第14回	【症例検討⑤】 症例③についてグループで検討する								講義 福永陽平
第15回	【症例検討⑥】 症例④について検討した内容を発表する								講義 福永陽平
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	定期試験70% レポート評価30%								
準備学習 学習への アドバイス	次回の講義に関してテキスト等をもとに予習する。(60分程度) 授業で学んだこと、特に用語やその意味を説明できるように復習する。(60分程度)								
教科書	標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法 評価・診断(深浦順一、植田恵編 医学書院)								
参考書	言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編(深浦順一、内山千鶴子編 建帛社)								

科目名	成人言語障害総論Ⅱ(応用)					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間
講師氏名	古賀 遼平 他					実務経験	言語聴覚士として臨床経験5年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	臨床記録・報告書、症例レポートの書き方を学ぶ。								
到達目標	成人分野の言語聴覚療法の業務の流れに沿って評価・診断・治療を行うための知識と技術を修得する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	症例レポートの書き方および留意点(注意点)について学ぶ。 パソコンにて症例レポートを作成する方法について学ぶ。 文献検索の方法について学ぶ。								講義 古賀 遼平
第2回	<摂食嚥下障害の患者の記録手順を学ぶ> ※映像とワークシートを用いて ①症状について観察ポイントを列挙する。 ②映像を観て、模擬患者の訓練内容とその際の模擬患者の反応を記録する。								演習 古賀 遼平
第3回	③模擬患者の記録をICFに整理する。 ④ICFと記録から、模擬症例の症状を列挙し、どういった障害かを考えて、シートにまとめる。								グループ学習 古賀 遼平
第4回	<Dysarthriaの患者の記録手順を学ぶ> ※映像とワークシートを用いて ①症状について観察ポイントを列挙する。 ②映像を観て、模擬患者の訓練内容とその際の模擬患者の反応を記録する。								演習 古賀 遼平
第5回	③模擬患者の記録をICFに整理する。 ④ICFと記録から、模擬症例の症状を列挙し、どういった障害かを考えて、シートにまとめる。								グループ学習 古賀 遼平
第6回	<失語症の患者の記録手順を学ぶ> ※映像とワークシートを用いて ①症状について観察ポイントを列挙する。 ②映像を観て、模擬患者の訓練内容とその際の模擬患者の反応を記録する。								演習 古賀 遼平
第7回	③模擬患者の記録をICFに整理する。 ④ICFと記録から、模擬症例の症状を列挙し、どういった障害かを考えて、シートにまとめる。								グループ学習 古賀 遼平
第8回	<模擬患者の症例情報を用いて、症例レポート(ワーク)を系統的に作成する> ①模擬症例情報から、一般情報・医学的情報・主訴・ニード・他部門情報を抽出し、書く。 ②模擬症例の検査結果情報を分析し、要点のみを書き、必要ならばプロフィール表もEXCELで作成する。 ③模擬症例の抽出情報と、検査結果情報から、ICF表を作成する(大まかに表をまず埋める)。 ④ICF表を作成しながら、模擬症例の言語聴覚療法における問題点を探だし、ICF表に書き出す(領域間の繋がり検討)。 ⑤ICF表や模擬症例の検査結果などの情報から、症例の言語病理学的診断名と重症度を検討し、書く。 ⑥上記①～⑤までの情報分析過程を基に、考察として症状列挙⇒タイプ分類⇒言語病理学的診断の思考過程を書く。 ⑦言語病理学的診断とICF表を踏まえ、問題点に対し的確な長期目標と、その実現の為の短期目標を立て、書く。 ⑧短期目標を達成する為の、的確な訓練プランを立案し、書く。 ⑨最後に症例の予後(今後の生活)について推測し、書く。								演習 古賀 遼平
第9回									
第10回	⑤ICF表や模擬症例の検査結果などの情報から、症例の言語病理学的診断名と重症度を検討し、書く。 ⑥上記①～⑤までの情報分析過程を基に、考察として症状列挙⇒タイプ分類⇒言語病理学的診断の思考過程を書く。 ⑦言語病理学的診断とICF表を踏まえ、問題点に対し的確な長期目標と、その実現の為の短期目標を立て、書く。 ⑧短期目標を達成する為の、的確な訓練プランを立案し、書く。 ⑨最後に症例の予後(今後の生活)について推測し、書く。								
第11回									
第12回	インシデント、アクシデントおよびその対策について学ぶ バイタルサインのチェックおよびリハビリテーションの中止基準について学ぶ								講義 古賀 遼平
第13回	感染について学ぶ 感染予防またその対策について学ぶ								講義 境 めぐみ
第14回	トランスファーの手順またその注意点について学ぶ 学生同士でトランスファーを手順通りに実施する								講義 PT学科教員
第15回	実習以前に大切な事について学ぶ								演習 村上 武士
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	訓練記録(カルテ)やワークシート、症例レポート成績の合計(100%)								
準備学習 学習への アドバイス	・前期・後期の各論で学んだ言語聴覚障害について必ず復習しておくこと。 ・自分なりに、前期の診断学で学んだ「評価・分析・診断」の流れをイメージしておくこと。								
教科書	①明日からの臨床・実習に使える 言語聴覚診断学 成人編 改定第2版 大塚裕一著 医学と看護社. 2020 ②柳川リハビリテーション学院 実習録(講義にて配布) ③言語聴覚療法臨床マニュアル 改定第3版 協同医書出版社. 2016								
参考書	①言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編 深浦順一, 穂数哲司, 内山量史 編著 建帛社. 2017 ②自信がもてる！ リハビリテーション臨床実習 医歯薬出版株式会社. 2015								

科目名	失語症学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専門	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	岩崎 裕子					実務経験	言語聴覚士として臨床経験23年、リハビリテーション養成校にて授業経験13年		
授業概要	失語症の定義、症状を理解し、失語症のタイプ分類について学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失語症の定義について説明できる。</li> <li>・失語症の症状について説明できる。</li> <li>・失語症のタイプ診断ができる。</li> </ul>								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )							授業形態 講師氏名	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション：講義の概要と学習方法を理解する。</li> <li>・失語症の定義が説明できる。</li> <li>・失語症臨床における言語聴覚士の役割が説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語と脳について理解する。</li> <li>・言語の構造について説明できる。</li> <li>・言語の神経学的基盤・失語症の原因疾患</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>失語症の症状：言語症状について理解する。</li> <li>・発話の障害について説明できる。</li> <li>・聴覚的理 解の障害、復唱の障害について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>失語症の症状：言語症状について理解する。</li> <li>・読字および書字の障害について説明できる。</li> <li>・数・計算の障害について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>失語症の近縁症状・失語症に随伴しやすい症状について理解する。</li> <li>・発話面の障害について説明できる。</li> <li>・復唱障害について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>失語症候群の成り立ちについて理解する。</li> <li>・古典分類について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典分類の概要について理解する。</li> <li>・プローカ失語について説明できる。</li> <li>・ウェルニッケ失語について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>前半の振り返りとまとめ</li> <li>・中間テスト</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝導失語・健忘失語について理解する。</li> <li>・伝導失語について説明できる。</li> <li>・健忘失語について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>超皮質性失語・全失語について理解する。</li> <li>・超皮質性失語について説明できる。</li> <li>・全失語について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>皮質下性失語の病巣と症状が理解する。</li> <li>・線条体失語について説明できる。</li> <li>・視床性失語について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>原発性進行性失語について理解する。</li> <li>・原発性進行性失語について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第13回	<ul style="list-style-type: none"> <li>交叉性失語・後天性小児失語症について理解する。</li> <li>・後天性小児失語症について説明できる。</li> <li>・交叉性失語について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第14回	<ul style="list-style-type: none"> <li>純粋型(純粋語聾・純粋失読・失読失書・純粋失書)について理解する。</li> <li>・純粋型の各障害について説明できる。</li> </ul>							講義 岩崎 裕子	
第15回	総括							講義 岩崎 裕子	
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	筆記試験(50%)小テスト・レポート(50%)								
準備学習 学習への アドバイス	教科書の該当する箇所を授業前に読んでおくことが望ましい。授業後には要点を整理し、解らない事柄について調べる。								
教科書	標準言語聴覚障害学 失語症 第3版 医学書院 藤田郁代監修 2021								
参考書	高次脳機能障害の理解と診察 中外医学社 平山和美 編著 2017								

科目名	失語症学特論					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専門	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	岩崎 裕子 江藤 信介					実務経験	岩崎・言語聴覚士として臨床経験23年、リハビリテーション養成校にて授業経験13年		
授業概要	失語症の言語治療が実践できるようになるために、様々な理論と技法を学ぶ。								
到達目標	失語症の言語治療の理論と技法を理解し、基本的な技法を実施できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	失語症の言語聴覚療法の全体像について理解する。 ・失語症の言語治療のプロセスについて説明できる。 ・失語症者とのコミュニケーションのとり方について説明し、実施できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第2回	失語症の評価・診断について理解する。 ・失語症の評価・診断について説明できる。 ・情報収集について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第3回	失語症治療の回復過程について理解する。 ・失語症の神経学的回復メカニズムについて説明できる。 ・失語症の言語・コミュニケーションの回復について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第4回	失語症の言語治療の理論と技法① ・言語治療の枠組み、言語治療計画の立案、病期別の言語聴覚療法について説明できる。 ・リハビリテーションにおける連携、安全管理について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第5回	失語症の言語治療の理論と技法② ・刺激法、プログラム学習法、機能再編成法、CI言語療法について説明できる。 ・メロディックアントネーションセラピー(MIT)、非侵襲性脳刺激について説明できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第6回	失語症の言語治療の実際① ・認知神経心理学的アプローチについて説明できる。 ・語彙訓練について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第7回	失語症の言語治療の実際② ・構文訓練について説明できる。 ・文字・音韻訓練について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第8回	失語症の言語治療の実際③ ・発語失行(失構音)訓練について説明できる。 ・活動・参加訓練について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第9回	失語症の言語治療の実際④ ・生活適応期の訓練・支援について説明できる。 ・失語症の社会復帰について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第10回	言語治療結果のまとめと報告について理解できる。 ・言語訓練記録、サマリー、ケースカンファレンスにおける報告について説明できる。 ・本人・家族へのインフォームド・コンセントについて説明できる。								講義 岩崎 裕子
第11回	第1回～第10回までの総括								講義 演習 岩崎 裕子
第12回	失語症者の援助方法の包括的理解 ・評価を熟考する～臨床における評価の目的～								講義 江藤 信介
第13回	・失語症評価の臨床的手技～検査に頼らない言語評価～								講義 江藤 信介
第14回	・症例検討(1)評価と訓練方針								PBL 江藤 信介
第15回	・症例検討(2)訓練と援助								PBL 江藤 信介
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	筆記試験50%、小テスト・レポート50%								
準備学習 学習への アドバイス	教科書の該当する箇所を事前に読んでおくことが望ましい。授業後には要点を整理し、解らない事柄について調べておく。								
教科書	標準言語聴覚障害学 失語症 第3版 医学書院 藤田郁代監修 2021								
参考書	講義の中で隨時紹介する。								

科目名	失語症学特論演習					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	岩崎 裕子 永江 信悟					実務経験	岩崎:言語聴覚士として臨床経験23年、 リハビリテーション養成校にて授業経験13年 永江:言語聴覚士として臨床経験7年、 リハビリテーション養成校にて授業経験1年		
授業概要	総合的失語症検査の内容を理解し、適切に実施することが出来る。								
到達目標	失語症の総合的検査である標準失語症検査の実施および記録ができる。検査結果の分析ができる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	失語症の評価の流れについて理解する。 ・インテーク面接について説明できる。 ・スクリーニング検査について説明できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第2回	失語症の総合的検査について理解する。 ・標準失語症検査(SLTA)、WAB失語症検査、失語症鑑別診断検査について説明できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第3回	SLTAの概要について理解できる。 ・SLTAの下位検査について説明できる。 ・SLTAの記録および評価について説明できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第4回	SLTA聽く側面の評価について理解する。 ・聴く側面の下位検査が実施できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第5回	SLTA話す側面の評価について理解する。 ・話す側面の下位検査が実施できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第6回	SLTA読む側面の評価について理解する。 ・読む側面の下位検査が実施できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第7回	SLTA書く側面・計算の評価について理解する。 ・書く側面の下位検査が実施できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第8回	WAB失語症検査について理解する。 ・WABの下位検査の一部について実施できる。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第9回	標準失語症検査補助テストについて理解する。 ・標準失語症検査補助テストの一部について実施できる。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第10回	失語症語彙検査について理解する。 ・失語症語彙検査の一部について実施できる。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第11回	SLTAの結果から評価のまとめができる。 ・SLTAのプロフィールが作成できる。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 岩崎 裕子
第12回	SLTA実技演習① ・下位検査について実施し、記録し、評価することが出来る。								演習 岩崎 裕子 永江 信悟
第13回	SLTA実技演習② ・下位検査について実施し、記録し、評価することが出来る。								演習 岩崎 裕子 永江 信悟
第14回	SLTA実技演習③ ・事例検討								演習 グループ学習 岩崎 裕子
第15回	総括 重要事項の振り返りを行う。								講義 岩崎 裕子
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 記録用紙提出他 )								)
成績評価基準	レポート・その他提出物50% 実技試験50%								
準備学習 学習への アドバイス	検査の目的と実施方法を理解し、繰り返し練習することが望ましい。								
教科書	標準言語聴覚障害学 失語症 第3版 医学書院 藤田郁代監修 2021/標準失語症検査マニュアル 改訂第2版 新興医学出版社 2004								
参考書	講義の中で隨時紹介する。								

科目名	高次脳機能障害学Ⅰ					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	岩崎 裕子					実務経験	言語聴覚士として臨床経験23年、リハビリテーション養成校にて授業経験13年		
授業概要	失語症および高次脳機能障害に共通する基本的知識と技能を修得する。高次脳機能障害の基本的概念と知識を修得する。								
到達目標	高次脳機能障害の定義を説明できる。 高次脳機能障害の種類、症状、脳病変との関連性を説明できる。 高次脳機能障害の原因疾患を説明できる。 高次脳機能障害の種類、症状、脳病変との関連性を説明できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	高次脳機能障害の概要について理解する。 ・高次脳機能障害の定義、2つの観点による高次脳機能障害、高次脳機能障害支援モデル事業について説明できる。 ・高次脳機能障害の主要症状と背景症状、言語聴覚士の役割について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第2回	神経心理学的な考え方について理解する。 ・神経心理学と高次脳機能障害について説明できる。 ・神経心理学の原理(乖離、側性化、離断症候群、陽性症状と陰性症状他)について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第3回	脳と高次脳機能との関係について理解する。 ・COVID-19と高次脳機能障害について説明できる。 ・脳の構造および機能について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第4回	視覚認知の障害について理解する。 ・皮質盲の発症メカニズム、幻視と錯視、視覚認知障害について説明できる。 ・標準高次視知覚検査について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第5回	視空間障害について理解する。 ・半側空間無視等の視空間障害について説明できる。 ・視空間障害の評価について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第6回	聴覚認知の障害、触覚認知の障害について理解する。 ・触覚性認知障害の定義、評価について説明できる。 ・聴覚失認の定義、評価とりハビリテーションについて説明できる。								講義 岩崎 裕子
第7回	身体意識・病態認知の障害について理解する。 ・ゲルストマン症候群について説明できる。 ・病態失認について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第8回	行為・動作の障害と失行について理解する。 ・古典的な失行の考え方について説明できる。 ・失行と関連障害について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第9回	記憶について理解する。 ・記憶の処理過程、種類と機能について説明できる。 ・記憶障害の原因疾患と症状について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第10回	記憶障害の評価について理解する。 ・記憶障害の評価について説明できる。 ・検査の目的、内容について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第11回	記憶障害のリハビリテーションについて理解する。 ・記憶障害のリハビリテーションについて説明できる。 ・記憶障害の事例について説明できる。								講義 岩崎 裕子
第12回	前頭葉と高次脳機能障害について理解する。 ・前頭葉の構造と機能について説明できる。 ・前頭葉機能障害の評価とりハビリテーションについて説明できる。								講義 岩崎 裕子
第13回	記憶障害の評価とりハビリテーションについて実施できる。 ・記憶のテストバッテリーの一部について実施できる。								演習 岩崎 裕子
第14回	前頭葉機能障害の評価とりハビリテーションについて実施できる。 ・記憶のテストバッテリーの一部について実施できる。 ・注意障害の評価について一部実施できる。								講義 岩崎 裕子
第15回	前半のまとめ								講義 岩崎 裕子

第16回	中間テスト	講義 岩崎 裕子
第17回	前半の振り返り ・高次脳機能障害の定義・種類 ・失行・失認・記憶障害・前頭葉機能障害の定義・症状・病巣等について説明できる	講義 岩崎 裕子
第18回	注意障害について理解する。 ・注意障害の種類について説明できる。 ・注意障害の評価・リハビリテーションについて説明できる。	講義 岩崎 裕子
第19回	認知症について理解する。 ・認知症、MCI、フレイルについて説明できる。 ・認知症の基本概念と分類について説明できる。	講義 岩崎 裕子
第20回	認知症の評価・リハビリテーションについて理解する。 ・認知症の評価について説明できる。 ・認知症のリハビリテーションについて説明できる。	講義 岩崎 裕子
第21回	脳外傷による高次脳機能障害について理解する。 ・脳外傷の病態、症状について説明できる。 ・脳外傷による高次脳機能障害の評価とリハビリテーションについて説明できる。	講義 岩崎 裕子
第22回	認知コミュニケーション障害について理解する。 ・脳外傷、右半球損傷後に伴う認知コミュニケーション障害について説明できる。 ・筋委縮性側索硬化症、パーキンソン病に伴うコミュニケーション障害について説明できる。	講義 岩崎 裕子
第23回	脳梁離断症状について理解する。 ・脳梁の構造と機能について説明できる。 ・脳梁離断症状について説明できる。	講義 岩崎 裕子
第24回	知的機能について理解する。 ・知的機能について説明できる。 ・知的機能の評価について説明できる。	講義 岩崎 裕子
第25回	知的機能について理解する。 ・WAIS-IVの概要について説明し、下位検査の実施ができる。	演習 岩崎 裕子
第26回	知的機能について理解する。 ・WAIS-IVの概要について説明し、下位検査の実施ができる。	演習 岩崎 裕子
第27回	高次脳機能障害と自動車運転再開について理解できる ・自動車運転再開における言語聴覚士の役割について説明できる。 ・自動車運転再開のための評価について説明できる。	講義 岩崎 裕子
第28回	事例検討① ・高次脳機能障害の事例検討	演習 岩崎 裕子
第29回	事例検討② ・高次脳機能障害の事例検討	演習 岩崎 裕子
第30回	総括 ・学習の振り返り	講義 岩崎 裕子
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
成績評価基準	定期試験50%, 中間テスト・小テスト・レポート50%	
準備学習 学習への アドバイス	授業前に教科書の該当する箇所を読んでおくことが望ましい。授業後には要点を整理し、復習する。	
教科書	藤田郁代 監修:標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版. 医学書院 2021	
参考書	田川皓一 編集:神経心理学への誘い 高次脳機能障害の評価 西村書店 2020/ 平山和美 編著:高次脳機能障害の理解と診察 中外医学社	

科目名	高次脳機能障害学Ⅱ					学科	言語聴覚学科					
年次	2年次	分野	専門	学期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	岩崎 裕子 高橋 雅子					実務経験	岩崎:言語聴覚士として臨床経験23年、リハビリテーション養成校にて授業経験13年 高橋:言語聴覚士として臨床経験28年					
授業概要	高次脳機能障害の評価およびアプローチについて学び、基本的な評価およびアプローチの技法について学ぶ。											
到達目標	高次脳機能障害に対する基本的な評価が実施できる。高次脳機能障害の基本的なアプローチが実施できる。											
回数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名			
第1回	高次脳機能障害のスクリーニングテストについて理解する。 ・高次脳機能障害検査の進め方について説明できる。 ・Mini-Mental State Examination, 改訂長谷川式簡易知能評価スケール, FAB等について実施できる。								演習 岩崎 裕子			
第2回	視覚認知障害の評価とリハビリテーションについて理解し、実施できる。 ・標準高次視知覚検査								講義 岩崎 裕子			
第3回	視空間障害の評価とリハビリテーションについて理解し、実施できる。 ・BIT行動性無視検査								講義 岩崎 裕子			
第4回	失行の評価とリハビリテーションについて理解し、実施できる。 ・標準高次動作性検査								講義 岩崎 裕子			
第5回	記憶障害の評価とリハビリテーションについて理解し、実施できる。 ・WMS-R								講義 岩崎 裕子			
第6回	記憶障害の評価とリハビリテーションについて理解し、実施できる。 ・リバミード行動記憶検査								講義 岩崎 裕子			
第7回	前頭葉障害の評価とリハビリテーションについて理解し、実施できる。 ・CAT								講義 岩崎 裕子			
第8回	前頭葉障害の評価とリハビリテーションについて理解し、実施できる。 ・TMT, WCST								講義 岩崎 裕子			
第9回	認知コミュニケーション障害の評価とリハビリテーションについて理解し、実施できる。								講義 岩崎 裕子			
第10回	認知症の評価とリハビリテーションについて理解し、実施できる。								講義 岩崎 裕子			
第11回	総括:高次脳機能障害学の評価とリハビリテーション								講義 岩崎 裕子			
第12回	高次脳機能障害のリハビリテーション① ・高次脳機能障害モデル事業前後のリハビリテーションの考え方や対応の変化を知る。								講義 高橋 雅子			
第13回	高次脳機能障害のリハビリテーション② ・当事者・家族の状況や心理について考え、リハビリテーションの必要性と、複数の視点の重要性を理解する。								講義 高橋 雅子			
第14回	高次脳機能障害のリハビリテーション③ ・さまざまな高次脳機能障害へのアプローチ例を知る。								講義 高橋 雅子			
第15回	高次脳機能障害のリハビリテーション④ ・「人」に対する、全体論的アプローチの視点を学ぶ。 ・他職種との連携、情報共有、チームアプローチを理解する。								講義 高橋 雅子			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	レポート・小テスト(50%), 定期試験(50%)											
準備学習 学習への アドバイス	教科書の該当する箇所を事前に読んでおくことが望ましい。授業後には要点を整理し、解らない事柄について調べておく。											
教科書	藤田 郁代/関啓子編著:標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版. 医学書院 2021											
参考書	講義の中で隨時紹介する。											

科目名	小児言語障害学総論 I (基礎)					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専門	学 期	通年(前期)	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	井元 明日香					実務経験	言語聴覚士として臨床経験14年		
授業概要	正常発達知的とともに知的障害に伴う言語発達障害の臨床像、評価・診断の手続き支援法について概説する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的能力障害の定義と症状について概略することができる</li> <li>・知的能力障害に伴う言語やコミュニケーションの発達を学び、評価や指導法について理解・説明ができる</li> </ul>								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的能力障害の定義、診断基準(DSM-5)について理解する</li> <li>・知的能力、適応行動について理解する</li> <li>・知的能力障害の疫学と原因論について理解する</li> </ul>								講義 井元 明日香
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的能力障害を呈する疾患と疾患ごとの特性について理解する</li> <li>・合併症について理解する</li> </ul>								講義 井元 明日香
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語聴覚療法の臨床像についてイメージができる</li> </ul>								講義 井元 明日香
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的能力障害児の発達特徴について理解する</li> </ul>								講義 井元 明日香
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知発達過程について理解する</li> </ul>								講義 井元 明日香
第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己認知の発達過程について理解する</li> <li>・コミュニケーションの発達過程について理解する</li> </ul>								講義 井元 明日香
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語発達過程について理解する①</li> </ul>								講義 井元 明日香
第8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語発達過程について理解する②</li> </ul>								講義 井元 明日香
第9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み書きの発達過程について理解する</li> </ul>								講義 井元 明日香
第10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間概念の発達について理解する</li> <li>・数概念の発達について理解する</li> </ul>								講義 グループ学習 井元 明日香
第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価① 聞き取り、行動観察について理解する アセスメントツールを使った評価について知る</li> </ul>								講義 演習 井元 明日香
第12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援① 環境設定、発達年齢の段階に合わせた支援方法(乳児期～幼児期後期) 系統的言語訓練について理解する</li> </ul>								講義 井元 明日香
第13回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援② 発達年齢の段階に合わせた支援方法(初等教育前期～卒後)</li> </ul>								講義 井元 明日香
第14回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語用論的アプローチ(インリアル・アプローチ)を説明できる</li> <li>・場面設定型アプローチ(スプリリット)を説明できる</li> <li>・その他の支援方法について理解する</li> </ul>								講義 井元 明日香
第15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養育者に対する支援・相談</li> <li>・社会資源や制度の活用</li> </ul>								講義 井元 明日香
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験(100%)								
準備学習 学習への アドバイス	定型発達を把握すること								
教科書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第3版、言語聴覚療法シリーズ10 改訂言語発達障害 I								
参考書									

	小児言語障害学総論 I (基礎)					学 科	言語聴覚学科					
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	通年(後期)	単位数	2 単位	時間数	60 時間			
講師氏名	清水 珠美					実務経験	言語聴覚士として臨床経験16年、リハビリテーション養成校にて授業経験3年					
授業概要	自閉症スペクトラム障害の評価診断および言語治療(指導・支援)に関する知識・技能・態度を修得する。											
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症スペクトラム障害の定義と症状を説明できる。</li> <li>・自閉症スペクトラム障害のコミュニケーションの特徴を述べることができる。</li> <li>・自閉症スペクトラム障害の指導について述べることができる。</li> </ul>											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語発達障害が生じる障害について</li> </ul>								講義 清水珠美			
第2回	自閉症スペクトラム障害の定義を理解する <ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症スペクトラム障害の定義を説明できる。</li> </ul>								講義 清水珠美			
第3回	自閉症スペクトラム障害の歴史について理解する。								講義 清水珠美			
第4回	自閉症スペクトラム障害の症状:言語症状について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコラリアについて説明できる</li> <li>・語用論の問題について説明できる</li> </ul>								講義 清水珠美			
第5回	自閉症スペクトラム障害の症状: <ul style="list-style-type: none"> <li>・語用性言語障害と社会的コミュニケーション障害について説明できる。</li> <li>・ナラティブの問題について説明できる。</li> </ul>								講義 清水珠美			
第6回	自閉症スペクトラム障害の認知特性について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の理論、中枢性統合、実行機能について説明できる。</li> </ul>								講義 清水珠美			
第7回	自閉症スペクトラム障害の評価について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・診断までの流れを説明できる。</li> </ul>								講義 清水珠美			
第8回	自閉症スペクトラム障害の評価について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症スペクトラム障害に関連する検査について説明できる。</li> </ul>								講義 清水珠美			
第9回	自閉症スペクトラム障害の支援:支援の原則、TEACCHについて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症スペクトラム障害の支援の原則について説明できる。</li> <li>・TEACCHについて説明できる。</li> </ul>								講義 清水珠美			
第10回	自閉症スペクトラム障害の支援:コミュニケーション指導について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然な文脈での指導について説明できる。</li> <li>・JASPER</li> </ul>								講義 清水珠美			
第11回	自閉症スペクトラム障害の支援:AACについて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AACについて説明できる。</li> <li>・PECSについて説明できる。</li> </ul>								講義 清水珠美			
第12回	自閉症スペクトラム障害の支援:ソーシャルスキルトレーニングについて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルスキルトレーニングの流れについて説明できる。</li> </ul>								講義 清水珠美			
第13回	自閉症スペクトラム障害の支援:問題行動への対処について理解する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ABAについて説明できる。</li> </ul>								講義 清水珠美			
第14回	自閉症スペクトラム障害に伴う摂食嚥下障害について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症スペクトラム障害に伴う摂食嚥下障害の特徴を説明できる。</li> <li>・自閉症スペクトラム障害に伴う摂食嚥下障害の対応を説明できる。</li> </ul>								講義 清水珠美			
第15回	総括 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の振り返り</li> </ul>								講義 清水珠美			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)			
成績評価基準	筆記試験50%、小テスト・レポート50%											
準備学習 学習への アドバイス	教科書の該当する箇所を事前に読んでおくことが望ましい。授業後には要点を整理し、復習する。											
教科書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版 医学書院 藤田郁代監修 2021 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版 医学書院 藤田郁代監修 2021											
参考書												

科目名	小児言語障害学総論Ⅱ(応用)					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	通年(前期)	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	濱本 孝弘 長野 清一郎					実務経験	濱本:作業療法士として臨床経験22年 リハビリテーション養成校にて授業経験7年 長野:作業療法士として臨床経験16年		
授業概要	脳性まひ児(者)に代表される肢体不自由を伴った発達障害児(者)の食事やコミュニケーションに支援するために必要な正常発達の知識を学習する。 おもに粗大運動の発達や上肢機能等の発達について学ぶ中で、姿勢および運動と諸活動との関係性について学ぶ。								
到達目標	0~6ヶ月の粗大運動の発達および巧緻運動の発達について理解し説明できるようになる。脳性まひの特性について理解し、食事における困りごとと姿勢との関連について説明できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	発達障害について知る 発達障害児の生涯発達(障害を持ちながら一生を送るということ)・自立とは何かについて学ぶ								講義 濱本 孝弘
第2回	こどもの発達に関する知識を整理する 成長と発達、成熟の概念、発達の原則について学ぶ これから学ぶ姿勢や運動の発達を臨床においてどのように活用するのか学ぶ								講義 濱本 孝弘
第3回	胎児期の発達について知る 胎児期の発達、週産期医療について知る 新生児の能力および胎内環境と胎外環境について考え、原始反射について理解する								講義 長野 清一郎
第4回	背臥位(Supine)の発達について知る 新生児~6ヶ月までの背臥位(Supine)の発達の特徴について知る								講義 長野 清一郎
第5回	背臥位(Supine)の発達を理解する 新生児~6ヶ月までの背臥位(Supine)の発達の特徴について、実技を用いながら体験する中で、重心や支持基底面、接触面などの変化を体感する。								講義 長野 清一郎
第6回	腹臥位(Prone)の発達について知る 新生児~6ヶ月までの腹臥位(Prone)の発達の特徴について知る								講義 長野 清一郎
第7回	腹臥位(Prone)の発達について理解する 新生児~6ヶ月までの腹臥位(Prone)の発達の特徴について、実技を用いながら体験する中で、重心や支持基底面、接触面などの変化を体感する。								演習 長野 清一郎
第8回	座位・立位の発達について知る 座位とは?その機能的な意義・必要条件・引きおこしの特徴などについて知る								講義 長野 清一郎
第9回	上肢機能について知る 手とは、系統発生的にみた手、手と脳のつながりについて学ぶ つまみ・握り・離しの発達について知る								演習 濱本 孝弘
第10回	上肢機能の発達について知る つまみ・握り・離しの発達について理解するヒトがものを操作すること・探索活動について知る 上肢機能の評価および観察のポイントについて知る								講義 濱本 孝弘
第11回	視覚機能の発達およびその評価について知る 解剖・視覚機能・視覚の発達について理解する 簡易的な視覚機能の評価方法について学ぶ								演習 濱本 孝弘
第12回	視知覚について知る 人の知覚・特に視知覚について学び、視知覚の検査の概要について理解する。 手と目の協調関係および道具操作の発達について知る。								講義 濱本 孝弘
第13回	脳性麻痺について知る 脳性麻痺の定義・原因・分類など基本的な事項についておさえる。 類型別の特徴について学び、それぞれの類型別の支援の方向性について知る								講義 濱本 孝弘
第14回	摂食機能について知る 人の摂食機能について理解し、摂食における器官の役割について確認する 食事における姿勢と航空機能、頸や体幹、上肢の運動との関係性について学ぶ								講義 濱本 孝弘
第15回	食事の評価とアプローチについて知る 脳性麻痺児の事例を通して食事と姿勢の関連性を理解する								演習 濱本 孝弘
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験正答率6割								
準備学習 学習への アドバイス	遠城寺式乳幼児分析的発達検査などを参考に粗大運動および巧緻運動の発達指標の概要をおさえておく。 3ヶ月前後・6か月前後・12カ月前後の赤ちゃんの運動の様子について動画等を視聴しておく。								
教科書	・写真で見る乳児の運動発達 ・アドバンスシリーズコミュニケーション障害の臨床第3巻 脳性麻痺								
参考書									

	小児言語障害学総論Ⅱ(応用)					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	通年(後期)	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	清水 珠美					実務経験	言語聴覚士として臨床経験16年、リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	脳性麻痺・重複障害の評価診断および言語治療(指導・支援)に関する知識・技能・態度を修得する。								
到達目標	脳性麻痺・重複障害の定義と症状を説明できる。 脳性麻痺・重複障害のコミュニケーションの特徴を述べることができる。 脳性麻痺・重複障害の指導について述べることができる。 脳性麻痺の摂食嚥下障害の特徴を説明できる。 評価に基づき具体的な介入(訓練・指導・支援)方法を提示できる。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	脳性麻痺の定義と症状について理解する。 ・脳性麻痺の定義を説明できる。 ・脳性麻痺の症状を説明できる。								講義 清水珠美
第2回	脳性麻痺の原因について理解する。 脳性麻痺における重複障害について理解する。 ・重症心身障害を説明できる。								講義 清水珠美
第3回	脳性麻痺の言語・コミュニケーションの特徴を理解する。 ・言語・コミュニケーションの正常発達について説明できる。 ・脳性麻痺の言語・コミュニケーションの発達を説明できる。								講義 清水珠美
第4回	脳性麻痺の評価を理解する。 ・運動機能・言語発達・発語器官・聴力・学習面の評価について述べることができる。								講義 清水珠美
第5回	脳性麻痺の支援について理解する。 ・ライフステージについて述べることができる。								講義 清水珠美
第6回	脳性麻痺の支援について理解する。 ・臨床像に応じた支援方法について述べることができる。								講義 清水珠美
第7回	脳性麻痺の支援について理解する。 ・指導・支援方法について説明できる。 ・AACについて説明できる。								講義 清水珠美
第8回	脳性麻痺に伴う摂食嚥下障害について理解する。 ・脳性麻痺の摂食嚥下障害の特徴を説明できる。								講義 清水珠美
第9回	摂食嚥下機能の発達について理解する。 ・摂食嚥下機能の発達(構造・機能・心理社会的側面)について説明できる。								講義 清水珠美
第10回	小児の摂食嚥下障害によくみられる合併症について理解する。 ・小児の呼吸器系の合併症について説明できる。 小児の消化器系の合併症について説明できる。 ・小児のてんかんおよび抗てんかん薬の摂食嚥下への影響について説明できる。								講義 清水珠美
第11回	発達期の摂食嚥下障害の評価について理解する。								講義 清水珠美
第12回	発達期の摂食嚥下障害の介入(訓練・指導・支援)の基本概念と方法を理解する。 ・姿勢調整の原則について説明できる。 食物形態の調整について説明できる。 ・口腔の感覚の問題の対応について説明できる。								講義 清水珠美
第13回	発達期の摂食嚥下障害の介入(訓練・指導・支援)の基本概念と方法を理解する。 ・口腔運動の発達を促す原則について説明できる。 養育者への指導の仕方、心理面へのサポートについて説明できる。 ・発達期における障害の長期的フォローの流れを説明できる。								講義 清水珠美
第14回	小児の摂食嚥下障害の臨床について学ぶ。								講義 梶原大地
第15回	総括 ・学習の振り返り								講義 清水珠美
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	筆記試験50%、小テスト・レポート50%								
準備学習 学習への アドバイス	教科書の該当する箇所を事前に読んでおくことが望ましい。授業後には要点を整理し、復習する。								
教科書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版 医学書院 藤田郁代監修 2021 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版 医学書院 藤田郁代監修 2021								
参考書	言語聴覚療法シリーズ12 改訂言語発達障害Ⅲ 建帛社 笠井新一郎編著 アドバンスシリーズ/コミュニケーション障害の臨床3 脳性麻痺 協同医書出版社								

科目名	言語発達障害学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 单位	時 間 数	30 時 間
講師氏名	福永 陽平					実務経験	言語聴覚士として臨床経験7年、リハビリテーション養成校として授業経験15年		
授業概要	言語発達の諸理論を概観し、言語発達障害の基礎となる、乳幼児期～学童期の正常言語発達について、音韻・意味・統語・語用など各側面から学ぶ。また、本講義の大半をTeam Based Learningで実施する。								
到達目標	1)言語発達の理論について説明することができる。2)就学に至るまでのコミュニケーション発達の特徴について説明することができる。3)語用論的側面と「心の理論」から見た言語発達を説明することができる。4)読み書きの発達について説明することができる。								
回 数	授業計画(内容)							授業形態 講師氏名	
第1回	【マインドセット】 ①言語発達学で学修する事項について理解する ②講義への取り組み方等について共有する ③講義を通して達成すべき自己目標を設定する							講義 福永陽平	
第2回	【言語発達障害の療育・支援(乳幼児期)】 ①発達障害児の早期発見と療育のためにはどのような制度があるか理解する ②地域支援のためにはどのような体制があるか理解する ③乳幼児期における言語聴覚士の関わりを理解する							講義 福永陽平	
第3回	【発達段階】 ①ピアジェの発達段階をもとに、出生から7歳に至るまでの子どもの発達変化を理解する ②乳幼児と養育者(特に母親)との関りについてエリクソンの発達課題をもとに説明できる ③出生から幼児期における言語発達の過程を理解する							講義 福永陽平	
第4回	【言語獲得理論】 ①言語獲得に関する「學習論」的立場の考え方を学修する ②生成文法理論と言語獲得装置について理解する ③言語獲得における、「社会的認知論」的立場の考え方を理解する							講義 福永陽平	
第5回	【脳の発達と言語発達を阻害する要因】 ①ヒトの言語コミュニケーションの発達について理解する ②ヒトの脳の発達における、「可塑性」ならびに「シナプスの刈り込み」について理解する ③自閉症スペクトラム症(ASD)について、病態ならびに言語症状を理解する							講義 福永陽平	
第6回	【前言語期の発達と背景】 ①生後1ヶ月頃の乳児は他国の言語音韻を弁別できなくなる背景を理解する ②6ヶ月以降の乳幼児は好んで育児語に注意を向くようになるのは何故か説明できる ③叫喚音声から規準喃語へ移行する際の発声発語器官の変化を理解する							講義 福永陽平	
第7回	【前言語期の発達と養育視点】 ①ギブソンの発達研究について理解する ②「社会的参照」を確認する方法を説明できる ③こどもの発達に「愛着」が必要な理由を説明できる							講義 福永陽平	
第8回	【語彙獲得期の発達と背景】 ①語彙の過大汎用からボキャブラリースペースまでの言語獲得の状態を理解する ②言語発達の認知的基盤において、「認知能力と言語能力が時間的に対応している」ことを説明できる ③インリアルアプローチについて理解する							講義 福永陽平	
第9回	【語彙獲得期の発達と養育視点】 ①幼児期における形容詞、疑問詞の獲得の流れについて説明できる ②拡張模倣について理解できる ③言語発達の評価法について、獲得語彙を測定するもの、語彙・統語を含めたものを、それぞれ区別して列挙できる							講義 福永陽平	
第10回	【談話の発達】 ①談話(discourse)の成立にはどのような要因が関わっているのか説明できる ②Applebeeの6段階のストーリーにおける「真的ナラティブ」について説明できる ③発達に即した語用表現がどのように変化するか理解できる							講義 福永陽平	
第11回	【学童期の発達と背景】 ①児童に読書が推奨される理由を理解できる ②語用論について説明できる ③TEACCHとSSTについて説明できる							講義 福永陽平	
第12回	【学童期の発達と背景】 ①漢字とひらがなの習得を左右する要因を区別して説明できる ②作文(文章を書く力)の発達が、論理的な語りのために必要となる理由を説明できる ③読み書きの基礎となる認知能力について説明できる							講義 福永陽平	
第13回	【音韻意識の発達とイマージェントリテラシー】 ①音韻意識について理解できる ②エマージェントリテラシーについて説明できる ③心の理論について理解できる							講義 福永陽平	
第14回	【発達に関する諸検査】 ①言語・コミュニケーションに関する検査、読み書き能力に関するものを列挙できる ②全般的な発達を測定する検査名を列挙できる ③知能検査ならびに心理検査について列挙できる							講義 福永陽平	
第15回	【言語発達を阻害する障害とその特性】 ①自閉症スペクトラム障害の「3つ組み」について説明できる ②注意欠陥・多動性障害(ADHD)について説明できる ③「教育」と「医学」の領域における学習障害の定義の違いを説明できる							講義 福永陽平	
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験90% 小テストの期限内提出10%								
準備学習 学習への アドバイス	次回の講義に関してテキスト等をもとに予習する。(60分程度) 授業で学んだこと、特に用語やその意味を説明できるように復習する。(60分程度)								
教科書	言語聴覚療法シリーズ 改訂言語聴覚障害総論Ⅱ (山崎京子編著 建帛社)【ISBN: 978-4-7679-4522-4】 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学(玉井ふみ/深浦順一編 医学書院)【ISBN 978-4-260-02079-4】								
参考書									

	言語発達障害学演習					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間
講師氏名	清水 珠美					実務経験	言語聴覚士として臨床経験16年、リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	小児分野の言語検査、発達検査について講義・演習を通して学習する。								
到達目標	発達検査/知能検査、言語発達検査について理解することができる。								
回 数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名
第1回	オリエンテーション ・発達検査/知能検査について説明できる。 ・言語発達検査について説明できる。								講義 清水珠美
第2回	発達検査について理解する:KIDS乳幼児発達スケール、乳幼児精神発達診断法 ・KIDS乳幼児発達スケールの概要を説明できる。 ・乳幼児精神発達診断法								講義 演習 清水珠美
第3回	発達検査について理解する:新版K式発達検査2001① ・新版K式発達検査2001の概要を説明できる。 ・新版K式発達検査2001の下位検査の一部について実施できる。								講義 演習 清水珠美
第4回	発達検査について理解する:新版K式発達検査2001② ・新版K式発達検査2001の発達指數を算出することができる。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 清水珠美
第5回	発達検査について理解する:遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、日本版デンバー式発達スクリーニング検査 ・遠城寺式乳幼児分析的発達検査法の概要を説明できる。 ・日本版デンバー式発達スクリーニングの概要を説明できる。								講義 演習 清水珠美
第6回	言語検査について理解する:国リハ式(S-S法)言語発達遅滞検査 ・検査の概要を説明できる。 ・検査の一部を実施する。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 清水珠美
第7回	言語検査について理解する:国リハ式(S-S法)言語発達遅滞検査 ・検査の概要を説明できる。 ・検査の一部を実施する。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 清水珠美
第8回	言語検査について理解する:LCスケール ・LCスケールの概要を説明できる。 ・検査の一部を実施する。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 清水珠美
第9回	言語検査について理解する:LSCA ・LCSAの概要を説明できる。 ・検査の一部を実施する。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 清水珠美
第10回	国リハ式(S-S法)言語発達遅滞検査 実技試験①								演習 清水珠美 福永陽平
第11回	国リハ式(S-S法)言語発達遅滞検査 実技試験②								演習 清水珠美 福永陽平
第12回	言語検査について理解する:PVT-R ・PVT-Rの概要を説明できる。 ・検査の一部を実施する。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 清水珠美
第13回	言語検査について理解する:質問-応答関係検査 ・質問-関係検査の概要を説明できる。 ・検査の一部を実施する。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 清水珠美
第14回	言語検査について理解する:新版構文検査ー小児版ー(STC) ・新版構文検査ー小児版ー(STC)の概要を説明できる。 ・検査の一部を実施する。 ・検査結果について説明できる。								講義 演習 清水珠美
第15回	実技試験のフィードバック 総括 重要事項の振り返り								講義 清水珠美
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	小テスト40%、レポート30%、実技試験30%								
準備学習 学習への アドバイス	検査の目的と実施方法を理解し、繰り返し練習することが望ましい。								
教科書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版 医学書院 藤田郁代監修 2021								
参考書	講義の中で隨時紹介する。								

科目名	言語発達障害学特論					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	衛藤 泰博					実務経験	言語聴覚士として臨床経験24年		
授業概要	自閉症スペクトラム障害(ASD)、注意欠如・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)、発達性読み書き障害(ディスレクシア)など、発達障害についての基礎知識や具体的な指導方法、支援の方法などについて学習する。								
到達目標	発達障害の定義や特性、指導方法や支援の方法についての理解を深める。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	発達障害の概念と定義について ・医学的定義と教育的定義、法律での定義について ・発達障害をめぐる話題と歴史について								講義 衛藤 泰博
第2回	学校教育における発達障害について ・ことばの教室(通級による指導)の紹介 ・特別支援教育における発達障害の現状								講義 衛藤 泰博
第3回	自閉症スペクトラム障害(ASD)について(1) ・自閉症スペクトラム障害の概念と子どもの発達特性 ・心の理論課題(サリーとアンの課題)について								講義 衛藤 泰博
第4回	自閉症スペクトラム障害(ASD)について(2) ・自閉症スペクトラム障害の子どもへの指導方法								講義 衛藤 泰博
第5回	注意欠如・多動性障害(ADHD)について(1) ・注意欠如・多動性障害(ADHD)の症状や子どもの発達特性								講義 衛藤 泰博
第6回	注意欠如・多動性障害(ADHD)について(2) ・注意欠如・多動性障害(ADHD)の子どもへの指導方法								講義 衛藤 泰博
第7回	特異的言語発達障害(SLI)について 限局性学習障害(LD)について(1) ・発達性読み書き障害(発達性ディスレクシア)の子どもの発達特性								講義 衛藤 泰博
第8回	限局性学習障害(LD)について(2) ・発達性読み書き障害(発達性ディスレクシア)の子どもへの指導方法								講義 衛藤 泰博
第9回	限局性学習障害(LD)について(3) ・その他の学習障害(算数障害など)について ・学習障害や読み書き障害のスクリーニング検査について								講義 衛藤 泰博
第10回	その他の発達障害について(1) ・吃音について ・場面緘默について								講義 衛藤 泰博
第11回	その他の発達障害について(2) ・チック障害、トウレット症候群、発達性協調運動障害(DCD)などについて								講義 衛藤 泰博
第12回	発達障害を持つ子どもへの指導方法(1) ・ソーシャルスキルトレーニング(SST)や行動療法などについて ・ティーチ(TEACCH)プログラムについて								講義 衛藤 泰博
第13回	発達障害を持つ子どもへの指導方法(2) ・インリアル(INREAL)アプローチについて ・ICT支援について～PCやタブレットでの支援								講義 衛藤 泰博
第14回	発達障害を持つ子どもの保護者への支援 ・ペアレントトレーニングやカウンセリングについて								講義 衛藤 泰博
第15回	地域支援と連携について ・発達障害者支援センターや放課後等デイサービスなどについて ・関係機関との連携について								講義 衛藤 泰博
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験100%								
準備学習 学習への アドバイス	教科書の記述内容に目を通し、講義を聞いて、重要な事項について説明できるようになること。								
教科書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第3版(医学書院)								
参考書	言語聴覚士テキスト第3版(医歯薬出版株式会社)								

科目名	言語発達障害学特論演習					学 科	言語聴覚学科					
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	福永 陽平 清水 珠美					実務経験	福永:言語聴覚士として臨床経験7年 リハビリテーション養成校にて授業経験15年 清水:言語聴覚士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年					
授業概要	小児分野の知能・認知検査について講義・演習を通して学習する。											
到達目標	知能・認知検査について理解することができる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	WISC-IV知能検査 ・検査の内容を説明できる。								講義 福永 陽平			
第2回	WISC-IV知能検査 ・検査の内容を説明できる。								講義 福永 陽平			
第3回	WISC-IV知能検査 ・検査の概要を説明できる。								講義 福永 陽平			
第4回	WISC-IV知能検査 ・検査結果を分析できる。								講義 演習 福永 陽平			
第5回	知能検査について理解する:KABC-II 心理教育アセスメントパッテリー① ・KABC-II の概要を説明できる。								講義 清水 珠美			
第6回	知能検査について理解する:KABC-II 心理教育アセスメントパッテリー② ・検査の一部を実施する。								講義 演習 清水 珠美			
第7回	知能検査について理解する:KABC-II 心理教育アセスメントパッテリー③ ・検査の一部を実施する。 ・結果を算出する。								講義 演習 清水 珠美			
第8回	知能検査について理解する:KABC-II 心理教育アセスメントパッテリー④ ・検査結果について説明できる。								講義 清水 珠美			
第9回	WISC-IV知能検査実技試験①								演習 福永 陽平 清水 珠美			
第10回	WISC-IV知能検査実技試験②								演習 福永 陽平 清水 珠美			
第11回	DN-CAS認知評価システム ・検査の概要と手順を説明できる。								講義 演習 福永 陽平			
第12回	田中ビネー知能検査V ・検査の概要と手順を説明できる。								講義 清水 珠美			
第13回	田中ビネー知能検査V ・検査結果の記入と精神年齢、知能指数の算出ができる。								講義 清水 珠美			
第14回	フロステイッグ視知覚発達検査・グッドイナ人物画知能検査(DAM) ・検査の概要と手順を説明できる。								講義 演習 福永 陽平			
第15回	まとめ ・各知能、認知検査の適応年齢と概要を説明できる。								講義 清水 珠美			
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)			
成績評価基準	小テスト40%、レポート30%、実技試験30%											
準備学習 学習への アドバイス	検査の目的をきちんと理解したうえで、演習に取り組む											
教科書	深浦順一, 藤野博, 石坂郁代編:標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版.											
参考書												

科目名	音声障害学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 単位	時 間 数	30 時 間
講師氏名	古賀 遼平 他					実務経験	言語聴覚士として臨床経験5年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声障害の発生メカニズム、評価、治療および無喉頭音声、気管切開患者のコミュニケーション手段について学習する。</li> <li>・演習を通して、GRBAS尺度、音声訓練の手技について学習する。</li> <li>・気管カニューレの種類、特徴、役割について学習する。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声障害の発生メカニズム、評価、治療および無喉頭音声、気管切開患者のコミュニケーション手段を説明できる。</li> <li>・GRBAS尺度による評価、音声訓練の手技を実施できる。</li> <li>・気管カニューレについて説明できる。</li> </ul>								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	喉頭の基本構造と機能、病態 <ul style="list-style-type: none"> <li>・喉頭の基本構造と機能</li> <li>・高等の病態と医学的診断</li> </ul>								講義 古賀 遼平
第2回	音声障害の症状とその原因(発症メカニズム)								講義 古賀 遼平
第3回	音声障害の病態								講義 古賀 遼平
第4回	音声障害の関連障害								講義 古賀 遼平
第5回	音声障害の評価・診断 <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価・診断の原則と流れ</li> <li>・医師が行う音声障害の評価・診断とその意味</li> </ul>								講義 古賀 遼平
第6回	言語聴覚士が行う音声障害の評価・診断 ① <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚心理的評価</li> <li>・音声障害の自覚的評価と心理検査</li> </ul>								講義 古賀 遼平
第7回	言語聴覚士が行う音声障害の評価・診断 ② <ul style="list-style-type: none"> <li>・发声機能検査(声の高さ、強さ)</li> <li>・空気力学的検査(MPT、MFR)</li> </ul>								講義 古賀 遼平
第8回	言語聴覚士が行う音声障害の評価・診断 ③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・音響分析</li> </ul> 音声障害の評価・診断の解釈								講義 古賀 遼平
第9回	音声障害の治療 ① <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声障害の治療(医学的治療と行動学的治療)</li> <li>・間接訓練</li> </ul>								講義 古賀 遼平
第10回	音声障害の治療 ② <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接訓練 ①</li> </ul>								講義 古賀 遼平
第11回	音声障害の治療 ③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接訓練 ②</li> </ul>								講義 古賀 遼平
第12回	音声障害の治療 ④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・気管切開の管理と指導</li> </ul>								講義 古賀 遼平
第13回	音声障害の治療 ⑤ <ul style="list-style-type: none"> <li>・無喉頭音声の指導</li> </ul>								講義 古賀 遼平
第14回	気管カニューレの基礎知識								講義 佐藤 伸宏
第15回	音声治療(訓練)の実際								講義 佐藤 伸宏
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 課題による評価も成績に加味する )								)
成績評価基準	定期試験50% 課題成績50% (共に第1回～13回の内容)								
準備学習 学習への アドバイス	・1年次開講科目「音声言語医学」を復習しておくこと。(特に喉頭の解剖はおさえておくこと)								
教科書	城本修, 原由紀編:標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版.								
参考書	医療情報科学研究所:病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科学 第1版.								

科目名	運動性構音障害学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前・後期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	福山 聰一郎					実務経験	言語聴覚士として臨床経験15年		
授業概要	前期：ディサーミニアの分類・病態等について講義形式で学ぶ。 後期：ディサーミニアの臨床で行う検査・評価及び訓練手技について、講義形式に演習も交えて学ぶ。								
到達目標	発声発話と実現する神経・筋系のしくみを理解する。ディサーミニアの定義を把握し、タイプ・原因疾患・発話症状を理解する。 ディサーミニアにおける臨床の流れを理解する。ディサーミニアの治療法を理解し、適切な治療プランを立案できるようになる。 ディサーミニアに関連した国家試験問題に対応できるようになる。								
回 数	授業計画（内容）								授業形態 講師名
第1回	ディサーミニアとは何かを知る。 1.ディサーミニアを呈した症例の音声を聴いてみる。2.発話の生成過程について説明できる。 3.ディサーミニアの定義と障害構造を説明できる。								講義 福山 聰一郎
第2回	発話の生成にかかわる神経の仕組みについて理解する。 1.発声発話器官の運動制御に関する神経系（運動系）について説明できる。 ・錐体路系・錐体外路系・小脳系・下位運動ニューロン・筋系								講義 福山 聰一郎
第3回	2.運動系が損傷された場合の病態について説明できる。 ・錐体路系・錐体外路系・小脳系・下位運動ニューロン・筋系								福山 聰一郎
第4回	発声発話器官の機能及びその障害について理解する。 1.呼吸器系の機能及びその異常について説明できる。 2.呼吸器系の異常が発話に及ぼす影響を説明できる。								講義 福山 聰一郎
第5回	1.発声機能・鼻咽腔閉鎖機能及びその異常について説明できる。 2.発声機能・鼻咽腔閉鎖機能の異常が発話に及ぼす影響を説明できる。								福山 聰一郎
第6回	1.口腔構音器官の機能及びその異常について説明できる。 2.口腔構音器官の機能の異常が発話に及ぼす影響を説明できる。								福山 聰一郎
第7回	ディサーミニアのタイプごとの特徴を理解する。 1.弛緩性ディサーミニアの病変部位及び原因疾患を説明できる。2.弛緩性ディサーミニアの発話特徴を説明できる。 3.弛緩性ディサーミニアの重症度を説明できる。								講義 福山 聰一郎
第8回	1.痙性ディサーミニアの病変部位及び原因疾患を説明できる。 2.痙性ディサーミニアの発話特徴を説明できる。 3.痙性ディサーミニアの重症度を説明できる。								福山 聰一郎
第9回	1.失調性ディサーミニアの病変部位及び原因疾患を説明できる。 2.失調性ディサーミニアの発話特徴を説明できる。 3.失調性ディサーミニアの重症度を説明できる。								福山 聰一郎
第10回	1.運動低下性ディサーミニアの病変部位及び原因疾患を説明できる。 2.運動低下性ディサーミニアの発話特徴を説明できる。 3.運動低下性ディサーミニアの重症度を説明できる。								福山 聰一郎
第11回	1.運動過多性ディサーミニアの病変部位及び原因疾患を説明できる。 2.運動過多性ディサーミニアの発話特徴を説明できる。 3.運動過多性ディサーミニアの重症度を説明できる。								福山 聰一郎
第12回	1.UUMNディサーミニアの病変部位及び原因疾患を説明できる。 2.UUMNディサーミニアの発話特徴を説明できる。 3.UUMNディサーミニアの重症度を説明できる。								福山 聰一郎
第13回	1.混合性ディサーミニアの病変部位及び原因疾患を説明できる。 2.混合性ディサーミニアの発話特徴を説明できる。 3.混合性ディサーミニアの重症度を説明できる。								福山 聰一郎
第14回	まとめ これまでの講義内容を確認する。								講義 福山 聰一郎
第15回	まとめ 講義内で学習した内容に該当する国家試験過去問を解くことができる。								講義 福山 聰一郎

第16回	ディサースリアの評価・治療の流れについて理解する。 1.ディサースリアの評価・治療の流れについて説明できる。 2.失語症・発語失行との鑑別について説明できる。	講義 福山 聰一郎
第17回	ディサースリアの臨床で行う検査について理解する。 1.ディサースリアの臨床で行う標準的検査について説明できる。	講義
第18回	1.ディサースリアの臨床で行うその他の検査について説明できる。 2.検査結果のまとめ方について説明できる。	福山 聰一郎
第19回	ディサースリアの評価について理解する。 1.国際生活機能分類(ICF)に基づいたディサースリアの評価について説明できる。 2.ディサースリアに関連するその他の補足的評価について説明できる。	講義 福山 聰一郎
第20回	ディサースリアの治療概論について理解する。 1.クライアントとの関わり方について説明できる。 2.治療アプローチの分類と治療目標について説明できる。 3.脳卒中例への病期別に沿ったリハビリテーションを説明できる。	講義 福山 聰一郎
第21回	ディサースリアの臨床で行うアプローチについて理解する。 1.言語病理学的観点からの呼吸訓練にはどのような手技があるかについて説明できる。 2.上記の具体的な手技を実際に体験し、一層の理解を深める。	講義 演習
第22回	・姿勢の調整 ・脊柱、胸郭の可動域拡大訓練 ・呼吸筋力増強訓練 1.発声機能へのアプローチにはどのような手技があるかについて説明できる。 2.上記の具体的な手技を実際に体験し、一層の理解を深める。 ・声帯内転訓練 ・あくびーため息法 ・リーシルバーマンの音声治療 ・咀嚼法 等	
第23回	1.鼻咽腔閉鎖機能へのアプローチにはどのような手技があるかについて説明できる。	
第24回	1.口腔構音機能へのアプローチにはどのような手技があるかについて説明できる。 2.上記の具体的な手技を実際に体験し、一層の理解を深める。 ・舌、顔面下部、下頬の機能的訓練 ・構音訓練	
第25回	1.発話速度の調整法にはどのような手技があるかについて説明できる。 2.上記の具体的な手技を実際に体験し、一層の理解を深める。 ・ペーシングボード ・タッピング法 ・ポインティングスピーチ ・フレージング法 等	
第26回	1.プロソディーの訓練にはどのような手技があるかについて説明できる。 2.上記の具体的な手技を実際に体験し、一層の理解を深める。 ・リズムの訓練 ・ストレスの訓練 ・イントネーションの訓練 3.拡大・代替コミュニケーション(AAC)アプローチにはどのような手段、機器があるのかについて説明できる。	福山 聰一郎
第27回	模擬症例を経験し、ディサースリアのタイプ分類・問題点抽出・目標設定・訓練立案を行う。 1.症例の症状のまとめ(評価)ができる。 2.症例について問題点を抽出できる。 3.症例について目標設定ができる。 4.症例について訓練立案ができる。	演習
第28回		福山 聰一郎
第29回	まとめ これまでの講義内容を確認する。	講義 福山 聰一郎
第30回	まとめ 講義内で学習した内容に該当する国家試験過去問を解くことができる。	講義 福山 聰一郎
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
成績評価基準	筆記試験100%	
準備学習 学習への アドバイス	・講義の中で行う内容確認問題を中心に、復習を行うようにしてください。	
教科書	西尾正輝:ディサースリア 臨床標準テキスト. 医歯薬出版株式会社, 2022年	
参考書	西尾正輝:ディサースリアの基礎と臨床 インテルナ出版 2006年	

科目名	運動性構音障害学演習					学 科	言語聴覚学科					
年 次	2年次	分 野	専門	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	古賀 遼平					実務経験	言語聴覚士として臨床経験5年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年					
授業概要	Dysarthriaの検査・訓練を演習を通して学ぶ。											
到達目標	Dysarthriaの検査がスムーズに実施できるようになる。 Dysarthriaの訓練の流れをつかむ。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )							授業形態 講師氏名				
第1回	標準Dysarthria検査(AMSD)の概要について理解する。 教科書範囲:(ディサースリアの検査法とは)1-14頁 (標準ディサースリア検査の概要)15-21頁							講義 古賀 遼平				
第2回	標準失語症検査補助検査(SLTA-ST)の構音検査の概要について理解する。 顔面神経麻痺の検査(柳原法、House-Brackmann法、Sunnybrook法)の概要について理解する。※配布資料にて解説							講義 古賀 遼平				
第3回								古賀 遼平 講義・演習				
第4回												
第5回												
第6回	感染対策に留意した上で、学生同士でAMSDの評価手技が実施できる。 教科書範囲:(実施手続き)23-51頁											
第7回	※OSCE(実技試験)に向けたAMSDの評価手技の振り返りを、感染対策に留意した上で、学生同士で日々行うこと											
第8回												
第9回												
第10回	<症例情報(AMSD結果も含む)から実際に考えてみる> ※ワークシート等を用いて ・ディサースリア模擬患者の症例情報(AMSD結果も含む)から、必要な情報を抽出し、症例の問題点を把握できる。 ・把握した問題点を基に、症例に合わせた訓練立案、考察が出来る。							古賀 遼平 演習				
第11回	①模擬患者の情報から、基礎情報(一般的情報、医学的情報、主訴、他部門情報)を整理する。 ②模擬患者の基礎情報やAMSD結果から得た情報を、ICF表に整理する。 ③ICF表と基礎情報から、模擬患者の症状を列挙し、どういったディサースリアタイプかを考えて、まとめる。 ④ICF表と基礎情報から、症例の長期目標と短期目標を決定する。 ⑤決定した目標に合わせて、ディサースリアタイプに沿った訓練方法を選択し、まとめる。											
第12回	※講義を通して学んだ知識、技術を通して、言語聴覚士に必要な書類を書くことが出来ること。											
第13回	OSCE(実技試験)によるAMSDの評価手技の確認 ・講義を通して学んだ知識、技術を通して、模擬患者に対して検査及びまとめを実施できる。 ※14～15回は同日に実施予定							古賀 遼平 演習				
第14回	OSCE(実技試験)によるAMSDの評価手技の確認 ・講義を通して学んだ知識、技術を通して、模擬患者に対して検査及びまとめを実施できる。 ※14～15回は同日に実施予定											
第15回	OSCE(実技試験)によるAMSDの評価手技の確認 ・講義を通して学んだ知識、技術を通して、模擬患者に対して検査及びまとめを実施できる。 ※14～15回は同日に実施予定											
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 講義ごとのワークシート等も加味する )											
成績評価基準	実技試験50%、講義ごとのワークシートから50% ※実技試験の実施が困難な際は、講義ごとのワークシートと期末試験で評価する(開講冒頭で説明する)。											
準備学習 学習への アドバイス	講義内容(特に検査内容)は次の講義時に確認する為、講義ごとによく復習すること。 AMSD検査は臨床場面でよく使われる検査であるため、本番を想定し、感染対策に留意した上で、学生同士で必ずトレーニングを行うこと。 レポート作成にあたって、参考書等をよく読込んで、自分なりに評価・分析・診断の流れをイメージしておくこと											
教科書	1)西尾正輝:標準ディサースリア検査(AMSD)[新装版]. インテルナ出版, 2004											
参考書	1)西尾正輝:ディサースリアの基礎と臨床(第1巻～第3巻)、2)西尾正輝:ディサースリア 臨床標準テキスト. 医歯薬出版株式会社, 2007											

科目名	器質性構音障害学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専門	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名						実務経験			
授業概要	器質性構音障害の基礎知識、評価や治療について学び、チームアプローチの中での言語聴覚士の役割を考える								
到達目標	器質性構音障害の基礎知識を理解する 器質性構音障害の評価法を習得する								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	器質性構音障害の定義(発生メカニズムと特徴) 口唇口蓋裂の基礎知識(発声発語器官の概略、口唇口蓋裂の発生、口唇口蓋裂の発生頻度、口唇口蓋裂のタイプ、口唇口蓋裂の手術)								講義
第2回	鼻咽腔閉鎖機能、評価								講義 演習
第3回	鼻咽腔閉鎖機能の症例検討								講義 演習
第4回	構音障害① 構音の特徴と評価								講義 演習
第5回	構音障害② 症例検討								講義 演習
第6回	言語臨床① 口蓋形成術まで 発達、言語、他職種との連携について								講義 演習
第7回	言語臨床② 口蓋形成術から4歳まで 鼻咽腔閉鎖機能、構音、訓練、他職種との連携について								講義 演習
第8回	言語臨床③ 4歳から就学まで 鼻咽腔閉鎖機能、構音、訓練、他職種との連携について								講義 演習
第9回	言語臨床④ 就学以降 鼻咽腔閉鎖機能、構音、訓練、他職種との連携について 告知について								講義 演習
第10回	舌小帯強直症① 形態と機能、検査、構音、訓練								講義 演習
第11回	舌小帯強直症② 症例検討								講義 演習
第12回	口腔腫瘍① 舌・口腔底切除、顎切除による形態と機能について								講義 演習
第13回	口腔腫瘍② 発語器官等の評価、構音、訓練、他職種との連携について、症例検討								講義 演習
第14回	症例検討								演習
第15回	国家試験対策 国家試験の過去問の解説								講義
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験100%								
準備学習 学習への アドバイス	CDを繰り返し聞いてください								
教科書	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版、口蓋裂の構音障害(CD)								
参考書	口蓋裂言語検査								

科目名	機能性構音障害学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 門	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	今村 亜子					実務経験	言語聴覚士として臨床経験21年		
授業概要	機能性構音障害の基礎を音声学・音韻論と関連づけて理解する。他の構音障害との違いを理解し、改善を目標としたPLAN-DO-SEEの流れを身につける。系統的構音訓練の方針と方法を演習を通じて習得する。系統的構音訓練の方針と方法を演習を通じて習得する。								
到達目標	機能性構音障害への対応について理解し、立案、実施、評価を適切に行える知識と技術を身につける								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	機能性構音障の基礎を理解する 定義を、理解する。DSM5の語音症を理解する 機能的構音障害と他の構音障害との相違を理解する								講義
第2回	音声学・音韻論と関連づけて理解する 母音と子音の違い、子音を構音点。構音操作、有声/無声、口音／鼻音の観点から説明できる 音声と音素の違いを説明できる								講義
第3回	構音発達の概略を述べることが出来る 鑑別の視点を列挙することが出来る 構音類似運動検査を学び、実施できる。								講義 演習
第4回	評価の方法の習得(1) 単語検査、音検査、音節検査、文章検査を実施することができる。								講義
第5回	検査のまとめと分析 検査結果から立案する。 典型的な音声置換のタイプを理解する								講義 演習
第6回	系統的構音訓練の基本を理解する 単音、単音節產生の方法を理解し、演習する								講義 演習
第7回	初期の見立てを理解する。ケース報告の仕方を学ぶ。 誤りのタイプを理解する 求める反応について適切なイメージをもつ								講義
第8回	連續音節產生の訓練方法を立案し、実施する(発表) 発表を通じて、立案、実施、評価の重要性を習得する 教材づくりの基本を学ぶ								講義 演習
第9回	連續音節と単語レベルの練習の相違点を理解する 意味を意識させながら構音も上達する方法を考える 語音弁別課題について学ぶ								講義
第10回	単語段階の訓練方法を立案し、実施する(発表) 般化について学ぶ								演習 講義
第11回	機能性構音障害にみられる異常構音を理解する 単語段階以降の訓練方法について立案する。 絵本や物語、具体物など、各班に必要な教材について話し合う								講義 演習 グループ学習
第12回	事前に準備した教材を用いて般化を想定した訓練を立案し、発表する 句・短文、文章・会話の留意点を学ぶ								演習 講義
第13回	音声知覚の重要性を学ぶ 改善が長期化するケースについて学ぶ								講義 講義
第14回	各班の系統的構音訓練の流れについて会話レベルまで整理し発表する 各班の終了報告をレポートの形でまとめる								講義 演習
第15回	機能性構音障害が改善する理由を考察する まとめ								講義
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	定期試験70% レポート30%								
準備学習 学習への アドバイス	系統的構音訓練では、各段階でのポイントがあります。効果的に実施するための教材選定や作成については各班で話し合いながら、準備して下さい。								
教科書	・構音訓練に役立つ 音声表記・音素表記 記号の使い方ハンドブック 協同医書出版社(2016) 発声発語障害学第3版 医学書院(2021)								
参考書	言語聴覚療法臨床マニュアル(改訂3版)協同医書出版社(2014)、わかりやすい側音化構音・口蓋化構音の評価と指導法 学苑社(2,020)								

科目名	摂食・嚥下障害学 I (基礎)					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 单位	時 間数	30 時間
講師氏名	古賀 遼平					実務経験	言語聴覚士として臨床経験5年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	摂食・嚥下の生理学的メカニズム、病態について教科書や資料を用いて説明を行う。 摂食・嚥下障害の評価法について教科書や資料を用いて説明を行い、感染対策に十分留意した上で、学生同士で演習を行う。								
到達目標	摂食・嚥下における生理学的メカニズムを学び、摂食・嚥下障害の病態や、臨床現場で言語聴覚士に求められる事柄について理解する。 摂食・嚥下障害の評価について、その実施法と適応、結果の分析法を理解する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	オリエンテーション(講義の流れの説明)、摂食嚥下障害総論 ※摂食・嚥下運動の意義について理解する、摂食・嚥下障害が及ぼす問題点について理解する ※摂食・嚥下リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割について理解する								講義 古賀 遼平
第2回	摂食・嚥下運動に関わる器官の解剖について理解する 摂食・嚥下運動に関わる神経機構について理解する								講義 古賀 遼平
第3回									講義 古賀 遼平
第4回	嚥下の5期(認知期、口腔準備期、口腔期、咽頭期、食道期)における正常メカニズムについて理解する 誤嚥の問題点及び咳嗽反射のメカニズムについて理解する								講義 古賀 遼平
第5回	嚥下の5期の障害メカニズムとその問題について理解する 嚥下障害の3種(器質的、機能的、心因的)原因について理解する 球麻痺と偽性球麻痺の違いについて理解する								講義 古賀 遼平
第6回	フレンペルグ症候群や咽頭期の嚥下障害の特徴について理解する 3種(嚥下前、嚥下中、嚥下後)誤嚥のタイプについて理解する								講義 古賀 遼平
第7回	嚥下の5期の順に、正常な摂食・嚥下運動(咀嚼運動、食塊形成・送り込み運動、嚥下運動)について理解する 嚥下と発達/加齢について、まずは概要を理解する								講義 古賀 遼平
第8回	嚥下と発達/加齢について理解する(他に薬剤の影響や唾液、フレイルについても) ※出生から幼児期までの摂食・嚥下運動の変化について理解する ※加齢に伴う摂食・嚥下器官の解剖学的・生理学的变化、嚥下運動の変化について理解する								講義 古賀 遼平
第9回	嚥下スクリーニングテスト(反復唾液飲みテスト、改訂水飲み検査、フードテスト、頸部聴診法)の内容と方法を理解する 各種スクリーニング検査について可能な範囲で実施する								講義 古賀 遼平
第10回	嚥下造影検査(VF)の目的、実施方法等について理解する 嚥下造影検査(VF)における観察項目について理解する 多様な食形態について理解する								講義 古賀 遼平
第11回	嚥下内視鏡検査(VE)の目的、実施方法等について理解する 嚥下内視鏡検査(VE)における観察項目について理解し、嚥下造影検査(VF)との相違点について理解する 嚥下インテーク・スクリーニング作成ワーク①(概要説明と作成)								講義 古賀 遼平
第12回	リハビリテーションと栄養について理解する ※身体と栄養の関係、栄養の評価、嚥下と栄養との接点、実際に介入するにあたって 嚥下インテーク・スクリーニング作成ワーク②(頸部聴診とRSSTを体験、作成の続き)								演習 古賀 遼平
第13回	その他の嚥下機能評価について ※筋電図、超音波診断装置、嚥下CT、マノメリー(嚥下内圧)、肺シンチグラフィ、咳テスト、口唇閉鎖力測定器、舌圧測定など 嚥下インテーク・スクリーニング実施①								講義 古賀 遼平
第14回	代償的栄養摂取法の種類と特徴について理解する それぞれの栄養法のメリット・デメリットを理解する QOLの視点からみた言語聴覚士の役割について理解する								講義 古賀 遼平
第15回	嚥下インテーク・スクリーニング実施② 今までの学習内容のまとめ								演習 古賀 遼平
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	授業中の確認テストから50%、定期試験(50%)								
準備学習 学習への アドバイス	授業資料及び教科書を参考とし、予習・復習を行うこと。 スクリーニング検査、嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査に関しては学生同士や症例ビデオを使いながら各自でトレーニングを行うこと。 疑問点は極力残さず、質問等を活発に行うこと。								
教科書	才藤栄一・植田耕一郎:摂食嚥下リハビリテーション 第3版.. 医歯薬出版株式会社. 2016								
参考書	①青山寿昭:まるごと図解 摂食嚥下ケア. 照林社. 2017 ②藤田郁代:標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学【第2版】. 医学書院. 2021								

科目名	摂食・嚥下障害学Ⅱ(応用)					学 科	言語聴覚学科					
年 次	2年次	分 野	専 門	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間			
講師氏名	永江 信悟 他					実務経験	言語聴覚士として臨床経験7年、リハビリテーション養成校にて授業経験1年					
授業概要	摂食・嚥下障害に対する評価および訓練について講義形式で学び、模擬症例の評価や演習をおこない体験を行っていく。											
到達目標	摂食・嚥下障害に対する評価および訓練技法を学ぶ 模擬症例の観察・分析結果を参考に摂食・嚥下障害に対するアプローチについて総合的に考えられるようになる。 代償的な摂食法や手術的治療、気管切開などについて理解する。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	摂食嚥下障害について復習を行う 摂食嚥下リハビリテーションの目的について理解する。								講義 永江 信悟			
第2回	摂食嚥下障害の評価から訓練訓練までの流れを理解する。 インタークおよび情報収集について これから習う内容の動画視聴								講義 永江 信悟			
第3回	摂食嚥下障害の評価・訓練にともなうリスク管理について 急性期・回復期・生活期の各期での摂食嚥下リハビリテーションについて								講義 永江 信悟			
第4回	評価について① スクリーニング検査 聖隸式嚥下質問紙、RSST、水飲みテスト、フードテストおよびその他								講義 演習 永江 信悟			
第5回	評価について② 嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査およびその他の検査 重症度評価について								講義 永江 信悟			
第6回	評価について②演習 嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査の評価の実施								演習 永江 信悟			
第7回	間接嚥下訓練① 訓練方法と病態に応じた選定 講義および訓練の体験								講義 演習 永江 信悟			
第8回	間接嚥下訓練② 訓練方法と病態に応じた選定 講義および訓練の体験								講義 演習 永江 信悟			
第9回	直接嚥下訓練① 訓練方法と病態に応じた選定 直接嚥下訓練の進め方、食形態と水分調整について								講義 演習 永江 信悟			
第10回	直接嚥下訓練② 訓練方法と病態に応じた選定 手技、姿勢調整、食具等に関して								講義 演習 永江 信悟			
第11回	その他、摂食嚥下障害に関わることについて 誤嚥防止術と嚥下機能改善術、カニューレについて								講義 永江 信悟			
第12回	摂食・嚥下障害者の食物形態、栄養管理について復習する 摂食・嚥下障害者に対する代替栄養法、外科的治療について復習する								講義 永江 信悟			
第13回	症例ワーク(情報から必要な評価や訓練を検討) 第1回～第12回までの総括								講義 永江 信悟			
第14回	臨床現場における摂食嚥下障害の実際①								講義 中原 啓介			
第15回	臨床現場における摂食嚥下障害の実際②								講義 中原 啓介			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)			
成績評価基準	定期試験:80%、レポート20%											
準備学習 学習への アドバイス	摂食嚥下障害 I で学習した内容を復習して臨んでください。また実習時にも使用できるように演習も積極的に行っていきましょう。											
教科書	才藤栄一、植田耕一郎:摂食嚥下リハビリテーション 第3版.. 医歯薬出版株式会社. 2016											
参考書	①青山寿昭:まるごと図解 摂食嚥下ケア. 照林社. 2017 ②藤田郁代:標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学【第2版】. 医学書院. 2021											

科目名	吃音学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	見上 昌睦 夏目 尚					実務経験	夏目:言語聴覚士として臨床経験24年		
授業概要	吃音について理解するために、教科書や資料、ビデオ等を利用し、説明を行う。								
到達目標	吃音の定義、障害の発生メカニズム、症状など吃音に関する基礎知識を理解し、評価を実践できる。								
回 数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名
第1回	基礎知識1 吃音者の抱える問題								講義 夏目 尚
第2回	基礎知識2 定義、原因論								講義 夏目 尚
第3回	基礎知識3 吃音症状(1)－言語症状－								講義 夏目 尚
第4回	基礎知識4 吃音症状(2)－進展段階－								講義 夏目 尚
第5回	基礎知識5 吃音症状の評価とまとめ								講義 夏目 尚
第6回	基礎知識6 吃音以外の非流暢性について								講義 夏目 尚
第7回	基礎知識7 吃音者の社会学的理－逸脱の社会学から－								講義 夏目 尚
第8回	基礎知識8 吃音児者の立場から考える言語聴覚療法								講義 夏目 尚
第9回	各種指導・訓練法を理解する(総論) 環境調整法 幼小児期の環境上の問題、環境調整の方法を理解する								講義 見上 昌睦
第10回	環境調整法、間接法 環境調整法の実際について理解する 吃音児に対する遊戲療法や遊びの中で話しやすい状態をつくる指導について理解する								講義 見上 昌睦
第11回	直接的言語指導(小児) 吃音児に対する直接的言語指導の適用について理解する 吃音児に対する直接的言語指導の方法、環境調整や心理面の支援との併用について理解する								講義 見上 昌睦
第12回	直接的言語指導(成人) 流暢性形成法 主に小学校高学年～成人の吃音者に対する直接的言語指導(流暢性形成法)に焦点を当てた指導法について理解する								講義 見上 昌睦
第13回	直接的言語指導(成人) 吃音緩和法 吃音緩和法とその実施方法について理解する 統合的なアプローチについて理解する								講義 見上 昌睦
第14回	吃音に併存する問題と指導・支援・訓練法 吃音に併存する問題(構音障害、社交不安症等)と指導・支援・訓練法を理解する 神経原性吃音、クラタリングと指導・支援・訓練法を理解する								講義 見上 昌睦
第15回	吃音者のセルフヘルプグループと連携のあり方について理解する セルフヘルプグループやつどい等との連携による吃音支援のあり方について理解する 認知行動療法による指導・支援について理解する まとめ								講義 見上 昌睦
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	授業態度・課題レポート・最終試験の総合								
準備学習 学習への アドバイス	教科書の該当するページを読んで予習しておくこと。吃音者のセルフヘルプグループ等のホームページの閲覧や行事等への参加、吃音者の登場する小説や映画等にふれると吃音に関する理解がより深まる。								
教科書	言語聴覚療法シリーズ13 改訂吃音 都筑澄夫編著 建帛社 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第3版 シリーズ監修 藤田郁代 編集 城本修・原由紀 医学書院								
参考書	授業時に紹介する								

科目名	聴覚機能評価学					学科	言語聴覚学科		
年次	2年次	分野	専門	学期	前期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	森本 邦子					実務経験	言語聴覚士として臨床経験23年		
授業概要	小児で用いられる各種聴力検査の特徴や検査方法、検査時の注意点について学ぶ。また、検査結果の読み取り方を学ぶ								
到達目標	小児の聴力評価について学び、各種検査法について学び、早期診断、聴覚補償、早期療育へつなげができる力を身に着ける								
回 数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名
第1回	小児で用いられる聴力検査の種類と目的・特徴 ・難聴を疑われる小児の評価および評価目的を理解する ・各種検査法の概要および適応年齢を理解する								講義
第2回	乳幼児聴力検査1:聴性行動反応聴力検査BOA(方法と演習) ・小児の聴覚の発達および聴性行動を理解する ・様々な音の周波数帯と大きさを知り検査に生かす								講義 演習
第3回	乳幼児聴力検査2:視覚強化式聴力検査VRA(方法と演習) ・小児の聴覚の発達および聴性行動を利用した視覚強化式聴力検査について理解する ・実際の検査の様子を動画などで視聴し理解を深める								講義 グループ学習
第4回	乳幼児聴力検査3:条件検索反応聴力検査COR(方法と演習) ・小児の聴覚の発達および聴性行動を利用した条件検索反応検査について理解する ・実際の検査の様子を動画などで視聴し理解を深める								講義 演習
第5回	乳幼児聴力検査4:遊戯聴力検査PLAY・ピープショウ(方法と演習) ・小児の聴覚の発達および聴性行動を利用した遊戯聴力検査について理解する ・実際の検査の様子を動画などで視聴し理解を深める								講義 演習
第6回	乳幼児聴力検査のまとめ、小テスト								講義
第7回	他覚的聴力検査1:歪成分耳音響放射OAE(方法と演習) ・歪成分耳音響放射について理解し、説明する ・実際の検査の様子を動画などで視聴し理解を深める								講義 演習
第8回	他覚的聴力検査2:聴性脳幹反応検査ABR(方法と演習) ・聴性脳幹反応検査について理解し、実施できるようにする ・実際の検査の様子を動画などで視聴し理解を深める								講義 演習
第9回	他覚的聴力検査3:聴性定常反応検査ASSR(方法と演習) ・聴性定常反応検査について理解し、実施でいるようにする ・実際の検査の様子を動画などで視聴し理解を深める								講義 演習
第10回	他覚的聴力検査のまとめ、小テスト								講義
第11回	標準純音聴力検査:標準純音聴力検査(方法と演習) ・標準純音聴力検査を小児に行う際に注意することを知り実践できるようにする ・マスキングについて大枠で理解する。								講義 演習
第12回	語音明瞭度検査:幼児期における語音明瞭度検査(方法と演習) ・小児に行う語音明瞭度検査の目的と方法を理解する ・身体障害者手帳の際に小児に行う検査を実際に実習し、実践できるようにする								講義 演習
第13回	実技試験:小児で用いられる自覚的検査を検査者役・被験者役を想定して実演する。								講義
第14回	実技試験:小児で用いられる自覚的検査を検査者役・被験者役を想定して実演する。								講義 グループ学習
第15回	聴力検査の実際と鑑別診断、新生児聴覚スクリーニング事業について ・新生児聴覚スクリーニングの方法と目的を理解する ・初回の聴力検査をもとに鑑別疾患と鑑別に必要な検査を理解し、早期発見から聴覚補償、早期療育への支援を理解する								講義 グループ学習
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	小テスト:50%、グループ学習と実技試験50%								
準備学習 学習への アドバイス	聴覚機能評価に必要な小児の発達をしっかり理解しておくこと。各講義と演習を理解し、小テストでポイントを理解する事。								
教科書	標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」、聴力検査を行う人のための図解実用的マスキングの手引き								
参考書									

科目名	聴覚機能評価学					学科	言語聴覚学科		
年次	2年次	分野	専門	学期	前期	単位数	2 単位	時間数	60 時間
講師氏名	竹松 知紀					実務経験			
授業概要									
到達目標	・実践で使える検査法を修得する　・様々な検査法を理解する								
回数	授業計画(内容)								授業形態 講師氏名
第1回	前期の復習を行う 1.耳の構造の部位を列挙できる								講義 竹松 知紀
第2回	聴力検査を行う学ぶ 1.純音聴力検査・語音聴力検査を学ぶ								講義 竹松 知紀
第3回	マスキングを理解する 1.陰影聴取の原理を説明できる 2.気導骨導検査におけるマスキングの必要性を確認する								講義 竹松 知紀
第4回	マスキングを理解する 1.マスキング方法について確認する 2.マスキング量の決定ができる								講義 講義 竹松 知紀
第5回	自覚的聴力検査を行う 1.自記オージオメータによる難聴の種類の判断ができる 2.ABLB検査、SISI検査の説明ができる								演習 講義 竹松 知紀
第6回	" "								演習 講義 竹松 知紀
第7回	他覚的聴力検査を行う 1.インピーダンスオージオメータによる説明及び操作を行う 2.耳管機能検査、耳音響放射検査の説明ができる 3.聴性脳幹反応・聴性誘発反応検査を学ぶ								講義 演習 竹松 知紀
第8回	" "								講義 演習 竹松 知紀
第9回	" "								講義 演習 竹松 知紀
第10回	" "								講義 演習 竹松 知紀
第11回	聴力検査まとめ 1.接遇の大切さを理解し実践に応用できる 2.検査結果を見て評価ができる 3.小児、成人、高齢者の反応の違いを理解し実践に応用できる								講義 演習 竹松 知紀
第12回	聴力検査演習 1.オージオメータを操作し純音聴力検査、語音聴力検査を行う 2.被験者の立場を体験し、検査のスピードの重要性を体験する								演習 竹松 知紀
第13回	" "								竹松 知紀
第14回	" "								竹松 知紀
第15回	" "								竹松 知紀
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 実技 )								
成績評価基準	出席点・積極性(30%) 、 実技・レポート(70%)								
準備学習 学習への アドバイス	1学年で習った耳の解剖、音の伝わり方を頭に入れておくこと								
教科書	聴覚検査の実際								
参考書									

科目名	小児聴覚障害学 I (基礎)					学 科	言語聴覚学科					
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間			
講師氏名	北山 朱美 城丸 みさと					実務経験	北山:言語聴覚士として臨床経験27年 城丸:言語聴覚士として臨床経験40年					
授業概要	講義と演習を通して小児聴覚障がいの基本的評価・訓練の概要を学習する。											
到達目標	小児期の聴覚障害について次の点を学習し、実際の臨床に活かせるようにする。 ①新生スクリーニング等で発見されて間もない、乳幼児に対する聴力や発達の評価と支援 ②小児期の各年齢ごとの評価と支援内容 ③聴覚活用 ④視覚支援 ⑤補聴器、人工内耳 ⑥書記言語獲得への支援 ⑦保護者支援											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	新生児スクリーニングを理解する ・新生児スクリーニング方法、その後の対応について理解し説明する事ができる ・早期支援の概要・問題点を理解し説明する事ができる								講義 城丸			
第2回	小児の補聴器のフィッティングを学ぶ(人工内耳のマッピングの基礎) ・聴力検査の結果と補聴器のフィッティングの関係を知る ・小児の補聴器のフィッティングの方法と課題、人工内耳のマッピング方法を理解する。								講義 演習 城丸			
第3回	小児聴覚障がい児のコミュニケーション方法の概要を理解する ・現在使用されているコミュニケーションの概要とその方法を理解して説明する事ができる ・実際にそれぞれのコミュニケーション方法を体験する								講義 演習 城丸			
第4回	コミュニケーションの力を育てる方法を学ぶ ・コミュニケーションの力を育てる方法を理解する ・コミュニケーションの力を育てる方法を実際に体験し、支援計画を立てることができる								講義 演習 城丸			
第5回	聴覚学習の指導方法を学ぶ その1 ・聴覚活用の意義と方法を理解する ・聴覚活用に実際を学び支援方法を考えることができる								講義 演習 城丸			
第6回	聴覚学習の指導方法を学ぶ その2 ・聴覚活用・学習の具体的な段階を学ぶ ・実際のケースを学び、段階に応じた具体的な計画案を示すことができる								講義 演習 城丸(北山)			
第7回	視覚的支援の方法を理解する(補聴器と人工内耳の考え方の相違を理解する) ・視覚的支援の具体的な方法を理解する ・視覚的支援の具体的な支援計画を立てることができる								講義 演習 城丸			
第8回	年齢ごとの支援の概要を理解する 1(人工内耳の選択基準について) ・0歳～1歳児期の支援を理解し指導案が立案できる ・2～3歳児期の支援を理解し指導案が立案できる								講義 演習 北山・城丸			
第9回	年齢ごとの支援の概要を理解する 2(補聴器と人工内耳) ・3～4歳児期の支援を理解し指導案が立案できる ・5～6歳児期の支援を理解し指導案が立案できる(就学前の支援を理解する)								講義 演習 北山・城丸			
第10回	書記言語の重要性を学ぶ(補聴器と人工内耳) ・書記言語の重要性とその指導を理解する ・年齢ごとの指導案が立案できる								講義 演習 城丸			
第11回	人工内耳の支援を学ぶ ・小児の人工内耳を理解する ・支援の概要を学び、指導案が立案できる(補聴器との相違点)								講義 演習 城丸			
第12回	保護者支援を学ぶ ・保護者の心理の理解と支援の方法を学ぶ ・保護者への支援を疑似体験する								講義 演習 城丸			
第13回	支援・訓練計画立案を学ぶ ・個別対応の支援計画を学ぶ ・事例を通して保護者支援の実際を学ぶ								講義 演習 城丸			
第14回	関係機関・地域との連携を学ぶ ・保育園・幼稚園との連携を学ぶ ・就学先との連携を学ぶ								講義 演習 北山・城丸			
第15回	学童期の支援を学ぶ ・小学校、中学校の支援についての概要を学ぶ ・思春期～青年期の課題を学ぶ								講義 演習 北山・城丸			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 積極的な講義参加態度 )											
成績評価基準	試験、レポート、学習態度の3項目で評価											
準備学習 学習への アドバイス	聴覚障がい(児・者)に関する書籍や映画・TVを積極的に視聴し、多様なコミュニケーション手段を確認する。 講義では、自分自身の考えを表現することに積極的に取り組んでいただきたい。											
教科書	①標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」 ②聴覚検査の実際 ③言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説											
参考書	□言語聴覚療法シリーズ5 聽覚障害 I -基礎編・臨床編 □配布資料 □言語聴覚士テキスト □病気が見えるvol.13耳鼻咽喉科											

科目名	小児聴覚障害学Ⅱ(応用)					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	城丸 みさと					実務経験	言語聴覚士として臨床経験40年		
授業概要	聴覚障害児の発達・療育の知識を身につけるため、教科書で説明するとともにグループワークで教材発表をする。								
到達目標	聴覚障害児の評価、訓練、補償機器の選択など、基礎的知識を身につける。 療育における指導、支援を進めるための教材研究を行なう。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	小児聴覚障害の発見経緯を知る(復習:グループワーク) ・スクリーニング検査の目的と方法を説明できる。 ・スクリーニング後、どの様な流れになるか理解する。								講義 演習 城丸
第2回	家族指導と初期の療育について知る(グループワーク) ・難聴発見後、家族に何を伝えるべきか列挙する。 ・諸手続きにどの様なものがあるか知る。								講義 演習 城丸
第3回	聴覚検査の目的と検査方法を理解する。 ・BOA～純音聴力検査の目的と適応年令を解説する。 ・BOA、COR、VRA実演								講義 演習 城丸
第4回	教育理念の変遷とりハビリテーションを概観する。(グループワーク) ・教育の歴史を具体的に述べる。 ・グループでまとめて発表								講義 演習 城丸
第5回	教材(研究)を作製する—1(グループワーク) ・発達と遊びの関係を対応させる。 ・各発達段階における代表的な遊び								講義 演習 城丸
第6回	教材(研究)を作製する—2(グループワーク) ・“音”遊びの種類を年令対応で述べる。 ・聴覚学習の理論を理解する。								グループ学習 城丸
第7回	プログラムを立案する—3(グループワーク) ・0～1歳児の教材を作製する。 ・絵本の紹介								グループ学習 城丸
第8回	プログラムを立案する—4(グループワーク) ・ロープレイで発表する。 ・絵本の読み聞かせ								グループ学習 城丸
第9回	プログラムを立案する—5(グループワーク) ・2～3歳児の教材を作製する。 ・絵本の紹介・絵日記の紹介								グループ学習 城丸
第10回	プログラムを立案する—6(グループワーク) ・ロープレイで発表する。 ・絵日記の作成								グループ学習 城丸
第11回	プログラムを立案する—7(グループワーク) ・4～5歳児の教材を作製する。 ・絵本の紹介								グループ学習 城丸
第12回	プログラムを立案する—8(グループワーク) ・ロープлейで発表する。 ・絵日記の展開指導								グループ学習 城丸
第13回	小児～成人に至る聴覚障害をパノラマする。 ・難聴発見後の起こりうる諸問題を予測し、STとしての対応を述べる。 ・事例紹介								講義 グループ学習 城丸
第14回	国家試験の傾向を知る—1 ・グループワークで過去の問題を解き、疑問点を論議・確認する。 ・理解できていない部分を明確にし、国家試験の準備態勢を整える。								グループ学習 講義 城丸
第15回	国家試験の傾向を知る—2 ・グループワークで過去の問題を解き、疑問点を論議・確認する。 ・聴覚障害と発達との関係、その多様性について総合的に理解する。								講義 グループ学習 城丸
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( グループ発表 )								
成績評価基準	定期試験(80%)、グループ発表(20%)								
準備学習 学習への アドバイス	聴児の全体発達・言語発達を復習し、聴覚障がい児へのアプローチを考察すること。補聴器と人工内耳の違いを理解すること。 聴覚に障がいのある方と積極的に会う機会を設けて、コミュニケーションを体験する(手話の講習会、聴覚特別支援学校のイベント参加など)。								
教科書	<input type="checkbox"/> 聴覚検査の実際 口病気が見えるvol.13 耳鼻咽喉科 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説 <input type="checkbox"/> 標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」								
参考書	言語聴覚シリーズ5 聴覚障害 I -基礎編、 II -臨床編、配布資料、幼児用絵本各種、保育教材関連本								

科目名	成人聴覚障害学					学 科	言語聴覚学科		
年 次	2年次	分 野	専 閔	学 期	後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間
講師氏名	城丸 みさと					実務経験	言語聴覚士として臨床経験40年		
授業概要	成人聴覚障がい者に対する検査法、訓練手技等、器機・テキスト・資料を用いて説明する(主に中途失聴者、加齢性難聴者を対象に)。								
到達目標	成人期聴覚障がいの特徴を理解し、その多様性に対応できる知識を身につける。 聴覚検査法を習得し、評価及びリハビリテーションプログラムを立案出来る。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	リハビリテーションの流れを理解する。 ・STの役割を認識する。 ・インテーク聴取の際、必要な事項を列挙することが出来る。								講義 演習 城丸
第2回	成人聴覚(平行機能)障害の特徴を理解する。 ・先天性難聴と後天性難聴との違いを知る。 ・聴覚補償機器の種類とその適応(人工内耳、人工中耳等)。								講義 演習 城丸
第3回	成人聴覚障がいの検査の種類を知る—1 ・各検査の目的、原理、概要、手順について述べることができる。 ・中耳機能の検査、補充現象の検査								講義 城丸
第4回	成人聴覚障がいの検査の種類を知る—2 ・純音聴力検査と語音聴力検査の目的を知り、結果を解釈できる。 ・オージオグラムから難聴の種類を弁別し障害部位と聞こえの状態を推測する。								講義 城丸
第5回	成人聴覚障がいの検査の種類を知る—3 ・純音聴力検査を施行できる。 ・気導聴力検査と骨導聴力検査の手順、記録方法を理解する。								演習 グループ学習 城丸
第6回	成人聴覚障害の検査の種類を知る—4 ・語音聴力検査を施行できる。 ・スピーチオージオグラムを読み取り、障害を理解する。								演習 グループ学習 城丸
第7回	成人聴覚障害の検査の種類を知る—5 ・言語・心理・コミュニケーション等の評価について説明できる。 ・質問紙による評価方法を実施する。								講義 演習 城丸
第8回	成人聴覚障がい者への支援を知る—1 ・聴覚補償機器の種類とその適応について比較する。 ・聴覚情報処理障害について理解する。								講義 城丸
第9回	成人聴覚障がい者への支援を知る—2 ・コミュニケーションモードの種類を列挙し、それぞれの長短を理解する。 ・家族や関係者の支援指導につき理解する(環境調整等)。								講義 城丸
第10回	成人聴覚障がい者への支援を知る—3 ・手話・指文字・キュードスピーチ・読話を体験する。 ・各コミュニケーションモードの評価法について理解する。								演習 講義 城丸
第11回	成人聴覚障がい者への支援を知る—4 ・環境調整、社会福祉制度について説明する。 ・法律について理解する。								講義 城丸
第12回	中途失聴者の心理回復過程を知る。 ・訓練・評価の導入に際し、患者の心理に配慮することができる。								講義 城丸
第13回	聴覚障がい当事者の声を聞く。(外来講師) ・当事者の話を聞き、問題点やハンディキャップに対するSTとしての対応を考察する。 ・高等教育機関における難聴学生の実態と情報保障の方法について理解する。								講義 城丸
第14回	ライフステージを概観する。 ・聴覚障がい発症から社会復帰までの流れを展望することができる。 ・総まとめ								講義 城丸
第15回	国家試験問題の傾向を知る。 ・過去3年間の問題を解き、グループで学習する。 ・各自の理解できていない個所を明らかにし、復習する。								講義 グループ学習 城丸
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								
成績評価基準	定期試験(80%)、実技・演習(10%)、レポート(10%)								
準備学習 学習への アドバイス	聴覚検査の手順を予習し演習に備える。 聴覚障がい者とのコミュニケーションを積極的に行なう。								
教科書	□聴覚検査の実際 □病気が見えるvol.13耳鼻咽喉科 □言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説 □標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」								
参考書	配布資料、言語聴覚療法シリーズ5 聴覚障害 I -基礎編、 II -臨床編」								

科目名	言語聴覚障害評価学					学科	言語聴覚学科										
年次	3年次	分野	専門	学期	後期	単位数	3 単位	時間数	135 時間								
講師氏名	永江 信悟					実務経験	言語聴覚士として臨床経験7年、リハビリテーション養成校にて授業経験1年										
授業概要	言語聴覚療法の現場での演習を通じて言語聴覚障害の評価を修得する。学内で学んだ言語聴覚療法学の知識を応用し、言語聴覚的評価・診断を行う。																
到達目標	1. 実習施設における言語聴覚療法、および言語聴覚士の役割、機能を知る。 2. 対象者(児)を全体的に把握するために必要な評価法(情報収集、観察、面接、検査など)を身に付ける。 3. 評価に基づき、問題点の抽出と目標の設定を行う。 4. 言語聴覚士としての基本的態度を習得する。																
回数	授業計画(内容)							授業形態 講師氏名									
第1回																	
第2回																	
第3回																	
第4回																	
第5回																	
第6回	□ 障害がある方に関わる者としての態度を身につける。 ・人間性豊かな言語聴覚士を目指すと共に、専門職者への意識を高める。 ・演習(実習)を通して、自己の学習の到達点を確認し、自己研鑽を行う。																
第7回	□ 対象者(児)に対する総合的なリハビリテーションの中での言語聴覚療法の意義を考え、言語聴覚士の役割と機能を学ぶ。 ・言語聴覚士の日常業務全般の見学を行う。 ・言語聴覚士の臨床現場を「見学」「模倣」「実施」を行う。																
第8回	□ 対象者(児)が持つ様々な問題を全人間的にとらえる視点を養い、対象者及び家族との適切な関わり方ができる。 ・臨床記録・デイリーノートの作成 ・対象者(児)に必要な情報収集・評価・診断および問題点の抽出を行う。 ・上記を通して全体像の把握 ・評価、診断に合わせた目標の設定を行う。							臨床経験									
第9回	□ 施設及び多職種連携の見学体験 ・実習施設先における言語聴覚士とその他の職種との連携の見学																
第10回	□ 演習指導者の指導を受けながら、対象者の評価、問題点の抽出、評価報告を行う。 ・実習指導者から出された課題・レポートの作成 ・実習指導者からの指導																
第11回																	
第12回																	
第13回																	
第14回																	
第15回																	
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 提出物及び学院による評価 )																
成績評価基準	実習指導者による評価及び学院点の合計(100%)																
準備学習 学習への アドバイス	基本的な評価について事前に人を相手に十分練習しておくこと 学内でも常に臨床を意識した態度で知識の習得と技能の向上に努めること 個人情報の秘匿(SNS等も含む)及び院内でのリスク管理については必ず復習して臨む事																
教科書	なし																
参考書																	

令和5年度

# 授業計画（シラバス）集



専門学校

柳川リハビリテーション学院

言語聴覚学科 3年

2023

## 目 次

### 言語聴覚学科

#### 第3学年 【基礎分野】

障害児教育学 ..... 1

#### 【専門基礎分野】

老年学 ..... 2

関係法規 ..... 3

#### 【専門分野】

補聴器・人工内耳 ..... 4

臨床実習 ..... 5

#### 【選択必修分野】

拡大代替コミュニケーション学 ..... 6

言語聴覚障害研究法概論(セミナー) ..... 7

言語聴覚障害研究法実践(セミナー・研究法) ..... 8・9・10・11

科目名	障害児教育学					学科	言語聴覚学科						
年次	3年次	分野	基礎	学期	前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間				
講師氏名	今村 亜子					実務経験	言語聴覚士として臨床経験21年						
授業概要	障害児教育の変遷を歴史的に理解し、国際生活機能分類(ICF)の理念と枠組みを学ぶ。参加の制限、活動の制約の緩和という視点から、さまざまな可能性やアプローチを探る姿勢を身につける。グループワークでは、コミュニケーションに障害がある方への支援をする立場に立つことを前提に、他者の考えを理解し、自分の立場を伝える経験を積む。ST自身の言語・コミュニケーションスキルを向上させる。												
到達目標	障害がある子どもたちに対して、生活者としてのニーズを理解し、支援する方法を考える力を身につける。命のはじまりと終わりに関するさまざまな課題と向き合うために、バイオエシックスの考え方を学び、さまざまな角度から問題を分析、考察できるようになる。特別支援教育に対してSTが貢献できることを考え、相手にわかるように伝える力を身に着ける。												
回数	授業計画(内容)									授業形態 講師氏名			
第1回	障害の概念と教育の基本 ICFを理解する 特別支援教育とSTとの関わり①「考え方述べる」「他者の意見聞く」									講義 グループ学習			
第2回	インフォームド・コンセントとパターナリズム 実習の体験(コミュニケーションの諸相) 「聞く力」「対話する力」									講義 グループ学習			
第3回	知的障がいについての理解 知的障がいのある人たちの社会参加を考える、地域連携とライフステージ(1) 「対話する力」「永遠のこども」異なる考え方に対する受け止め)									講義 グループ学習			
第4回	盲ろう重複障害の理解と支援 ことばの鎖(入力の制約)。言語の二重分節性と線状性を理解する(ヘレン・ケラーとサリバン先生、福島智氏) 「書く力、200字要約」									講義 グループ学習			
第5回	重症心身障害の理解と支援・医療的ケア 意志決定、意思伝達について考える 「コミュニケーション手段(言語的、準言語的、非言語的)の使用」									講義 グループ学習			
第6回	肢体不自由の理解と支援 ことばの鎖(出力の制限)。重度の運動障害(クリスティ・ブラウン) AACの可能性									講義 グループ学習			
第7回	問題行動の見方と取り組み 子どもの行動の理解と支援 当事者の手記を読む、「読み解く力」									講義 グループ学習			
第8回	特別支援教育の理念と制度 発達の捉え方、子どもの権利条約 コルチャック先生の実話を考察する、「質問力」									講義 グループ学習			
第9回	医療、教育、福祉の連携 バイオエシックス(生命倫理学)の基礎を理解する 地域連携とライフステージ(2)									講義 グループ学習			
第10回	パリアフリーとユニバーサルデザイン 事例「みんなの個展 描いたよ！みてね展」の歩みと参加 「詩をつくる力」(おはなしボエムの取り組みから)									講義 グループ学習			
第11回	特別支援教育とSTとの関わり② 動物介在介入におけるアニマルセラピー 「傾聴力」「読み聞かせ(音読)」									講義 グループ学習			
第12回	特別な配慮を要するこどもたちの学校生活 LD, ADHD, ASDについて、ダウン症についての理解 「保護者への説明」									講義 グループ学習			
第13回	特別なニーズをめぐる国際動向 学習と発達の権利 「表現力」「伝達力」									講義 グループ学習			
第14回	ターミナル・ケア 命のはじまりとおわりについて モリー先生の実話を考察する 「スピーチ(もしも24時間)」									講義 グループ学習			
第15回	まとめ									講義			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )												
成績評価基準	定期試験70% レポート30%												
準備学習 学習への アドバイス	グループワークのテーマを事前に伝えます。あらかじめ調べたり自分の考えを整理して授業に臨んでください。よりよい話し合いができるために自分にできることを実践してください。												
教科書	「障害児教育を考える」茂木俊彦 岩波新書 ISBN978-4-00-431110-2												
参考書													

科目名	老年学					学 科	言語聴覚学科										
年 次	3年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 単位	時間数	15 時間								
講師氏名	大田 明英					実務経験											
授業概要																	
到達目標 古来人は不老不死を求めてきたが、「生老病死」は「生きとし生けるけるもの」の宿命である。国際障害分類1980年版 ICIDH (International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps) は2001年5月WHOにより、ICF(International Classification of Functioning, Disability and Health) に改訂された。2006年、我が国は世界に例のない超少子化、超高齢化、人口減少社会への路を歩み始めている。このような時代にあって、コメディカル・スタッフとしてのSTは、どのように関わることができるかを学ぶ。																	
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名								
第1回	加齢と年齢変化 1 ・高齢者の定義、人口動態 ・高齢者に特徴的な症候群と疾患								講義 大田 明英								
第2回	加齢と年齢変化 2 ・加齢に伴う生理機能(形態学的变化も含めて)								講義 大田 明英								
第3回	高齢者に特徴的な症候群と疾患 1 ・老年症候群 ・循環器疾患								講義 大田 明英								
第4回	高齢者に特徴的な症候群と疾患 2 ・呼吸器疾患 ・消化器疾患								講義 大田 明英								
第5回	高齢者に特徴的な症候群と疾患 3 ・内分泌代謝疾患 ・血液・免疫疾患								講義 大田 明英								
第6回	高齢者に特徴的な症候群と疾患 4 ・腎・泌尿器疾患 ・皮膚・口腔疾患								講義 大田 明英								
第7回	加齢に伴う年齢変化 3 ・運動機能								講義 OT学科教員								
第8回	高齢者に特徴的な症候群と疾患 5 ・骨・運動器疾患								講義 PT学科教員								
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )																
成績評価基準	定期試験100%																
準備学習 学習への アドバイス	最終講義終了後のペーパーテストによる																
教科書	使用なし																
参考書																	

科目名	関係法規					学 科	言語聴覚学科					
年 次	3年次	分 野	専門基礎	学 期	前 期	単位数	1 单位	時 間 数	15 時 間			
講師氏名	古賀 遼平					実務経験	言語聴覚士として臨床経験5年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年					
授業概要	言語聴覚士に関連の深い関係法令を学び、国家試験や臨床に役立つ知識を身につける。											
到達目標	わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を説明できる。											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )											
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療関係法令の推移、医療提供施設、医療関係資格及び保健福祉関係資格の業務</li> <li>・言語聴覚士法</li> </ul>											
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の概念、社会保障の体系と範囲</li> <li>・医療保険制度の構造及び保健診療の仕組み</li> </ul>											
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金制度の概要</li> <li>・介護保険制度の概要</li> <li>・労働者災害保償保険、雇用保険の概要</li> </ul>											
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会手当制度の概要</li> <li>・公的扶助制度の概要(生活保護法の目的、保護の補足性、保護の種類、費用等)</li> </ul>											
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の法律と施策および運用(社会福祉法の目的、福祉事務所の設置、社会福祉主事の職務等)</li> <li>・児童福祉法(児童福祉の基本原理、児童相談所、児童福祉施設等)</li> <li>・身体障害者福祉法(身体障害者の定義、身体障害者手帳制度等)</li> </ul>											
第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害者福祉法(療育手帳、知的障害者更生相談所等)</li> <li>・主要な障害者福祉関連法の変遷、障害者基本法、障害者総合支援法、精神保健福祉法、発達障害者理念法</li> </ul>											
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者権利条約</li> <li>・社会福祉援助技術(バイステックの7原則、直接的援助技術と間接的援助技術等)</li> </ul>											
第8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション概論、障害論、リハビリテーションの分野(教育リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーション、医学リハビリテーション、地域リハビリテーション)</li> </ul>											
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	授業中の確認テストから50%, 定期試験(50%)											
準備学習へのアドバイス	1年次の保健医療福祉制度論と重複する内容が多いため、復習しながら受講して欲しい。											
教科書及び参考書	森山幹夫:健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院 福田 素生:健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院 藤田 郁代・北義子・阿部晶子編:標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版. 医学書院. 2019 大森孝一 他(編):言語聴覚士テキスト 第3版 pp.226-250 社会福祉・教育学. 医歯薬出版株式会社. 2018											

科目名	補聴器・人工内耳					学 科	言語聴覚学科					
年 次	3年次	分 野	専 閔	学 期	前 期	単位数	1 单位	時 間 数	30 時 間			
講師氏名	飛松 葉子 和野 紗央里					実務経験	飛松:言語聴覚士として臨床経験18年 和野:言語聴覚士として臨床経験5年 リハビリテーション養成校等にて授業経験1年					
授業概要	難聴者のきこえの体験、補聴器の試聴、耳型採形などの実践的内容とする。 人工内耳については、仕組み、音声情報処理、プログラミング手法を理解し、その装用効果と装用指導を学習する。											
到達目標	1. 補聴器の構造と機能を理解できる 2. 補聴器特性の測定方法について理解できる 3. 補聴補助支援システムを理解できる 4. 人工内耳の構造と機能を理解できる 5. 人工内耳のマッピング法を理解できる											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )											
第1回	難聴者、補聴器を知る為の基礎知識 1.基礎学習の音響学、聴覚生理、聴覚心理学の復習 2.耳の構造と難聴について説明できる											
第2回	補聴器の歴史と概要 1.高齢難聴者の心理から補聴器適合への配慮が出来る 2.補聴器の種類毎のしくみ・特徴を説明できる											
第3回	補聴器の選択 1.補聴器利用者の年齢・聴力に対する適合を説明できる 2.補聴器の機種選択の提案ができる 3.聴覚補償の目標を設定できる											
第4回	補聴器の性能を確保するために、補聴器のJIS測定法を理解する 1.補聴器の性能とJISを関連づけられる 2.聴覚に対する補聴器フィッティング理論を適合できる											
第5回	補聴器の機能 1.最新のデジタル補聴器の機能を説明できる 2.リニア、ノンリニア方式を理解する 3.難聴者のラウドネスとノンリニア方式のフィッティング理論を関連付けられる											
第6回	補聴器のフィッティング 1.聴覚に対する補聴器フィッティング理論を適合できる 2.ハウリングのないように耳に合わせた耳栓を選択できる 3.補聴器の取扱説明と簡単なメンテナンスを行うことができる											
第7回	周辺機器とFMシステム 1.情報補償のための周辺機器を知る 2.ループやFMシステム、赤外線システムなどの違いを説明できる											
第8回	補聴効果測定 1.補聴器適合検査法の必須検査項目を述べることができる 2.補聴器の適合判定方法を行うことができる											
第9回	模型耳による耳型採形 1.模型耳で耳型採形を行うことができる 2.イヤモールドと音響特性の特徴を説明できる											
第10回	総まとめ											
第11回	人工聴覚器の種類、人工内耳の構造・機能 1.人工聴覚器の種類を知る。 2.人工内耳の構造と機能(音声処理方法)が説明できる。											
第12回	人工内耳の適応と手術 1.人工内耳手術の適応について説明できる。 2.術前術後のリハビリテーションの流れを説明できる。											
第13回	人工内耳の調整(マッピング) 1.人工内耳のマッピングについて説明できる。 2.人工内耳の効果、限界について理解できる。											
第14回	人工内耳の評価、(リ)ハビリテーション 1.人工内耳装用児者の評価方法を説明できる。 2.人工内耳装用児者の(リ)ハビリテーションの内容を理解する。											
第15回	まとめ											
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 實技試験 <input type="checkbox"/> 實習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	飛松⇒演習(30%)と期末試験(70%) 和野⇒期末試験100%											
準備学習 学習への アドバイス	【準備学習】講義日に次回講義分の教科書範囲を指定するので、講義日までに、予習しておくこと。(当日の復習も含め、60分程度) 【アドバイス】事前学習でも、講義内でも、質問があつたら、いつでも聞きましよう。講義日にフィードバックします。 聴覚障害の基礎課目と関連づけて学習すること。											
教科書	標準言語聴覚障害学 聴覚障害 医学書院											
参考書												

科目名	臨床実習					学 科	言語聴覚学科					
年 次	3年次	分 野	専 門	学 期	前・後期	単位数	12 単位	時間数	540 時間			
講師氏名	清水 珠美 他					実務経験	言語聴覚士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語聴覚士の日常業務全般の体験および臨床記録・報告書の作成を行う。</li> <li>・対象者(児)の評価・診断および、訓練・指導の計画立案と実施を行う。</li> <li>・症例・課題レポートの作成および学院での症例報告会にて報告を行う。</li> </ul>											
到達目標	<p>①各種言語聴覚障害に関する知識や評価技術を修得することができる。②収集した情報の統合・解釈を通して障害像を把握し、報告することができる。③講義や1・2年生次の演習・実習を通じて学んだ知識・技術・態度を統合し、言語聴覚士としての基本的な臨床能力と価値観を身につけることができる。</p>											
回 数	授業計画(内容)							授業形態 講師氏名				
実習前	実習前セミナー・オリエンテーション							講義				
実習中 6/19(月)～ 9/22(金)	<p>言語聴覚士の日常業務全般の見学・実施</p> <p>対象者(児)の言語聴覚療法の評価・診断の見学・実施</p> <p>対象者(児)の言語聴覚療法の訓練・指導の計画立案</p> <p>対象者(児)の言語聴覚療法の訓練・指導の見学・実施</p> <p>臨床記録・報告書の作成</p> <p>施設および他職種業務の見学</p> <p>デイリーノートや課題レポートなどの作成</p>							臨床経験				
実習後	実習後セミナー・オリエンテーション							講義 演習	清水 珠美			
成績評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (臨床実習期間中における学校評価項目による評価)											
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各実習施設において、実習指導者が規定の臨床実習成績報告書の各項目について5段階評価を行う。</li> <li>・臨床実習施設における臨床実習成績を核にして総合的に評価し、臨床実習の成績を算出する。</li> </ul>											
準備学習 学習への アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1, 2年次に履修した科目の内容について復習しておくこと。</li> <li>・講義で学んだ評価・検査の実施、記録方法について復習を行い、学生同士で練習を行っておくこと。</li> <li>・報告書、レポートの作成にあたり、情報収集の仕方や記載項目について確認を行っておくこと。</li> </ul>											
教科書	指定なし											
参考書												

科目名	拡大・代替コミュニケーション学					学 科	言語聴覚学科					
年 次	3年次	分 野	選択必修	学 期	前 期	単位数	1 单位	時間数	30 時間			
講師氏名	井手 将文 原田 航輔					実務経験	原田:作業療法士として臨床経験9年					
授業概要	講義とともに実技を行っていく。											
到達目標	<p>・道具を活用したコミュニケーション支援について学修する。コミュニケーションの具体的な支援策として、スイッチの製作演習を行い、残存機能を活用したスイッチによるコミュニケーションの、対象機器、残存機能の評価と選定、適合手順およびフォローアップなどについて解説する。また、応用としてパソコン操作やテレビゲーム操作に展開する。表出障害を持つ人と文字盤を使い行なう、対面コミュニケーション法について演習を行い解説する。</p> <p>・AACの意味を臨床場面や症例などを通してSTの支援の方向性を学ぶ。また、症例別に合わせた様々な技法を学ぶ</p>											
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名			
第1回	<p>アシスティブテクノロジーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援技術、テクニカルエイド</li> <li>・コミュニケーション支援機器</li> </ul>								講義 井手 将文			
第2回	<p>在宅ALSの症例より(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対面コミュニケーション(1)</li> <li>・文字盤を使わないコミュニケーション</li> </ul>								講義 井手 将文			
第3回	<p>在宅ALSの症例より(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対面コミュニケーション(2)</li> <li>・文字盤を使ったコミュニケーション</li> </ul>								講義 井手 将文			
第4回	<p>スイッチの製作実習(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型軽負荷スイッチの製作</li> </ul>								講義 井手 将文			
第5回	<p>スイッチの製作実習(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機器への応用</li> </ul>								講義 井手 将文			
第6回	<p>スイッチの適合(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン・テレビゲームへの適合</li> </ul>								講義 井手 将文			
第7回	<p>スイッチの適合(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤操作の低減法、適合の手順と留意点</li> </ul>								講義 井手 将文			
第8回	<p>自閉症スペクトラムに対する理解 コミュニケーションの特性について</p>								講義 原田 航輔			
第9回	<p>自閉症スペクトラムに対するアプローチ 応用行動分析(ABA)について ABAの基礎知識の理解 →拡大代替コミュニケーションの紹介・ABAの紹介</p>								演習 原田 航輔			
第10回	<p>自閉症スペクトラムに対するAAC PECSの理解</p>								講義 原田 航輔			
第11回	<p>自閉症スペクトラムに対するAAC(グループワーク) PECSの実践</p>								講義 原田 航輔			
第12回	<p>自閉症スペクトラムに対するAAC(グループワーク) PECSの実践②</p>								講義 原田 航輔			
第13回	<p>自閉症スペクトラムに対するAAC 機器体験</p>								演習 原田 航輔			
第14回	<p>脳性麻痺に対するAAC AT,AACの実践的活用</p>								講義 原田 航輔			
第15回	<p>脳性麻痺に対するAAC 当事者とのオンラインセミナー</p>								演習 原田 航輔			
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )											
成績評価基準	【井手】毎回のレポート内容、定期試験50% 【原田】定期試験50%											
準備学習へのアドバイス												
教科書	【井手】使用せず 【原田】自閉症児と絵カードでコミュニケーション—PECSとAAC第2版											
参考書												

科目名	言語聴覚障害学研究法概論(セミナー)					学 科	言語聴覚学科		
年 次	3年次	分 野	専門	学 期	前 期	単位数	1 単位	時 間 数	30 時 間
講師氏名	清水 珠美 他					実務経験	言語聴覚士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年		
授業概要	言語聴覚研究の概論を理解する。								
到達目標	言語聴覚研究の研究方法を理解できる。 言語聴覚障害領域の最新の研究と動向を理解する。								
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )								授業形態 講師氏名
第1回	研究とは何か 研究の進め方								講義 清水 珠美
第2回	データと測定								講義 清水 珠美
第3回	研究の種類								講義 清水 珠美
第4回	データの整理と分析								講義 清水 珠美
第5回	データの整理と分析								講義 清水 珠美
第6回	研究のまとめと発表								講義 清水 珠美
第7回	言語聴覚障害領域の最新の研究と動向について① 言語発達障害								講義 清水 珠美
第8回	言語聴覚障害領域の最新の研究と動向について② 言語発達障害								講義 福永 陽平
第9回	言語聴覚障害領域の最新の研究と動向について 失語症								講義 岩崎 裕子
第10回	言語聴覚障害領域の最新の研究と動向について 高次脳機能障害								講義 岩崎 裕子
第11回	言語聴覚障害領域の最新の研究と動向について 運動性構音障害								講義
第12回	言語聴覚障害領域の最新の研究と動向について 摂食嚥下障害								講義
第13回	言語聴覚障害領域の最新の研究と動向について 音声障害								講義 古賀 遼平
第14回	言語聴覚障害領域の最新の研究と動向について 吃音他								講義 福永 陽平
第15回	言語聴覚障害領域の最新の研究と動向について 聴覚障害								講義 清水 珠美
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )								)
成績評価基準	定期試験100%								
準備学習 学習への アドバイス	1、2年次の復習をよくしておくこと								
教科書	藤田郁代編:標準聴覚療法 評価・診断学 山田弘幸編:言語聴覚士のための心理学 第2版 深浦順一編:図解言語聴覚療法技術ガイド第2版								
参考書	1年次開講科目「統計学」の教科書、2年次開講科目「心理測定法」の教科書								

科目名	言語聴覚障害研究法実践(セミナー・研究法)					学 科	言語聴覚学科						
年 次	3年次	分 野	専 閔	学 期	後期	単位数	4 单位	時間数	120 時間				
講師氏名	清水 珠美 他					実務経験	言語聴覚士として臨床経験16年 リハビリテーション養成校にて授業経験3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>他学科の学生と模擬患者の関わる問題の解決方法を考える。</li> <li>臨床学習セミナーおよびスライド、抄録を用いた学会形式での症例報告を行う。</li> <li>言語聴覚療法の基礎的・専門的知識の復習および国家試験セミナーを行う。</li> </ul>												
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム医療・チームケアの意義を理解できる。</li> <li>実習で担当したケースを専門的・臨床的視点でまとめ、その内容について学会形式で発表することができる。</li> <li>国家試験に臨むに当たり基礎的・専門的知識について整理・統合し、言語聴覚士としての知識を身につけることができる。</li> </ul>												
回 数	授 業 計 画 ( 内 容 )									授業形態 講師氏名			
第1回	<b>3学科合同症例検討会 ①</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>模擬患者の診療情報提供書をもとに、言語聴覚士が把握しておくべき情報や評価内容を検討する。</li> <li>言語聴覚士としての評価の視点・項目と結果について、他学科学生にわかりやすく説明するための準備をする。</li> <li>他職種に関わる情報で、質問したい内容を検討する。</li> </ul>									グループ学習			
第2回													
第3回										古賀遼平 福永陽平			
第4回	<b>3学科合同症例検討会 ②</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語聴覚士としての評価の視点・項目と結果について、他学科学生にわかりやすく説明する。</li> <li>他学科の学生から得た情報を用紙に記入する。</li> <li>三職種(PT・OT・ST)の情報をもとに模擬患者の全体像を把握し、グループ内で共有する。</li> <li>言語聴覚士の視点で考えた問題点・目標についてグループ内で説明する。</li> <li>三職種(PT・OT・ST)からあがった問題点・目標についてグループ内で検討する。</li> <li>三職種間(PT・OT・ST)での短期・長期・最終目標に合わせ、言語聴覚士としてのアプローチ方法を考える。</li> <li>三職種(PT・OT・ST)のアプローチ方法から、医療チームとして連携できそうな点を検討する。</li> <li>医療チーム連携についてグループ内で話し合いをする。</li> </ul>									グループ学習			
第5回													
第6回													
第7回													
第8回										古賀遼平 福永陽平			
第9回	<b>気管内吸引</b> モデルを使った喀痰吸引の実際									講義 演習 境 めぐみ			
第10回	<b>感染予防対策</b> 感染予防対策のための衛生管理									講義 演習 境 めぐみ			
第11回	<b>画像の見方①</b> 脳血管疾患の画像所見									演習			
第12回	<b>画像の見方②</b> 脳血管疾患の画像所見									小出 佳典			
第13回	<b>リスクマネジメント</b>									清水 珠美			
第14回	<b>リスクマネジメント</b>									清水 珠美			
第15回	<b>国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)</b>									清水 珠美			

第16回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第17回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第18回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第19回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第20回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第21回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第22回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第23回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第24回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第25回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第26回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第27回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第28回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第29回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第30回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	

第31回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第32回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第33回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第34回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第35回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第36回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第37回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第38回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第39回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第40回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第41回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第42回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第43回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第44回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第45回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	

第46回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第47回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第48回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第49回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第50回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第51回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第52回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第53回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第54回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第55回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第56回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第57回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第58回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第59回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
第60回	国家試験学習(科目別対策講義、模擬試験など)	
成績評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> その他 ( )	)
成績評価基準	筆記試験 100%	
準備学習 学習への アドバイス	・言語聴覚士テキストを中心に学習し、基礎的・専門的知識の充実に努めること ・図解言語聴覚療法技術ガイドを用いて言語聴覚療法の評価の考え方、訓練方法についておさせておくこと ・臨床実習での経験、学習したことを振り返り、疑問点をまとめておくこと	
教科書	大森孝一他編:言語聴覚士テキスト 第3版 藤田郁代編:標準言語聴覚障害学シリーズ 深浦順一編:図解言語聴覚療法技術ガイド	
参考書	言語聴覚士陸管理ハンドブック	